

デスクトップクライアントユーザーガイド



コピーライト

©2006–2013 Celartem, Inc., doing business as Extensis. 本書ならびに本書に記載されているソフトウェアは著作権保護の対象であり、無断複製・複製・転載が禁止されています。本書または本書に記載されているソフトウェアの全部または一部を、Extensis の書面による承諾なしに複製することはできません。ただし、ソフトウェアの通常の利用やソフトウェアのバックアップ作成は除きます。この例外であっても他者に対する複製は許可されません。登録済みおよび申請中の米国特許に基づいてライセンス化されています。

Extensis は Extensis の商標です。Extensis のロゴ、Font Sense、Font Vault、NetMediaMAX、Portfolio、Portfolio Server、Suitcase、Suitcase Fusion、Universal Type、Universal Type Client、Universal Type Core は Extensis の商標です。NetPublish、Portfolio NetPublish、Type Server、Universal Type Server、WebINK は Extensis の登録商標です。Celartem、Celartem, Inc.、Celartem のロゴは、Celartem, Inc. の商標です。Adobe、Acrobat、Illustrator、InCopy、InDesign、Photoshop、PostScript、XMP は Adobe Systems, Incorporated の商標です。Apple、AppleScript、Bonjour、Bonjour ロゴ、iBooks、Mac OS、OS X、QuickTime、QuickTime ロゴ、Universal ロゴ、Xsan は、Apple Inc. の登録商標です。IOS は、米国およびその他の国における登録商標または Cisco の登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。Microsoft、Internet Explorer、PowerPoint、SQL Server、Visual Basic、Windows、Windows Vista は Microsoft Corporation の登録商標です。Intel、Intel Core、Pentium、Xeon は Intel の登録商標です。Oracle、Java は Oracle と関連会社の登録商標です。Google は Google Inc の商標です。Apache Tika、Apache Tomcat、Tomcat は Apache Software Foundation の商標です。Quark、QuarkXPress、XTensions、QuarkXTensions は、Quark Inc. の商標です。IBM、DataMirror は International Business Machines Corporation の商標です。その他全ての商標は各社が所有しています。Panasonic は Panasonic 株式会社の登録商標です。All other trademarks are the property of their respective owners.

MediaRich CORE Content On-demand Repurposing Engine © Copyright 2004–2013 Automated Media Processing Solutions, Inc. dba Equilibrium. All rights reserved. MediaRich CORE は自動コンテンツ処理、自動コンテンツ配信管理、コンテンツダイナミックビジュアルライゼーション、帯域幅やデバイスによるビジュアルメディアの最適化、デジタルメディアアセットのダイナミックオンデマンド生成について、米国特許番号 6,792,57、6,964,009、8381110 を取得しています。他の特許は申請中です。

MediaRich と Equilibrium は Automated Media Processing Solutions, Inc. の登録商標です。MediaScript と AMPS は Automated Media Processing Solutions, Inc. の商標です。

Extensis は、製品の購入日より 30 日間、通常の使用状況において、ソフトウェアが記録されているディスクに材質上および製造上の欠陥が無いことを保証します。製品を Extensis から直接購入し、30 日以内に障害が発生した場合、ディスクを Extensis に返送いただければ交換いたします。交換用に送付されたすべての製品は、交換の前に Extensis で登録する必要があります。販売店から購入した Extensis 製品は販売店によって保証され、販売店の返品規定の対象となります。この保証は交換に限定され、その他の損害を含みません。その他の損害には、利益の損失、特殊な要求、付随的な要求、その他の同様の要求などがありますが、これらに限定されるものではありません。本ソフトウェアは、「現状のまま」提供されます。上記の明示的な保証を除き、Extensis は、同梱のソフトウェアの品質、性能、商品性、または特定目的の適合性に関して、明示的または暗黙的を問わず他のいかなる保証もいたしません。



Portfolio Desktop Client 11.0.0

目次

コピーライト	2
目次	3
Portfolio Server へようこそ	7
Portfolio デスクトップクライアント	7
Portfolio Express	7
新機能	8
これまでのリリース	8
はじめに	9
システム要件とインストール	10
Portfolio のユーザーインターフェイス	11
カタログ	13
サーバーから提供されるカタログを開く	13
カタログプロパティの表示	13
アクセスレベルの理解と変更	13
ファイルのカタログ化	15
カタログにアイテムを追加	15
カタログからアイテムを削除	16
カタログ作成オプション	17
仮レコード	19
カタログ作成の詳細オプション	20
ギャラリー	26
デフォルトのギャラリー	26
標準のギャラリー	26
一時ギャラリー	26
スマートギャラリー	27
新しいウィンドウでギャラリーを開く (Mac のみ)	27
ギャラリーアイコンの参照	27
新しいギャラリーの作成	27
ギャラリーへのアイテムの追加	28
一時ギャラリー	28
ギャラリーからのアイテムの削除	29
ギャラリーの並べ替え	29
ギャラリーの自動的な並べ替え	29
ギャラリーの並べ替えのカスタマイズ	30
起動時にギャラリーを開く	30
ギャラリーの削除	30
ギャラリーの名前変更	30
ギャラリーのコピー	31
スマートギャラリーの作成	31

ギャラリーを公開または非公開に設定.....	32
表示.....	33
ギャラリー表示のカスタマイズ.....	34
フィールド表示のカスタマイズ.....	34
サムネールオプション.....	35
保存した表示.....	36
Portfolio によるファイルの管理.....	39
アイテムのプレビュー.....	39
アイテムのプロパティの表示と編集.....	40
オリジナルファイルの編集.....	41
ファイルの移動、コピー、削除.....	41
画像のバッチ変換.....	42
画像の回転.....	43
サムネールのみを回転.....	43
ファイル名を変更.....	44
別のファイルへ再リンク.....	44
カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアへドラッグ.....	45
アイテムの更新.....	45
ファイルを検索.....	47
クイック検索.....	47
検索コマンドの使用.....	47
パレットからの検索.....	51
複数のカタログを検索.....	52
カタログ作成のステータスによってファイルを検索.....	53
仮レコードアイテムの検索.....	53
書類のテキストの検索.....	53
消失ファイルの検索.....	54
プリント.....	55
単一ファイルのプリント.....	55
コンタクトシートのプリント.....	56
ギャラリーからのアイテムのプリント.....	56
オートシンク.....	57
フォルダパレットの表示.....	57
新しい監視フォルダの追加.....	58
監視フォルダのオートシンク設定の編集.....	59
監視フォルダの削除.....	59
監視フォルダの内容の表示.....	59
フォルダパレットによるファイルの移動.....	60
オートシンクによる新しいフォルダの作成.....	60
フォルダの同期.....	61
Finder または Windows エクスプローラへの切り替え.....	62
キーワード.....	63
キーワード入力を避ける方法.....	63
キーワードの追加.....	63

キーワードの削除.....	64
キーワードの表示.....	65
マスターキーワード.....	65
カスタムフィールド.....	67
キーワードとカスタムフィールド.....	67
カタログへのカスタムフィールドの追加.....	68
カスタムフィールドタイプ.....	68
カスタムフィールドをパレットとして表示.....	69
フィールド値をパレットを使用して割り当てる.....	69
フィールド値の編集コマンドを使用.....	69
カテゴリー.....	70
新しいカテゴリーの作成.....	71
カテゴリーの削除.....	71
アイテムをカテゴリーにリンクする.....	71
アイテムを指定のカテゴリーに表示.....	71
アイテムをカテゴリーから削除.....	72
カテゴリーに基づいたフォルダーを作成.....	72
ファイルの配布.....	73
ファイルの電子メールによる送信.....	73
ファイルのディスクへの書き込み.....	73
ファイルの収集.....	75
Web ページの作成.....	77
ウェブページの配信.....	82
スライドショー.....	84
スライドショーの作成.....	84
スライドショーのオプションを設定.....	85
スライドショー中にファイルを編集.....	85
スライドショーの自動開始.....	85
スライドショーの QuickTime ムービーへの保存.....	86
Portfolio Express.....	87
Portfolio Express を起動.....	87
Portfolio Express でカタログを開く.....	88
Portfolio Express を使用した検索.....	88
Portfolio Express を使ってファイルにアクセス.....	89
Portfolio Express のホットキーを設定.....	89
Portfolio Express を自動的に起動.....	90
成功事例.....	91
効率的なワークフローの定義.....	91
ワークグループ環境での Portfolio 設定.....	91
使用するカタログの数.....	92
ファイルの整理.....	93
カタログの管理.....	95
デフォルトフィールド値.....	95

カタログの起動時オプションの設定	95
カスタムのスプラッシュスクリーンを追加.....	96
データのインポートとエクスポート	96
破損したカタログの修復.....	98
公開されたカタログの管理.....	99
スクリプトを使った Portfolio の自動化.....	99
カスタムカタログタイプ.....	99
環境設定	100
ダブルクリック設定.....	100
ツールバーをカスタマイズ.....	100
環境設定ダイアログボックス.....	100
用語集.....	102
連絡先.....	118
索引.....	119

Portfolio Serverへようこそ

Portfolio Server は、デジタルアセットのライブラリ全体を、オンラインでもオフラインでも、視覚的に体系化して、並べ替え、およびプレビューすることを可能にします。素早くメタデータを埋め込み、アーカイブし、パートナーやクライアント、ベンダーとアセットを共有することが可能です。

Portfolio Server には、サーバー管理ウェブアプリケーションと、ウェブブラウザでアクセスできるウェブクライアント、Mac/Windows 用のデスクトップクライアントと Express アプリケーションが用意されています。

- サーバー管理アプリケーションでは、サーバーの管理、カタログの作成、ユーザーアカウントやアクセスの管理が行えます。
- Portfolio ウェブクライアントとデスクトップクライアントは、カタログにアセットを登録したり、メタデータの適用、検索、複数フォーマットによるアセットのダウンロードなどが行えます。
- Portfolio Express アプリケーションは、他のアプリケーション利用時にアセットをドラッグ&ドロップすることができます。

各アプリケーションには検索可能なオンラインヘルプが用意されています。ブラウザベースのサーバー管理とウェブクライアントは、ブラウザウィンドウの右上のヘルプをクリックしてください。デスクトップクライアントアプリケーションでは、ヘルプメニューからヘルプを開くことができます。

ヘルプページでは、画面左のパネルにコンテンツや目次が用意されています。また特定の用語を検索することもできます。また多くのページには関連トピックスへのリンクも用意されています。

Portfolio デスクトップクライアント

デスクトップクライアントは、Mac OS X や Windows のアプリケーションからアセットの登録、アクセスを行えます。

カタログへのアクセス権限によって、Portfolio デスクトップクライアントで行えることが変わります：

- ファイルをカタログに登録する
- **ファイル情報の編集**：カタログに登録されたアイテムのキーワードやメタデータの追加
- ギャラリーやスマートギャラリーを利用したアセット管理
- アセットの検索
- **オリジナルファイルを開く**：表示、コピー、ドキュメントにドラッグ、作成されたアプリケーションで編集などが行えます。
- **アセットの配信**：メール用に自動リサイズ、アセットの収集、ディスクへの焼き込み、NetPublish ウェブサイトへの書き出しなどが行えます。

デスクトップクライアントを使ったカタログ管理：

- メタデータマッピング
- カタログ詳細オプション
- オートシンクフォルダの設定
- カスタムフィールドの作成と編集

Portfolio Express

Portfolio Express はカタログ内のアセットにアクセスできるフローティングパレットです。アセットの検索、オリジナル画像を開く、他のアプリケーションへのドラッグ&ドロップなどが行えます。

Portfolio Express を利用する：

- **Portfolio Express** を起動
- **Portfolio Express** を自動的に起動
- カタログを開く
- **Portfolio Express** ホットキーの設定
- **Portfolio Express** で検索する

新機能

Portfolio デスクトップクライアントは、Portfolio Server の新機能をサポートしています。

- **メタデータの拡張**：Portfolio では、IPTC Photo Metadata standard (IPTC4XMP/) と、PLUS (Picture Licensing Universal System) XMP ネームスペースをサポートしました。
- **ファイルパスからのキーワードの拡張**：カタログ詳細オプションダイアログで、ファイル名、上位フォルダ、フォルダ構造、ボリューム、サーバー名などのアイテムパスから、選択してキーワードを生成することができるようになりました。
- **新規サポートファイルフォーマット**：我々は Panasonic P2 MXF ビデオのサポートだけでなく、新しい Camera Raw 形式を追加しました。

サポートしているファイルフォーマットやカメラは、Extensis ウェブサイト

(<http://www.extensis.com/downloads/documents/supported-file-formats-camera-models/>) から“Supported File Formats and Camera Models”PDF をダウンロードしてご確認ください。

リリースノート、システム動作環境、ドキュメントダウンロードは、Extensis のウェブサイトドキュメントダウンロード (<http://www.swtoo.com/product/extensis/portfolio/document.html>)を参照してください。

これまでのリリース

Portfolio Server と Portfolio デスクトップクライアントの最近のリリースでは以下の機能が追加されています。

- Office ドキュメント PDF のカタログ登録の改善のためのファイル処理の拡張
- 新規 Camera Raw フォーマットと、プロビデオコーデックのサポート
- デスクトップクライアントのプレビューメソッドの改善、サポートアプリケーションを使ったビデオ/オーディオフォーマットのプレビューのサポート拡張
- ネットワークログイン認証を使ってカタログへのアクセスを可能にする LDAP サポート
- NetMediaMAX を使ったメタデータ埋め込みとオートシンクを使ったカタログ化の高速化
- ビデオサムネールの自動生成

はじめに

Portfolio は、デジタルファイルに関する情報を、扱いやすい視覚的なカタログに保存することによってファイルを整理するのに役立ちます。ファイルを探すのに深い階層のフォルダを探したり、必要な画像を見つけるために文書を次から次へと開いたりする代わりに、Portfolio でサムネールサイズのプレビューをすばやく参照したり、Portfolio の強力な検索エンジンを使用して必要なアイテムの検索を実行したりできます。

カタログ：ファイルはカタログ化 (Portfolio カタログに追加) する必要があります。これによって、Portfolio はファイルの検索、プレビュー、および追跡が可能になります。

- **新しいカタログの作成** (*Portfolio 管理ガイド*または Portfolio Server 管理オンラインヘルプを参照)
- **カタログにアイテムを追加** (ページ 15)

カスタマイズ：必要な情報の検索と表示を容易にするために、カタログの外観を定めます。

- **新しいギャラリーの作成** (ページ 27)
- **ギャラリー表示のカスタマイズ** (ページ 34)

アクセス：Portfolio 内でのプレビュー表示、他のディスクへのコピー、Photoshop などのプログラムへのドラッグ、作成された元アプリケーションで開く等ができます。

- **アイテムのプレビュー** (ページ 39)
- **オリジナルファイルの編集** (ページ 41)

整理：Portfolio 内の機能を使用して、キーワード、説明、その他のカスタムデータを追加することにより、ファイルをグループ化、整理、およびカテゴリ化することができます。

- **キーワード** (ページ 63)
- **カスタムフィールド** (ページ 67)
- **カテゴリ** (ページ 70)

検索：検索するカタログファイル名の単語またはフレーズを入力すると、直ちにアクセスできます。Portfolio に自動的に保存されている幅広い検索タイプを使用して検索します。

- **クイック検索** (ページ 47)
- **検索コマンドの使用** (ページ 47)

配布：電子メール経由で自動的にサイズ変更されたファイルを送信し、CD または DVD に直接書き込み、ウェブページとして出版します。Portfolio はほとんどの配布関連のタスクを自動化します。

- **ファイルの電子メールによる送信** (ページ 73)
- **ファイルのディスクへの書き込み** (ページ 73)
- **Web ページの作成** (ページ 77)
- **ファイルの収集** (ページ 75)
- **スライドショー** (ページ 84)

システム要件とインストール

最新の情報は、ドキュメントダウンロード (<http://www.swtoo.com/product/extensis/portfolio/document.html>)Extensis のウェブサイトでご確認ください：

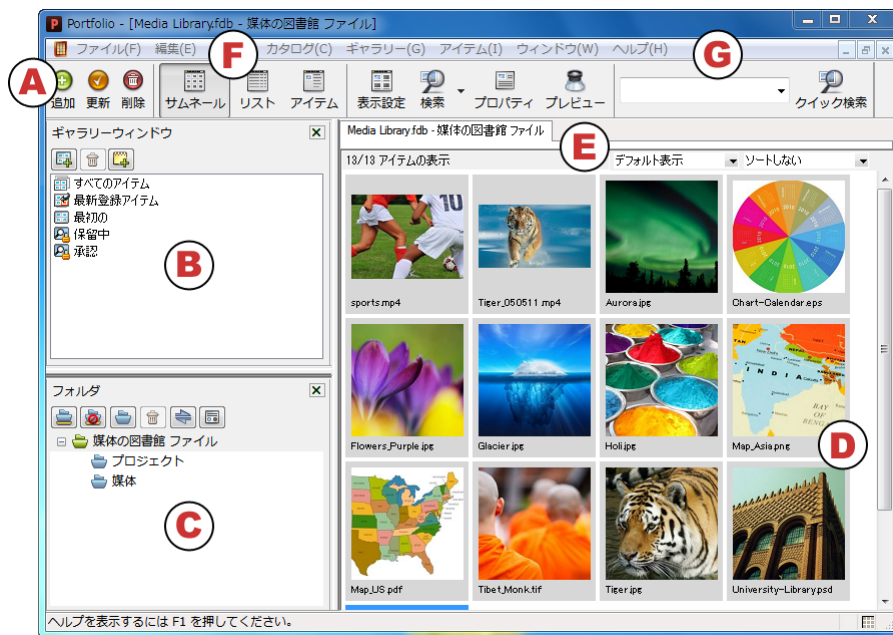
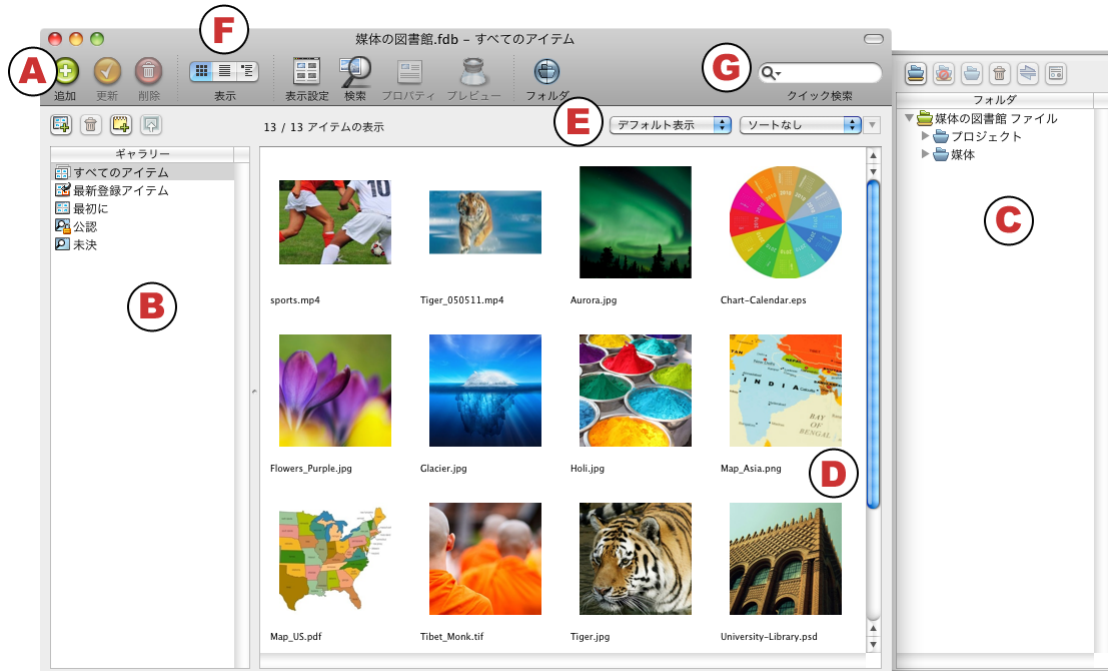
Portfolio デスクトップクライアントをインストールするには：

1. Extensis のウェブサイトドキュメントダウンロード (<http://www.swtoo.com/product/extensis/portfolio/document.html>)から最新のインストーラをダウンロードします。
2. インストーラアイコンをダブルクリックします。
3. 画面の指示に従って進みインストールを完了します。

デスクトップクライアントは何台のコンピュータでもインストールが行えます。デスクトップクライアント自体にはシリアル番号の入力は不要です。

Portfolioのユーザーインターフェイス

Portfolio のユーザーインターフェイスは、カタログ作成、ファイルの検索および使用がすばやく行えるように設計されています。Portfolio のユーザーインターフェイスの主要部分は以下の通りです。



A	ツールバー	E	Saved View and Sort menus
B	ギャラリーパネル	F	View buttons
C	Folder View drawer/pane	G	QuickFind
D	Main Window		

ツールバー

ツールバーでは、ボタンをクリックして最も頻繁に使用されるメニューコマンドにアクセスします。ツールバーをカスタマイズして、要望に合わせてボタンを増やしたり、または少なくすることが可能です。詳しくは、[ツールバーのカスタマイズ 100 ページ](#)のを参照してください。

ギャラリーパネル

Portfolio のカタログに含まれるものはすべて、少なくとも 1 つのギャラリーに一覧表示されます。ギャラリーでは、カタログ内でファイルの論理的なコレクションを作成できます。ギャラリーはカタログのすべてのユーザーが使用できるように、または個人だけが見られるように作成できます。ギャラリーは、特殊なスマートギャラリーへ変換することもできます。スマートギャラリーでは保存済みの検索条件に基づいて自動的にギャラリーを見つけて更新します。ギャラリーについての詳細は、[Galleries on page 26](#) を参照してください。

フォルダパレットパネル/ウィンドウ

「フォルダパレット」パネル/ウィンドウでは、Windows Explorer または Macintosh Finder 経由で、フォルダおよびファイルにアクセスできます。Microsoft Windows では、「フォルダパレット」は、「ギャラリー」パレットのすぐ下にある、ウィンドウのパネルに表示されます。Mac では、ウィンドウで Portfolio 側をオフにしたときに表示されます。「フォルダパレット」に追加されたフォルダは、オートシンクと呼ばれる処理を通じて自動的にカタログと同期します。フォルダ表示とオートシンクについての詳細は、[オートシンク 57 ページ](#)のを参照してください。

メインウィンドウ

現在選択されているギャラリーまたはフォルダパレットのフォルダ内のアイテムは、メインウィンドウに表示されます。Windows では、アイテムをプレビュー、またはダブルクリックしてギャラリーを開いたときに、メインウィンドウの一番上にあるタブに表示されます。Mac では、アイテムをプレビューしたとき、またはダブルクリックしてギャラリーを開いたときに、新しいウィンドウに表示されます。

保存済みの表示メニューおよび並べ替えメニュー

「保存済みの表示メニュー」および「並べ替え」メニューはメインウィンドウの右上に表示されます。これらのメニューでは、現在開いているギャラリーの表示方法を変更して、並び替えをすることができます。カスタム表示の作成についての詳細は、[カスタム表示の保存 36 ページ](#)のを参照してください。並び替えメニューの使用についての詳細は、[ギャラリーの並べ替え 29 ページ](#)のを参照してください。

表示ボタン

ツールバーの表示ボタンでは、3 つの基本的なギャラリーの表示タイプをすばやく切り替えることができます。サムネール表示、リスト表示、およびアイテム表示です。各ギャラリーの表示は完全にカスタマイズ可能で、Portfolio が検索できるどのフィールドデータも表示することができます。詳しくは、[Views on page 33](#) を参照してください。

クイック検索

ツールバーのクイック検索 ボックスでは、共通のフィールド値を検索することで、カタログでファイルをすばやく検索することができます。要望に応じて「クイック検索」ツールをカスタマイズすることが可能で、ほとんどの Portfolio フィールドを検索することができます。詳しくは、[クイック検索 47 ページ](#)のを参照してください。

カタログ

サーバーから提供されるカタログを開く

Portfolio Server から提供されるカタログを開くには、まずサーバーに接続する必要があり、その後カタログを開きます。

1. ファイル > サーバー接続を順に選択します
2. Portfolio サーバーをサーバーリストに追加していない場合、サーバーの追加をクリックして、Portfolio Server の名前と IP アドレスを入力し、次に OK をクリックします。IP アドレスとサーバー名を取得するには、Portfolio Server 管理者に連絡してください。
3. サーバーに接続ダイアログボックスで、サーバー名の隣にある[+]アイコンをクリックして提供されるカタログのリストを表示します。
4. 開くカタログをクリックして選択します。
5. カタログを開くをクリックします。

カタログプロパティの表示

カタログ > プロパティを選択してカタログプロパティダイアログボックスを開くことで、任意のカタログに関する一般的な情報および統計を表示できます。カタログプロパティダイアログボックスでは以下の処理を行うことができます。

- カタログ内のアイテムの総数、使用されているキーワードの総数、ディスク上のカタログサイズ、作成日、その他の詳細を得る。
- ディスク上のカタログファイルへのパスを表示およびコピーする。
- カタログ内で使用されているすべてのキーワードとその頻度を表示する。これを行うには、統計タブを選択し、計算 (Mac) または今すぐ計算 (Win) ボタンをクリックします。Portfolio は各キーワードを一覧表示し、各キーワードが割り当てられているカタログ化済みアイテムの数を示します。
- 文書内で使用されているすべてのキーワードをテキストファイルに保存する。まず計算ボタンをクリックして、キーワードリストを生成します。次に、キーワードのエクスポート (Mac) 、またはキーワードの保存 (Win) をクリックして、リストをテキストファイルとして保存します。
- カタログの並べ替え言語を表示する。

アクセスレベルの理解と変更

アクセスレベル

カタログのアクセスには、管理者、発行者、編集者および閲覧者の 4 つのレベルがあります。各レベルでは、ユーザーは異なった Portfolio の機能にアクセスします。

閲覧者

閲覧者として、アイテムを表示、検索、プレビュー、およびコピーできますが、カタログ内の変更は一切できません。これは、閲覧専用モードです。

編集者

編集者モードのときは、カタログ化されたアイテムの検索、プレビュー、およびアイテムに関する情報のアクセスおよび編集が可能です。しかし、カタログへのアイテムの追加、ファイル名の変更、またはアイテムのウェブや QuickTime ムービーへのエクスポートを行うことはできません。

発行者

発行者は、カタログ内のアイテムを追加、削除、エクスポート、および編集できますが、新規カスタムフィールドの作成、マスターキーワードリストの作成といった管理者機能を使用できません。

管理者

このモードは、すべての機能に対する完全なアクセスが可能です。カタログ管理者はカスタムフィールドの作成、カタログ作成の制御といった他のユーザーが不可能な処理を行うことができます。カタログが管理者モードで開いているときは、他のユーザーはカタログを一切使用できません。

カタログアクセスレベルの変更

アクセスレベルを変更する：

1. カタログメニューからアクセス権のレベルを選ぶか、Command-J (Mac) または Ctrl-J (Windows) を押して、アクセス権のレベルダイアログを開きます。
2. アクセス権のレベルドロップダウンメニューからレベルを選択します。

注意：

カタログが別のユーザーによって開かれているため、アクセスレベルを変更できないというエラーが表示された場合で、他にカタログを開いている人がいないと思われる場合は、Portfolio Express パレット内のカタログを閉じてください。

3. 必要な場合はパスワードを入力して **OK** をクリックします。

ファイルのカタログ化

カタログにアイテムを追加

Portfolio を使用してファイルの整理と追跡を行うためには、まずアイテムファイルを Portfolio カタログに追加する必要があります。Portfolio カタログにアイテムを追加するには、カタログに対して、発行者または管理者のアクセス権を持っている必要があります。

個別のファイル（JPEG 画像や EPS グラフィックなど）、フォルダ、またはボリューム全体（ハードドライブ、CD-ROM、DVD など）をカタログ化できます。Portfolio カタログにアイテムを追加する方法は 4 つあります。



重要

Portfolio Server はカタログ作成するファイルへのアクセスを持っている必要があります。


ドラッグ&ドロップ

1. ファイル、フォルダ、またはディスクを、開いているカタログウインドウの中にドラッグするだけで、カタログ化します。
2. 適切なカタログ作成オプションを設定して、**OK** をクリックし、カタログにファイルを追加します。

オートシンク

1. コンピュータまたはネットワークから、Portfolio のフォルダパレットにフォルダを追加するには、フォルダパネルで、監視フォルダの追加  ボタンをクリックします。
2. 同期  ボタンをクリックして、選択したフォルダのコンテンツをカタログ化します。詳しくは、**オートシンク 57 ページ**のをご覧ください。

追加ボタン

1. Portfolio のメインツールバーの追加ボタン  をクリックします。
2. 開くダイアログボックスで任意のファイル、フォルダ、またはディスクを選択します。フォルダまたはディスクを選択する場合、サブフォルダを含めるオプションを有効にして、選択したフォルダまたはディスクボリュームにネストされているフォルダ内のすべてのファイルをカタログ化できます。
3. 適切なカタログ作成オプションを設定して、**OK** をクリックし、カタログにファイルを追加します。

カタログメニュー


1. **カタログ > アイテムを追加**を選択します。
2. 開くダイアログボックスで任意のファイル、フォルダ、またはディスクを選択します。フォルダまたはディスクを選択する場合、サブフォルダを含めるオプションを有効にして、選択したフォルダまたはディスクボリュームにネストされているフォルダ内のすべてのファイルをカタログ化できます。
3. 適切なカタログ作成オプションを設定して、**OK** をクリックし、カタログにファイルを追加します。

高速カタログ作成

上記の任意の方法でファイルを追加する場合、Portfolio は 2 ステップの高速カタログ作成を利用して、カタログにファイルを追加します。最初のステップでは、すべてのファイルはすばやくスキャンされ、カタログに追加されます。ファイルがスキャンされると、埋め込まれたサムネイルファイルは抽出され、カタログ内に黄色のアイコンで表示されます。この表示は、ファイルは有効であるが完全にカタログ化されていないことを示します。

カタログ作成の2番目のステップはバックグラウンドで実行されるので、カタログ内で作業を続けることができます。2番目のステップにおいて、Portfolio はプレビューファイルを作成して必要なテキストインデックス化を実行します。この高速カタログ作成の段階が終了すると、黄色のアイコンは各アイテムのサムネールから消えます。

ファイルがカタログ化されると、Portfolio はカタログ作成の進行状況をステータスバーに表示します。ステータスバーでは、最初の段階におけるカタログ作成の停止および開始、あるいは2番目の段階におけるカタログ作成の一時停止、および続行することが可能です。


処理しています。「menu.gif」 - 0 / 9 個のファイルが完了しました。 

警告：


高速カタログ作成の処理がオートシンク機能によって実行され、その処理が中断された場合、アイテムは部分的にカタログ化されたままになります。アイテムをすべてカタログ化するには、部分的にカタログ化されたアイテムを選択して、**アイテム > 更新**を選択します。

高速カタログの詳細オプション（**カタログ > カタログ作成の詳細オプション > サムネールタブ**）で、使用・使用しないを設定できます。

黄色のドット

カタログのサムネール上の黄色のドット  は、部分的にカタログ化されたアイテムを示します。最初のカatalog作成の処理中、Portfolio は、簡単にアクセス可能なメタデータ同様、すべての埋め込まれたサムネールおよびプレビューを抽出し、ファイルに黄色のドットを配置します。これは、まだ Portfolio が追加の処理を行う必要があることを示します。黄色のドットは、処理の2番目の段階が終了すると消えます。

赤のドット

カタログ化されたアイテム上の赤のドット  は、疑問のあるファイルが破損している、使用中である、またはファイル許可が Portfolio によって読み取り不可能であることを示します。

赤のドットは、カタログがディスクプレビューを生成するように構成されていて、プレビューフォルダが見つからないか、Portfolio（または Portfolio Server）が、フォルダにアクセスしてファイルを更新する権限がない場合にも表示されます。


カタログからアイテムを削除

カタログからアイテムを削除するための簡単な方法がいくつか用意されています。Portfolio カタログからアイテムを削除しても、オリジナル画像は削除されないことに注意してください。ファイルに関する Portfolio の内部記録が削除されるだけです。オリジナルファイルはそのまま残ります。

注意

Portfolio を使用してオリジナルファイルを削除することもできます。**アイテム > オリジナルファイルの操作 > 削除**を選択します。これにより、アイテムは Portfolio から削除され、オリジナルファイルはごみ箱に移動されます（Mac、Windows とともに）。Mac の場合、この方法で削除されたネットワークボリューム上のアイテムはごみ箱に移動されず、すぐに削除されます。

カタログからアイテムを削除するには：

- ツールバーの **削除**  をクリックします。
- キーボードの **DELETE** キーを押します。
- **アイテム > 削除**を選択します。
- サムネール上で右クリックしてショートカットメニュー内の **削除**を選択します。

削除の確認警告

上記のいずれかの方法を使用して、すべてのアイテムギャラリーからアイテムを削除するときはいつでも、確認ダイアログボックスが表示されて、意図したアクションの実行であることを確認します。ダイアログボックスでは、アイテムをギャラリーから削除するか、ギャラリーとカタログの両方から削除するかを選択できます。

カタログ作成オプション

Portfolio にアイテムを追加するとき、ファイルに関する情報をどのように保存するかを詳細に定める多くのオプションを使用できます。こうしたさまざまなオプションは、カタログメニューからカタログ作成オプションコマンドを選択することでコントロールできます。

カタログ作成オプションダイアログボックスを開いた後、オプションを選択して名前変更、コピーおよびファイルの移動や、Portfolio に追加するアイテムの説明、キーワードおよびカスタムデータの追加を行うことができます。

ファイル名を変更するには：

1. ファイル名を変更オプションを有効にします。
2. 3つのドロップダウンメニューを使用して、名前指定の方式を選択します。使用可能な名前指定のオプションは以下のとおりです：
 - **テキスト：最大 31 文字の長さで説明的なテキスト文字列を入力します。**
 - **連続した番号：任意の番号を入力します。複数のファイルをカタログ化する場合、Portfolio は各ファイルの名前を付けるときに番号を 1 ずつ増やします。たとえば、番号 001 を入力し、3つの画像をカタログ化すると、それらの名前には 001、002、および 003 という番号が付加されます。**
 - **オリジナルファイル名：新しい名前にオリジナルファイル名を含めます。**
 - **なし：ファイル名に特定のスキームを利用しません。**

こうしたオプションを任意の順序と組み合わせで適用し、新しい名前の前、中、後を構成することができます。


新しい場所にファイルをコピーまたは移動するには：

1. ファイルをコピーまたは移動するオプションを有効にします。
2. オリジナルファイルのコピーの作成またはオリジナルの移動ラジオボタンのいずれかを選択します。
3. ファイルを配置する新しい場所にナビゲートします。

説明を追加するには：

1. 追加したアイテムにプロパティ（説明、キーワード、フィールド）を設定するオプションを有効にします。
2. 説明タブを選択して、テキストボックスに説明を入力します。

キーワードを追加するには：

1. 追加したアイテムにプロパティ（説明、キーワード、フィールド）を設定するオプションを有効にします。
2. キーワードタブをクリックします。
3. テキストボックスにキーワードを入力して、 ボタンをクリックすると新しいキーワードがリストに追加されます。マスターキーワードリストがある場合は、からマスターキーワードリストから選択して、**割り当て**をクリックします。

ここに入力したキーワードは、カタログ化するすべてのアイテムに自動的に適用されることに注意してください。

カスタムフィールドデータを追加するには：

1. 追加したアイテムにプロパティ（説明、キーワード、フィールド）を設定するオプションを有効にします。
2. フィールドタブをクリックします。
3. 任意のカスタムフィールドの値を選択するには、フィールド名をダブルクリックします
4. カスタムフィールドデータに値を入力して **OK** をクリックします。

カタログ作成オプションのプリセットを保存する

Portfolio でファイルのカタログを作成する際、実行可能な設定が多数あるため、Portfolio には設定を保存し、後で再利用できる機能が備わっています。

たとえば、レーシングカーに関するプロジェクトがあり、キーワードとして「自動車」および「レース」を追加すると同時に、新しいファイルを特定のプロジェクトディレクトリに移動したいとします。これらのカタログ作成のオプションを保存すると、将来のファイルについて、保存済みの設定内容ドロップダウンメニューからプリセットを選択して、OK をクリックするだけで済みます。

保存済みのカタログ作成のオプションは、オートシンクフォルダと連携して用いることもできます。ファイルはユーザーが操作することなく、自動的に移動、キーワード追加、およびカタログ化が可能です。

カタログ作成のオプションのプリセットを保存するには：

1. **カタログ** > **カタログ作成オプション** を選択します。
2. 選択したカタログ作成オプションを入力します。
3. ダイアログボックス上部の**保存**をクリックし、設定を現在のダイアログプリセットに保存します。- または -プルダウンから**別名で保存**をクリックし、オプションを新しいダイアログプリセットに保存します。
4. **OK** をクリックしてカタログ作成オプションダイアログボックスを閉じます。

カタログ作成オプションのプリセットを使用する

カタログオプションのプリセットは、カタログ作成オプションダイアログボックスでの設定を再使用するための簡単な方法です。カタログ作成のオプションのプリセットは、手動でアイテムをカタログに追加する場合、またはオートシンクフォルダで使用できます。

カタログ作成オプションのプリセットを使用するには：

1. アイテムのカタログ作成を通常通り開始します。詳しくは、**カタログへのアイテムの追加** 15 ページのを参照してください。
2. カタログ作成オプションダイアログボックスの一番上にある保存済みの設定内容ドロップダウンメニューから、カタログ作成のオプションのプリセットを選択します。
3. **OK** をクリックします。

カタログ作成オプションダイアログボックスを隠す

デフォルトでは、カタログ作成オプションダイアログボックスの**カタログ作成時にこのダイアログボックスを表示しない**オプションをオンにして指定しない限り、ファイルをカタログ化するたびにカタログ作成オプションダイアログボックスが開きます。

カタログ作成オプションのダイアログボックスを隠すには：

1. **カタログ** > **カタログ作成オプション** を選択します。
2. カタログ作成オプションダイアログボックスで、カタログ作成時にこのダイアログボックスを表示しないオプションを有効にします。
3. **OK** をクリックします。

プリセットパレット

プリセットパレットにより、カタログ作成オプションのプリセットを使用して、多くの異なったデータファイルを同時に更新できます。これには、キーワード、説明および無制限のカスタムフィールドが含まれます。

手動でアイテムのカタログ作成を行う場合、通常カタログ作成オプションのダイアログボックスが表示されます。プリセットパレットを使用すると、アセットがすでにカタログ化された後からでも、保存済みのカタログ作成オプションをワンクリックで適用できます。これにより大量のメタデータをワンクリックで簡単に更新できます。

プリセットを適用する場合、プロパティの設定オプションのみが使用されます。コピー、移動または名前変更のオプションは無視されます。プリセットが適用される場合、キーワードなど複数の値を保持できるフィールドへの変更は、追加になります。説明など 1 つの値しか持てないフィールドへの変更は、現在の設定から置き換えられます。

プリセットパレットを表示するには、**ウィンドウ** > **プリセット** を選択します。

新規プリセットを作成するには：

1. ウィンドウ > プリセットを選択します。
2. オプションをクリックします。
3. カタログ作成オプションダイアログ内で、適用したいプロパティオプションを選択します。

注意

コピー、移動、ファイル名の変更はプリセットを適用しても無視されます。

4. ドロップダウンメニューから別名で保存を選ぶ (Mac)、または別名で保存 (Windows) をクリックします。
5. プリセット名を付けて OK をクリックします。
6. OK をクリックして、カタログ作成オプションダイアログを閉じます。

プリセットを適用するには：

- プリセットパレットからプリセット名をクリックして、ギャラリー内の選択された 1 つまたは複数のアイテムにドロップします。
—または—
- ギャラリー内で 1 つまたは複数のアイテムを選択してから、プリセットパレット内のプリセット名を選択して適用をクリックします。

OK をクリックして、選択したアイテムにプリセットを適用します。

警告

プリセット適用は、元に戻すことはできません。

仮レコード

通常、Portfolio はカタログ化する各デジタルファイルについてエントリ (レコードまたはアイテムともいう) を作成します。しかし、存在しないファイル (まだ手元にない、または作成していないもの) について、Portfolio カタログにアイテムを入力したい場合があります。これを仮レコードといいます。仮レコードは、カタログに含める予定だが実際にはまだ持っていないファイルの代用と考えてください。


仮レコードは Portfolio カタログ内の他のアイテムとまったく同様に動作します。仮レコードにキーワードを割り当てたり、説明を追加したり、検索したりできます。ただ 1 つ違うのは、仮レコードにはまだ特定のメディアファイルが関連付けられていないということです。将来の任意の時点で、仮レコードをディスク上の実際のファイルに結びつけ、通常の Portfolio カタログアイテムにすることができます。

仮レコードに最終的に結び付けるファイルと同じ名前を付けた場合、Portfolio は仮レコードが更新された際に、自動的にファイルを見つけ、カタログ化することができます。

仮レコードの結びつけ

仮レコードをディスク上の実際のファイルに結びつけると、通常の Portfolio カタログアイテムになります。

仮レコードをファイルに結び付けるには：

1. 仮レコードを選択します。
2. アイテム > 更新を選択します。または、command + U (Mac) キーを押すか、または Control + U (Win) キーを押します。または、ツールバーから更新ボタンをクリックします。 
3. 仮レコードの名前が結び付けるファイルの名前と完全に一致し、検索するために正しいフォルダを指定した場合、更新コマンドは自動的にアイテムを対応するファイルに結び付けます。Portfolio が現在のディレクトリに、仮レコードと同じ名前を持つファイルを認識できない場合、開くダイアログボックスが開き、必要なファイルを特定できます。必要なファイルを選択し、開くをクリックします。

仮レコードアイテムの作成

仮レコードを作成するには：

1. カタログ > 仮レコードを作成を選択します。
2. 仮レコードに名前を付けます。アイテムのファイル名フィールドに名前を入力します。可能であれば、これは仮レコードが代用するファイル、つまり最終的に仮レコードを置換するファイルの名前にしておくのと良いでしょう。これによって後で行われる更新処理がより容易になります。
3. 場所を指定します（オプション）。ディスク上の保存場所オプションをチェックして、仮レコードが代用するファイルを最終的に配置する場所を設定します。ファイルの保存場所が不明な場合は、空白にしておくことができます。保存場所を知っている場合は、この設定によって仮レコードの更新がはるかに容易になります。
4. **OK** をクリックします。新しいアイテムは、カタログ内に「仮レコード」という単語を含むサムネールとともに表示されます。

カタログ作成の詳細オプション

カタログ作成の詳細オプションは、カタログレベルで適用され、カタログにアイテムを追加するすべてのユーザーに影響します。詳細オプションにより、アイテムのパスからキーワードを作成する、ファイル名に基づいてカタログ作成のためのファイルを選択する、または適切な Portfolio フィールドにメタデータをマッピングするなど、Portfolio の多くのパワフルな機能を制御することができます。

カタログ作成の詳細オプションを設定するには：

1. **カタログ > カタログ作成の詳細オプション**を選択します。
2. 詳細カタログ作成オプションダイアログボックスで、新しい設定を選択します。さまざまなオプションの詳細については、以下の関連トピックを参照してください。
3. **OK** をクリックして、新しい設定を受け入れます。

パスからのキーワードの作成

ディスク内に保存してある場所の情報が、アイテムを説明するのに役立つことがあります。ファイル名がファイル内のコンテンツを説明していたり（例：3匹の子犬.jpg や、または 2012 年度会計報告.pdf など）、クライアントごとに1つのフォルダに入っていたり（例：ジェームス家具店）、特定のドキュメントがフォルダに入っていたり（例：鈴木さんの書類）します。

Portfolio カタログにアイテムを追加する際に、アセットのパスから任意の情報をキーワードとして取り込むことができます。

パスからキーワードを作成するには：

1. **カタログ > カタログ作成の詳細オプション**を選択します。
2. 詳細カタログ作成オプションダイアログボックスで、**プロパティタブ**をクリックします。
3. **パスからキーワードを作成オプション**を有効にします。
4. キーワードに含めるパスコンポーネントを1つ、または複数選択します：
 - **ファイル名：拡張子の無いファイル名**
 - **上位フォルダ：ファイルが入っているフォルダ**
 - **フォルダ構造：ボリューム名と上位フォルダを含まない、ファイルパスの各フォルダ名**
 - **ボリューム：ファイルがあるディスク名**
 - **サーバー名：ファイルがあるサーバー名**

注意

アイテムを別の場所に移動しても、元の場所で生成されたキーワードは残ります。新しい場所から新しいキーワードを生成したい場合には、**アイテム > プロパティの抽出**を選択して、新しいキーワードを適用します。この作業でメタデータ内容もアップデートされます。

Tips：効果的なパスキーワードの使い方

- カタログに登録しようとしているコンテンツにあわせて、パスからのキーワード作成を設定できます。例えば、アーカイブディスクをカタログに登録する場合は、ファイル名とボリューム情報がキーワードとして作成されれば OK です。
- Portfolio は、ワードの区切りにスペースを利用します。長い文章をキーワードとして利用したい場合は、スペースの代わりにダッシュやアンダースコアを使います。
例：データが保存された DVD アーカイブシリーズの場合、“ビデオ-アーカイブ-2012 ###”（### はディスク番号を表しています）と名前を付けます。この場合は、“ビデオ-アーカイブ-2012”がひとつのキーワードになり、ディスク番号が別のキーワードになります。これによって、1 枚のディスク内、またはシリーズ内のすべてのディスク内のすべてのファイルを認識をすばやく実行できます。
例：顧客名や、クライアントのジョブごとに分かれた多くのフォルダを使っている場合は、“custnum-#####”や“パン屋-正方形-写真”などで、より簡単に特定の顧客を認識できます。
- キーワードとして役に立たない言葉をファイル名やフォルダ名に使わない方がいいでしょう。例えばアセットがすべて画像の場合、キーワードに「画像」と付けても役に立ちません。しかし、アセットを「画像」「ドキュメント」「ビデオ」などファイルの種類によって分けておくことで、アセット管理に役立てることはできます。
- パスからのキーワード作成は便利な機能ですが、唯一の方法ではありません。また他の方法を使ってキーワードを追加した方がいい場合もあります。マスターキーワードリストページ 65 を利用して、許可されたキーワードのみを追加する方法も検討してみてください。

ドキュメントテキストのインデックス化

書類内のテキストをインデックス化オプションをオンにすると、カタログの作成時に、Portfolio は Adobe PDF (Portable Document Format) ファイルのほか、プレーンテキストの文書をインデックス化します。カタログ化される文書の各英単語はカタログインデックスに保存されるため、高速な検索と取得が可能になります（日本語では利用できません）。

注意：

テキストのインデックス化をオンにすると、PDF ファイルのカタログ作成が遅くなります。Portfolio を使用して文書を検索する際、PDF ファイル内でのテキスト検索が重要な意味を持つ場合に限り、このオプションをオンにすることを推奨します。

ドキュメントテキストのインデックス化を有効にするには：

1. **カタログ > カタログ作成の詳細オプション**を選択します。
2. 詳細カタログ作成オプションダイアログボックスで、プロパティタブをクリックします。
3. 書類内のテキストをインデックス化オプションを有効にします。

書類内のテキストインデックス化から単語を除外するには：

1. 詳細カタログ作成オプションダイアログボックスのプロパティタブで、**除外する単語リストの編集ボタン**をクリックします。
2. エントリフィールドに、インデックス化の際に Portfolio が無視する単語を入力します。
3. **追加**をクリックします。
4. ステップ 2 および 3 を繰り返し、必要な数の単語を除外リストに追加します。
5. **OK** をクリックします。

サムネイルオプションの設定

サムネイルオプションは、カタログ作成の詳細オプションダイアログボックス内のセットです。これらの設定は、カタログ全体に適用され、変更はそのアイテムをカタログに追加するすべてのユーザーに影響します

注意：

- Portfolio は可能なファイルからサムネイルを生成します。InDesign ドキュメントでは埋め込みサムネイルを利用します。
- ビデオサムネイルは自動的に Portfolio Server で作成され、利用できる場合はポスターフレームを使うか、またはビデオの中のフレームを使えます。

サムネイル作成オプションを変更するには：

1. **カタログ** > **詳細カタログ作成オプション**を選択します。
2. サムネイルタブをクリックします。
3. ドロップダウンメニューから、サムネイルのサイズを選択します。この設定は、Portfolio によって作成および保存されるサムネイルのサイズ(ピクセル)を、112 x 112 ピクセル、または 256 x 256 ピクセルのいずれかで定めます。
4. カタログ化作業を高速で行うオプションを有効にして、2 段階に分けてファイルのカタログ作成を行います。このオプションにより、カタログ作成の 1 段階の操作が終了したら、カタログ作成されたファイルの表示および操作をより速く行うことが可能になります。高速カタログ作成についての詳細は、**カタログへのアイテムの追加 15 ページ**のを参照してください。

InDesign ドキュメントのサムネイル

Portfolio では Adobe InDesign ファイルのサムネイルを作成することができませんが、InDesign ドキュメント内のプレビューサムネイルを利用することができます。

Adobe InDesign でプレビューを保存するには：

1. **InDesign** > **環境設定** > **ファイル管理** (Mac) または **編集** > **環境設定** > **ファイル管理** (Windows) を選択します。
2. ドキュメントのプレビュー画像を常に保存にチェックをかけます。
3. プレビューを作成するページをページポップアップメニューから指定します。
4. **プレビューのサイズ**ポップアップメニューで**特大 1024 x 1024**を選びます。
これで Portfolio は、サムネイルとプレビューとしてこの画像を使用します。プレビューサイズを大きくしておくことで、大きいサイズのプレビューが可能になります。
5. **OK** をクリックします。

ファイルタイプを含めるまたは除外する

Portfolio は事実上、デジタルファイルのすべてのタイプをカタログ化することができ、デフォルトですべてのファイルタイプについてカタログ作成するように設定されます。ただし、Portfolio が特定のファイルタイプ（JPEG または TIFF ファイルなど）のみをカタログ化する、または特定のファイルタイプを無視する（カタログに登録しない）ようにしたい場合、そうした制限を詳細カタログ作成オプションダイアログボックスのファイルタイプパネルで設定できます。

特定のファイルタイプをカタログ作成から除外するには：

1. **カタログ > カタログ作成の詳細オプション**を選択します。
2. 詳細カタログ作成オプションダイアログボックスのファイルタイプタブで、以下のファイルタイプのみをカタログ化を選択します。
3. ファイルタイプリストで、Portfolio のカタログに登録したくない各ファイルタイプの横のチェックマークを外します。

ファイルタイプの除外リストの更新

ファイルタイプのリストを使って、カタログに登録するファイルタイプを選択することができます。ファイルタイプに関わらずすべてのファイルをカタログに登録するか、特定のファイルタイプだけを登録するのかわるを選ぶことができます。

ファイルタイプリストには、一般的なファイル形式が多く含まれています。もし新しいファイルタイプや、古いファイルタイプでこのリストに無い場合は、ファイルタイプを追加します。

含める/除外するファイルのリストにファイルタイプを追加するには：

1. **カタログ > カタログ作成の詳細オプション**を選択します。
2. **ファイルタイプタブ**をクリックします。
3. **追加ボタン**をクリックします。
4. ファイルタイプの情報を入力するか、**ファイル選択**をクリックして同じタイプのファイルを指定します。Portfolio はこのファイルタイプのパラメータをフィールドにコピーします。

Macintosh ユーザー：Mac ファイルタイプフィールドは古いアプリケーションで利用します。このフィールドは空欄にしておきます。

5. ファイルタイプの環境設定を保存する場所を選択します。
 - **環境設定ファイルに保存（Windows の場合ローカルに保存）：**アイテムをカタログに追加する他の Portfolio ユーザーに影響しません。
 - **カタログ内に保存：**このカタログのすべてのユーザーは、カタログ作成時にこの設定になります。
6. **OK** をクリックして、このファイルタイプをリストに追加します。

ファイルをファイル名によって除外

特定のファイル名またはパターンを指定する「除外」リストを作成することにより、特定のファイル名を持つファイルを Portfolio が無視するように強制できます。

ファイルをファイル名によって除外するには：

1. **カタログ > カタログ作成の詳細オプション**を選択します。
2. 除外するファイル名タブで、ドロップダウンメニューからファイル検索パラメータを選択します。で始まる、を含む、またはで終わるのいずれかです。
3. カタログ作成から除外したいファイル名または名前の一部を入力します。
大文字と小文字は区別されません。
4. **追加**をクリックします。Portfolio は各パス名とパスの各セグメントについて、入力したパラメータのいずれかと一致するテキスト文字列を検索します。例:で始まる: **DUP** およびで終わる: **97** と入力すると、Portfolio は **Duplicate_PH050**、**Report_97**、および **C:\Duplicates\Image.jpg** を除外します。

メタデータ設定のマッピング

メタデータ設定ダイアログボックスで、抽出されるメタデータフィールドを定義し、Portfolio によって情報が保存されるカタログ内の正確な場所をマッピングできます。

Portfolio がメタデータをマッピングする方法をコントロールする 2 つの重要なリストがあります。

- メタデータリストは、Portfolio が受け入れることのできるすべてのメタデータフィールドのリストです。
- カタログのフィールドリストは、Portfolio がカタログ内でメタデータを保存できるすべてのデフォルトおよびカスタムフィールドのリストです。

抽出したい各メタデータについて、ダイアログボックスで適切なカタログのフィールドをマッピングする必要があります。デフォルトで、Portfolio は最も一般的なメタデータを抽出し、カタログ内に保存します。

埋め込まれたメタデータを元の JPEG、TIFF ファイルに戻すこともできます。ダイアログボックスのデータの書き込みタブで、任意の Portfolio カタログのフィールドをオリジナルファイル内の XMP または IPTC メタデータフィールドにマッピングできます。

注意：

Portfolio 7 カタログでカスタムメタデータフィールドを作成した場合、マッピングの一部を、変換された Portfolio カタログで再作成しなければならないことがあります。

メタデータ設定を開くには、**カタログ > メタデータ設定**を選択します。

カタログ作成中のメタデータの抽出

デジタルカメラ、ソフトウェア、その他のデバイスの多くは、ファイルを作成するときに固有の情報をファイルに埋め込みます。たとえば、デジタルカメラは通常、しぼり、シャッター速度、撮影日などの EXIF データを埋め込みます。Portfolio は埋め込まれている EXIF、XMP、IPTC、および TIFF メタデータを自動的に検出および抽出し、カタログに追加することができるため、情報を手動で再入力する手間が省けます。Portfolio は JPEG および TIFF ファイルからメタデータを抽出できます。

デフォルトで、Portfolio は埋め込まれたメタデータを広範囲に抽出できますが、メタデータフィールドをさらに拡張し、Portfolio が情報を保存するカタログ内の場所を選択することができます。設定ボタンをクリックし、メタデータ設定ダイアログボックスを開きます。

メタデータの抽出を埋め込むには：

1. カタログ作成オプションダイアログボックスで、**詳細**ボタンをクリックします。
2. 詳細カタログ作成オプションダイアログボックスで、**プロパティ**タブをクリックします。
3. メタデータの抽出オプションを有効にします。
4. Portfolio がメタデータをカタログ内で保存する場所を構成するには、**設定**ボタンをクリックします。これにより、ファイルのメタデータが Portfolio フィールドにマップされる、メタデータ設定ダイアログボックスが開きます。マップの構成が終了したら、**OK** をクリックします。
5. **OK** をクリックして詳細カタログ作成オプションダイアログボックスを閉じます。

新しいメタデータフィールドの追加

注意

最もよく使われるメタデータフィールドは、既にメタデータリスト内に定義されています。ほとんどのユーザーは現在のフィールドを使用
で十分で、リストに新しいメタデータフィールドを追加する必要はありません。

メタデータリストに新しいメタデータフィールドを追加するには：

1. メタデータ設定を選択します。
2. メタデータ設定ダイアログボックスで、**メタデータの編集**をクリックします。
3. メタデータの編集ダイアログで**新規**をクリックします。
4. 新しいメタデータ名とメタデータコードを入力します。

新しいメタデータ名とメタデータコードを入力します。メタデータ名はデータを適切に説明する任意のテキストを指定できますが、
メタデータコードはファイル内のコードと全く同じである必要があります。このコードは通常、ファイルを作成したデバイスのメー
カーから取得できます。こうしたコードの多くはインターネット上ですぐに見つけることもできます。

注意

IPTC コードは Portfolio が認識できるように変換する必要があります。IPTC コードがコロンで区切られた 2 つの数から構成されて
いる場合、(最初の数 * 256) + 2 番目の数 = Portfolio メタデータコードという式を用いて入力するコードを取得します。

5. **OK** をクリックして、変更をメタデータリストに保存します。

メタデータマッピングの更新

Portfolio が特定のメタデータを保存する場所を変更するには：

1. **カタログ > メタデータ設定**を選択します。
2. メタデータ設定ダイアログのデータの取り込みタブをクリックします。
3. 特定の抽出するメタデータフィールドをクリックしてハイライト表示します
4. ダイアログの右側で、対応するカタログフィールドをクリックして変更します。

メタデータの抽出

ファイルのカタログ作成の際にメタデータ抽出を有効にしていなかった場合、後でメタデータを抽出できます。

カタログ化されたファイルからメタデータを抽出するには：

1. いずれかのギャラリーで処理対象のファイルをクリックしてハイライト表示します。
2. **アイテム > プロパティの抽出**を選択します。これにより、メタデータ設定ダイアログボックスでマッピングされたメタデータが適切
な Portfolio フィールドに抽出されます。

メタデータの埋め込み

Portfolio は、メタデータおよびその他の情報をファイルに埋め戻すこともできます。このため、正しくキーワードおよびタグ設定されたフ
ァイルに対する作業を失うことがありません。

注意

最新のサポートファイル形式の一覧は Extensis ウェブサイト (<http://www.extensis.com/downloads/documents/supported-file-formats-camera-models/>) で確認してください。

メタデータを埋め込むには：

1. いずれかのギャラリーで処理対象のファイルをクリックしてハイライト表示します。
2. **アイテム > プロパティの書き込み**を順に選択します。これにより、メタデータ設定ダイアログボックスでマッピングされたメタデー
タが、オリジナルファイル内の適切な場所に埋め込まれます。

ギャラリー




ギャラリーには、カタログ内のすべてのアイテム、またはそのサブセットを表示できます。たとえば、カタログ内に 5,000 個の画像があるとして、Portfolio の検索機能を使用すると、「海」というキーワードでタグ付けされたすべての画像を見つけて、一致する 135 個の画像を探し出すことができます。この場合、カタログには 5,000 個の画像が含まれますが、ギャラリーに含まれるのは 135 個の画像です。

ギャラリーは、カタログ内の特定のファイルのみを整理および表示するのに適した方法です。例えば写真家の場合、作品全体を含むカタログを作成し、あるギャラリーではポートレート写真のみを表示し、別のギャラリーには風景写真のみを含めることができます。

各アイテムがギャラリー内でどのように表示されるかについては、表示によって定義します。表示の設定方法については、[表示 33 ページ](#)のを参照してください。

デフォルトのギャラリー

ギャラリーには、メインウィンドウのギャラリーパレットからアクセスします。すべてのカタログにおいて、3 つのデフォルトのギャラリーがあり、検索結果、最新登録アイテム、およびすべてのアイテムが含まれます。

- すべてのアイテムギャラリー  には、カタログのすべてのアイテムが表示されます。
- 検索結果のギャラリー  には、もっとも最近の検索結果が表示されます。
- 最新登録アイテムギャラリー  には、最後にカタログ化したファイルが表示されます。Portfolio Server の共有カタログについて、Portfolio は現在のユーザーがカタログ化したファイルのみをカタログ内に表示します。

ギャラリー名を一度クリックするだけでギャラリーが開き、メインウィンドウに表示されます。名前をダブルクリックすると、Macintosh の場合、完全に新しいウィンドウ内にギャラリーが開きます。Windows の場合、ダブルクリックするとメインウィンドウ内にギャラリーが開きますが、メインウィンドウ内の他のギャラリーのタブをクリックすることで、開いている他のギャラリーにもアクセスできます。


注意：



環境設定ダイアログボックスの一般タブでユーザー名を設定しない場合、Portfolio は最新登録アイテムギャラリー内の、日付が最新であるすべてのファイルを表示します。

標準のギャラリー


デフォルトのギャラリーに加えて、カタログ内に自動的に保存されるギャラリーを作成できます。標準のギャラリーの作成方法については、[新しいギャラリーの作成 27 ページ](#)のを参照してください。

公開、非公開、読み取り専用の設定


ギャラリーを作成すると公開ギャラリー  となり、ウェブクライアントユーザーを含む、カタログのすべてのユーザーが利用できます。

ギャラリーアクセス設定を指定して、ギャラリーを非公開ギャラリー  として自分だけが見れるようにしたり、または読み取り専用ギャラリー  にすることができます。ギャラリーのアクセスレベルを変更する方法については、[ギャラリーを公開または非公開に設定 32 ページ](#)のを参照してください。


一時ギャラリー

一時ギャラリーと呼ばれる、ファイルの一時的な収集を作成することもできます。  これらのギャラリーは自動的にカタログに保存されず、本来一時的なギャラリーとして存在します。カタログを閉じる場合、任意の一時ギャラリーの保存を促され、保存すれば標準のギャラリーに変換されます。一時ギャラリーの作成および使用方法については、[一時ギャラリー 28 ページ](#)のを参照してください。

スマートギャラリー

スマートギャラリーが開くと、 Portfolio は自動的に Portfolio のカタログを検索して、表示する適切なファイルを選択します。スマートギャラリーは任意のアイテムのプロパティに基づいてファイルを検索および選択するように構成できます。スマートギャラリーを作成して使用する場合、詳細はスマートギャラリーの作成 31 ページのを参照してください。

新しいウィンドウでギャラリーを開く (Mac のみ)

Portfolio の Macintosh のバージョンでは、ギャラリーパネルにおける追加のボタンが使用できます。このボタン  は、選択したギャラリーを新しいウィンドウですぐに開きます。

ギャラリーアイコンの参照


	すべてのアイテムギャラリー		最新登録アイテムギャラリー
	標準のギャラリー		スマートギャラリー
	非公開ギャラリー		非公開のスマートギャラリー
	読み取り専用ギャラリー		読み取り専用のスマートギャラリー
	一時ギャラリー		検索結果ギャラリー

新しいギャラリーの作成

注意：

複数のギャラリーを作成しても、カタログ内のアイテムの数は増えません。ギャラリーは、カタログ内の一部のアイテムだけをまとめて表示するものです。

新しいギャラリーを作成するには：

1. ギャラリー > **新規** を選択するか、Command + G (Mac)、または Ctrl + G (Win) を押します。または、ギャラリーパレットで、新規ボタンをクリックします。 
2. Mac の場合はダイアログボックスで名前を入力し、**OK** をクリックします。Windows の場合は、「ギャラリー」パレットで名前を入力し、**ENTER** キーを押します。

注意：

標準のギャラリーは自動的に保存されます。ギャラリーを保存する必要があるのは、「一時」ギャラリーを残しておきたい場合だけです。一時ギャラリーを保存するには、ギャラリー > **別名で保存** を選択してください。

ギャラリーへのアイテムの追加

ギャラリーにアイテムを追加するには：


- サムネールを別のギャラリーから新しいギャラリーにドラッグします。
- **編集** > **コピー** コマンドまたは **編集** > **ペースト** コマンドを使用し、サムネールを別のギャラリーからコピーして新しいギャラリーに貼り付けます。
- **編集** メニューの **カット** コマンドおよび **ペースト** コマンドを使用し、アイテムを別のギャラリーから切り取って新しいギャラリーに移動します（アイテムをギャラリーから切り取ってもカタログから削除されないことに注意してください。現在のギャラリーから削除されるだけです）。
- 特定のキーワードを含むアイテムなど、アイテムの選択されたセットについて検索を実行します。**ギャラリー** > **別名で保存** を選択し、検索結果を含む新しいギャラリーを作成します。

一時ギャラリー

標準のギャラリーとは異なり、一時ギャラリーは、カタログ内に自動的に保存されません。この特殊なギャラリーは、ファイルを一時的に収集しておく場所として使用します。発行者または管理者としてログインしている場合は、一時ギャラリーを保存して、標準のギャラリーに変換することができます。その他の点では、標準のギャラリーとまったく同じです。一時ギャラリーを保存しないで Portfolio を閉じようとすると、警告メッセージが表示されます。

新しい一時ギャラリーの作成

新しい一時ギャラリーを作成するには：

- ギャラリーパレットで、新規一時ギャラリーボタン  をクリックします。
- **ギャラリー** > **新規一時ギャラリー** を選択します。
- 検索結果ギャラリーを右クリックして、メニューから新規一時ギャラリーを選択してクイック検索または検索の結果を新しい一時ギャラリーに保存します。
- 任意の選択されたアイテムを選択して、右クリックして、メニューから一時ギャラリーの作成を選択します。選択されたアイテムが新しい一時ギャラリーに追加されます。

一時ギャラリーの保存

一時ギャラリーは、保存することにより通常のギャラリーに変換できます。一時ギャラリーを保存するには、発行者または管理者レベルのアクセス権が必要です。


ギャラリーパレットで、一時ギャラリーを選択して、以下のいずれかを実行します：

- Command + S (Mac) または Ctrl + S (Win) を押します。
- または、一時ギャラリーを右クリックして、メニューから別名で保存を選択します。
- **ギャラリー** > **別名で保存** を選択します。

ギャラリーからのアイテムの削除

アイテムがギャラリーから削除される場合、現在のギャラリーから削除されるだけで、カタログからは削除されません。ある画像セットのギャラリーを作成し、他の画像とともに表示したくない画像が含まれていることに気が付いた場合、ギャラリー内の不要な画像を単純に削除します。

カタログから削除せずに、ギャラリーからアイテムを削除するには、削除するアイテムを選択して、以下のいずれかを行います：

- ツールバーの削除  ボタンをクリックします。ダイアログボックスでギャラリーから削除オプションを選択し、OK をクリックします。
- アイテム > 削除を選択します。削除を確認するダイアログが表示されたら、ギャラリーから削除を選択してから OK をクリックします。

ギャラリーの並べ替え

ファイルを並べ替えるには、各ギャラリーの1番上（メインツールバーのすぐ下）のステータスバーの右上隅にある、並べ替えメニューを使います。デフォルトでは、このメニューにはソートなしと表示されています。現在のギャラリーで使用する並べ替え基準をこのメニューから選択してください。デフォルトではギャラリー内のアイテムは、カタログ化された順番に並べられています。

並べ替えメニューを用いてギャラリーを並べ替えた後も、メニューには並べ替え時に使われたフィールド名が表示されているので、アイテムの並び順の基準が一目で分かります。また、アイテムをドラッグして自由にアイテムの順序を変えると、並べ替えメニューにはカスタムと表示されます。

ギャラリーの自動的な並べ替え

Portfolio データベース内の任意のフィールド名に基づいて、ギャラリーを自動的に並べ替えることができます。

注意：

デフォルトの並べ替えを設定すると、ギャラリーの右上隅にある並べ替えメニューが上書きされます。

ギャラリーを自動的に並べ替えるには：

1. 並べ替えるギャラリーを開きます。
2. ギャラリー > 設定を選択します。
3. 並べ替えグループボックスで、カタログを開いたときにギャラリーをソートするオプションをチェックします。
4. ドロップダウンメニューから使用するフィールドと、並べ替えの方向を選択します。
5. OK をクリックします。このギャラリーを最初に開くとき、アイテムは指定された並べ替え順序で自動的に並べ替えられます。ドロップダウンメニューから新しい並べ替え方法を選択するまで、アイテムは割り当てられた方法で並べ替えたままになります。

ギャラリーの並べ替えのカスタマイズ

ギャラリーは、ギャラリー内でファイルをクリックしてドラッグすることにより、どのような順序にでも並べ替えることができます。この方法でギャラリーを並べ替えると、「カスタム」という並べ替え順が作成されます。通常のギャラリーおよびスマートギャラリーでは、自動的にカスタムの並べ替え順が保存されます。

カスタムの並べ替え順はカタログレベルで適用されます。ギャラリーのカスタムの並べ替え順が複数のユーザーによって同時に変更される場合、カタログを開いた最後のユーザーの並べ替え順が適用されます。またそれ以外のユーザーは、次にカタログを開いたときに、新しい並べ替え順を確認することができます。

注意：

カスタムのギャラリーの並べ替えは、ウェブクライアントユーザーが確認することはできません。

カスタムの並べ替え順をギャラリーに適用するには：

1. 並べ替えるギャラリーを開きます。
2. ファイルをクリックして新しい並べ替え順にドラッグします。

注意：

カスタムの並べ替え順を自動的に保存するには、「ギャラリーの設定」で「カタログを開いたときにギャラリーをソートする」オプションをチェックしないでください。このダイアログボックスを表示するにはギャラリー > 設定を選択します。


起動時にギャラリーを開く

起動時にギャラリーが開くように設定するには：

1. 選択したギャラリーを開きます。
2. ギャラリー > 設定を選択します。
3. ギャラリーの設定ダイアログボックスで、カタログを開くときにこのギャラリーを開くオプションを有効にします。
4. OK をクリックします。このカタログが開くときは常に指定されたギャラリーが自動的に開きます。

ギャラリーの削除

ギャラリーを削除するには：

1. ギャラリー名を右クリックし、メニューからギャラリーを削除を選択します。
または、ギャラリーパレットで、ギャラリー名を選択して、ギャラリーを削除ボタン  をクリックします。
2. OK をクリックすると、ギャラリーが削除されます。

ギャラリーの名前変更

ギャラリーの名前を変更するには：


1. ギャラリーパレットで、ギャラリー名をクリックしてハイライト表示します。
2. ハイライト表示されているギャラリー名を再度クリックし、ギャラリー名を編集します。

ギャラリーのコピー

ギャラリーをコピーするには:

1. ギャラリーパレットで、ギャラリー名をクリックしてハイライト表示します。
2. ギャラリー > 別名で保存を選択します。
3. 新しいギャラリー名を入力し、OK をクリックします。新しいギャラリーはギャラリーリストに追加され、前のギャラリーと同じすべてのアイテムを含みます。

スマートギャラリーの作成

スマートギャラリー  とは、選択されるたびに保存した検索方法を自動的に実行するギャラリーのことです。

新しいスマートギャラリーを作成するには :

1. 編集 > 検索 > 検索を選択するか (Mac)、またはカタログ > 検索を選択し (Win)、検索ダイアログボックスを開きます。
2. 検索条件を入力します。この検索条件は、スマートギャラリーが選択されるたびに検索に使用されます。
3. 保存済みの検索方法からスマートギャラリーとして保存を選択します。
4. スマートギャラリーの名前を入力し、OK をクリックします。

以上で、Portfolio によって新しいスマートギャラリーが作成されます。スマートギャラリーが開くたびに、上記の手順 3 で指定した保存済みの検索方法の検索条件に基づき、アイテムが検索および選択されます。

注意 :

スマートギャラリーと保存済みの検索方法には、同じ名前が使用されます。

標準のギャラリーをスマートギャラリーに変更するには :



1. 選択したギャラリーを開きます。
2. ギャラリー > ギャラリーの設定を選択します。
3. ギャラリーの設定ダイアログボックスで、スマートギャラリーオプションを有効にします。
4. ドロップダウンメニューから、保存済みの検索方法を選択します。
5. OK をクリックします。



スマートギャラリーが選択されるたびに、上記の手順 4 で指定した保存済みの検索方法の検索条件に基づき、アイテムが検索および選択されます。

ギャラリーを公開または非公開に設定

多くの人が1つのカタログにアクセスする場合、ひとりのユーザーがアクセスするカタログにギャラリーを作成すると役立ちます。Portfolioの公開および非公開の設定機能を使用して、ギャラリーを保護して自分だけが見れるようにしたり、または非公開のギャラリーであっても読み取り専用を設定し、自分だけが変更を加えるように設定できます。

個人のギャラリーは1人のユーザーによって管理されるため、共有または非公開にギャラリーを指定するには、ユーザー単位のアクセスで構成されるカタログで作業する必要があります。カタログを開く際にユーザー名およびパスワードが要求される場合、ユーザーのカタログはユーザーベースのアクセスに設定されます。ユーザー単位のパスワードにカタログを設定するには、ユーザー単位のパスワードの設定を参照してください。

非公開のギャラリーは、ギャラリーのアイコンに「目」が付いています。  

読み取り専用のギャラリーは、ギャラリーのアイコンが「ロック」されています。  

ギャラリーのプライバシー設定を変更するには：

1. ギャラリー > アクセス権を選択します。または、ギャラリーの名前を右クリックして、メニューからアクセス権を選択します。
2. ダイアログボックスで、公開ギャラリーまたは非公開ギャラリーラジオボタンのいずれかを選択して、アクセスレベルを指定します。
3. ギャラリーを共有にする場合、ギャラリーを閲覧専用にして自分だけが変更を加えるように設定することもできます。これを行うには、読み取り専用ギャラリーオプションを有効にします。
4. **OK** をクリックして、新しいギャラリーアクセス設定を適用します。

ギャラリーの管理者を変更するには：

注意：

ギャラリーのオーナーシップを変更するには、現在ギャラリーを管理しているか、または管理者としてログインする必要があります。ギャラリーの新しい管理者は、カタログへのユーザー単位のログイン名およびパスワードをすでに持っている必要があります。

1. ギャラリー > アクセス権を選択します。または、ギャラリーの名前を右クリックして、メニューからアクセス権を選択します。
2. ダイアログボックスで、ドロップダウンメニューから新しいユーザーを選択します。
3. **OK** をクリックして、新しいギャラリーアクセス設定を適用します。

表示

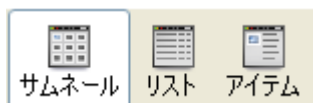
1つのカタログには複数のギャラリーを含むことができ、各ギャラリーは保存されている多数の異なる表示方法を使用して表示できます。背景色、フォント、フォント色、サムネールサイズ、グリッドの間隔、フィールドデータといった表示属性の定義や、こうした設定の保存済みの表示への保存を簡単に行うことができます。

Portfolio には3つの主な表示の「タイプ」があります。それぞれのタイプはカスタマイズ可能で、独自に保存済みの表示の任意の数を作成できます。表示タイプを選択後、カスタマイズして保存済みの表示に保存します。その後、その表示を任意のギャラリーに適用できます。

3つの表示は、ツールバーの表示ボタンからすぐに使用できます。




Macintosh 表示ボタン



Windows 表示ボタン

サムネール表示

Portfolio のデフォルトの表示であるサムネール表示は、小さなサムネールサイズのプレビューで構成される調整可能なグリッドにカタログ化されたアイテムを表示します。カタログ化された各アイテムに関する情報は、各サムネールの下に表示されます。

ツールバーの  サムネール表示ボタンをクリックするか、command + T (Mac)、または Ctrl + T (Win) を押すことにより、サムネール表示に切り替えることができます。

任意の Portfolio フィールドの内容をサムネールの下に表示することを選択できます。**表示 > 表示設定** コマンドを選択し、4つの異なるサムネールサイズからの選択や、表示するフォント、サイズ、形式、およびデータフィールドの選択を行います。

リスト表示


リスト表示では、Portfolio カタログに保存してある情報がスプレッドシートのようなリスト形式で表示されます。デフォルトで、ファイル名、ファイルサイズ、変更時刻、ディレクトリのパスが一覧表示されますが、このフィールドセットは**表示 > 表示設定** コマンドを選択して編集できます。ここでは、リストの列に表示する詳細なフィールド情報を指定できます。

リスト表示に切り替えるには、ツールバーのリスト表示ボタン  をクリックするか、command + L (Mac)、または Ctrl + L (Win) キーを押します。

アイテム表示


アイテム表示では、カタログ化された各アイテムと、それに関連付けられている並べ替え済みのデータを表示できます。この表示では、たとえば、ファイルに関連付けられたすべてのキーワードのリストを確認したり、説明の全体と入力したその他のカスタムフィールドデータを合わせて表示したりできます。各アイテムのプロパティを1つずつ開いて表示するのではなく、アイテムのセットに関する多くの詳細情報にアクセスするときにアイテム表示を選択します。

表示 > 表示設定 コマンドを使用して、アイテム表示のフォント、色、サムネールサイズなどをカスタマイズすることもできます。

ツールバーのアイテム表示ボタン  をクリックするか、command + R (Mac)、または Ctrl + R (Win) キーを押すことにより、サムネール表示に切り替えることができます。

ギャラリー表示のカスタマイズ

サムネール表示、リスト表示、アイテム表示をカスタマイズするには

- ツールバーの表示設定ボタン  を押しします。
- Command + D (Mac) または Ctrl + D (Win) を押しします。
- 表示 > 表示設定を選択します。

3つの表示タイプ(サムネール、リスト、アイテム)のすべてにおいて、画面上に表示する正確なデータフィールドとフィールド形式を選択できます。そうしたフィールドが表示される順序も指定できます。

表示設定ダイアログボックス内のフィールドのスクロールリストから表示に含めるフィールドを単純にチェックします。


フィールド表示のカスタマイズ

フィールド表示


3つの表示タイプ(サムネール、リスト、アイテム)のすべてにおいて、画面上に表示する正確なデータフィールドとフィールド形式を選択できます。そうしたフィールドが表示される順序も指定できます。

説明やキーワードなど、一部のフィールドは複数行のテキストから構成されている場合があります。アイテム表示をカスタマイズするとき、画面上にスクロールなしで表示されるテキストの行数をコントロールできます。

フィールドを表示/非表示にするには：


1. 表示 > 表示設定を選択します。または、Command + D (Mac) または Ctrl + D (Win) を押しします。または、ツールバーの表示設定ボタン  を押しします。
2. 表示設定ダイアログボックスの表示するフィールドリストで、表示するフィールドを選択します。各フィールド名の左側のチェックマークは、フィールドがアクティブであることを示します。チェックマーク列をクリックすると、フィールドのオンとオフが切り替わります。

フィールドの順序を変更するには：

1. 表示 > 表示設定を選択します。または、Command + D (Mac) または Ctrl + D (Win) を押しします。または、ツールバーの表示設定ボタン  を押しします。
2. 表示設定ダイアログボックスの表示するフィールドリストで、リストのフィールド名をクリックして、要望の順番にドラッグします。

フィールド形式を変更するには：

各フィールドのフォントタイプ、サイズ、およびフィールド名を選択できます。各フィールドは独自の形式を持つことができるので、表示設定を柔軟に行うことができます。

1. 表示 > 表示設定を選択します。または、Command + D (Mac) または Ctrl + D (Win) を押しします。または、ツールバーの表示設定ボタン  を押しします。
2. 表示設定ダイアログボックスの表示するフィールド内で、ドロップダウンメニューから、フォント、フォントサイズおよびタイプを選択します。
3. フィールド名を表示するには、フィールド名を表示オプションを有効にします。

サムネールオプション

サムネールオプションのカスタマイズ

(サムネール表示とアイテム表示でのみ使用可能)

32 ピクセル x 32 ピクセルから 256 ピクセル x 256 ピクセルまでの、4 つの異なる標準サイズから選択します。Portfolio はファイルの最初のカatalog作成で生成したサムネールより大きなサムネールを表示できないことに注意してください。デフォルトで、Portfolio は 112 x 112 ピクセルのサムネールを生成するので、Catalogで 256 x 256 のサムネールを表示する場合は、前の章の説明に従ってアイテムがCatalog化される前に、Catalog作成の詳細オプションダイアログボックスでサムネールサイズをより大きく設定する必要があります。

すでにCatalog化されているアイテムに対して、より大きなサムネールを作成するには、Catalog作成の詳細オプション (Catalog > 詳細オプション) を設定した後、アイテム > サムネールの再作成を選択し、Portfolio が新規サムネールを作成するように強制します。

カスタムサムネールフレームの作成

各サムネールの周囲にグラフィックな枠、つまりフレームを適用し、Portfolio Catalogに独自の外観を与えることができます。フレームを適用するには、フレームドロップダウンメニューから定義済みのフレームのうちいずれかを選択します。任意のグラフィックアプリケーションを使用して、独自のフレームを作成することもできます。

PICT、TIFF、または BMP ファイルなど、任意のビットマップ画像からカスタムフレームを作成できます。Photoshop などのグラフィックソフトウェアでフレームを作成後、フレームを Portfolio に単純にコピーおよび貼り付けし、カスタム表示に適用します。

カスタムフレームを追加するには：

1. グラフィックアプリケーションでフレームを作成します。サムネールの周囲にぴったり合ったフレームを作成するには、次の表に示すピクセル寸法に従います：

サムネールサイズ	フレームサイズ
32 x 32	40 x 40
64 x 64	80 x 80
112 x 112	140 x 140
256 x 256	320 x 320

2. フレームの透過色を設定します。Portfolio はフレーム画像の中央のピクセルを認識し、それを指定された透過色として設定します。中央のピクセルと同じ色のフレーム部分は透明になります。このため、背景色の一部が透けて見えるフレームを作成できます。背景色がフレームのどの部分でも透けて見えないようにする場合は、中央のピクセルをフレーム設計の他のどの場所でも使用されていない色に設定してください。
3. 完成したフレーム画像をグラフィックソフトウェアのクリップボードにコピーします。フレーム画像を Photoshop などの、レイヤーを扱えるソフトウェアで作成した場合は、必ず最終画像のレイヤーを統合し、単一レイヤーだけでなく、画像全体をコピーしてください。
4. 新規フレームを Portfolio に貼り付けます。「表示設定」ダイアログボックスが開いていない場合は開き (Mac OS X では **COMMAND-D**、Windows では **CTRL-D**)、フレームドロップダウンメニューから編集を選択します。新規をクリックして、フレームの設定ダイアログボックスを開きます。次に、ペーストをクリックして、フレーム画像を貼り付けます。また、画像編集ソフトウェアからフレーム画像を標準の PICT、TIFF、または BMP ファイルとして保存した後、フレームの設定ダイアログボックスのインポートボタンを使用してフレームを Portfolio にインポートすることもできます。
5. フレームに名前を付けて保存します。フレームの名前フィールドに名前を入力し、保存をクリックします。フレームリストで OK をクリックし、ギャラリーの設定ダイアログボックスに戻ります。
6. フレームを表示に適用します。フレームメニューから新しく保存したフレームを選択し、適用をクリックします。

新しいデフォルトフレームをカタログに追加する

Portfolio Server でカタログを作成した際に、デフォルトのサムネイルフレームがカタログに追加されます。デフォルトのサムネイルフレームはすべてサーバー上の以下の場所にあります：

Macintosh servers: /Applications/Extensis/Portfolio Server/data/catalog-settings/English/borders/\


Windows servers: C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\data/catalog-settings\English\borders\

あなたの作成したフレームをデフォルトに追加して、すべての新規カタログ内で利用できるようにするには、作成した画像ファイルを上記の場所に入れてください。フレームのファイルフォーマットは、それぞれのプラットフォーム用に特定のファイルである必要があります。フレームファイルは Windows では GIF ファイル形式、Macintosh は JPG ファイル形式で保存してください。

サムネイルのフレームのコピーおよび貼り付け

ある Portfolio カタログから別のカタログへカスタムフレームをコピーすることができ、お気に入りのフレームを新規カタログに転送できます。

フレームを別のカタログにコピーするには：

1. ツールバーの表示設定  をクリックするか、Command-D (Mac) または Ctrl-D (Windows) を押します。または表示 > 表示設定を選択します。
2. 表示設定ダイアログボックスの表示するフィールドリストで、フレームドロップダウンメニューから編集を選択します。
3. フレームダイアログボックスに一覧表示される保存済みのフレームからコピーするフレームを選択します。編集をクリックします。
4. フレームの設定ダイアログボックスでコピーをクリックし、フレーム画像をクリップボードに転送します。
5. フレームを貼付けます。フレームを別のカタログに貼り付けるか、画像編集ソフトウェアに貼り付けて修正することができます。

保存した表示

カスタム表示の保存

フォント、背景色、フレームの変更や、さまざまなフィールドの表示、非表示など、表示のカスタマイズを行った後、こうしたすべての属性を保存済みの表示として保存できます。その後いつでも、「保存済みの表示」メニューを使用して、この表示をカタログ内の任意のギャラリーに適用できます。Portfolio のデフォルトのカタログ構成の一部として、あらかじめ定義されたいくつかの保存済みの表示が含まれています。「保存済み表示」メニューは、メインウィンドウの右上、「並べ替え」メニューの左に表示されます。



表示を保存するには：

1. 表示 > 表示設定を選択するか、または Command + D (Mac)、または Ctrl + D (Win) キーを押します。
2. 必要な表示を設定して、その設定を現在のギャラリーウィンドウに適用します。
3. ギャラリーウィンドウの上部に表示されるステータスバーの並べ替えメニューの左側で、デフォルト表示ドロップダウンメニューから名前を付けて保存（または別名で保存）を選択します。
4. 表示に名前を付けて、OK をクリックします。
5. 保存した表示の名前がデフォルト表示メニューに表示されます。

保存済みの表示の名前変更または削除

保存済みの表示の名前変更または削除を行うには：

1. デフォルト表示メニューからリストを編集を選択します。
2. 名前変更または削除する表示をリストから選択し、名前変更ボタンまたは削除ボタンをクリックします。

保存済みの表示の適用


保存済みの表示を適用するには画面右上、ソートメニューの左に表示されるデフォルト表示メニューから名前を選択します。



カスタム表示をデフォルトとして保存

現在の表示設定をカタログの新規デフォルト表示として割り当て、カタログで新しいカタログまたはギャラリーが作成されるたびにその表示を使用できます。このように保存済みの設定をデフォルト設定といい、要望に応じてどのようにカスタマイズすることもできます。


現在の表示をデフォルトとして保存するには：

1. 表示 > 表示設定を選択します。または、Command + D (Mac) または Ctrl + D (Win) を押します。または、ツールバーの表示設定ボタン  を押します。
2. 表示設定ダイアログボックスの表示するフィールドリストで、デフォルトとして保存ボタン（左下）をクリックします。

注意：

デフォルト設定を保存すると、サムネール、リスト、およびアイテムのすべてのタイプに対して保存されます。

デフォルト設定を読み込むには：

1. 表示 > 表示設定を選択します。または、Command + D (Mac) または Ctrl + D (Win) を押します。または、ツールバーの表示設定ボタン  を押します。
2. デフォルトに戻すボタンをクリックします。デフォルト設定が表示設定ダイアログボックスに読み込まれます。
3. OK をクリックしてデフォルト設定を適用します。

保存済みの表示のエクスポート

保存済みの表示をエクスポートするには：

1. デフォルト表示のドロップダウンメニュー（各ギャラリーの右上隅にある）から リストの編集を選択します。
2. 保存済みのビューウインドウから、エクスポートを行う表示を選択します。
3. エクスポートボタンをクリックします。
4. エクスポートされた表示の名前と保存場所を指定します。拡張子が **.pvw** のファイルとして保存されます。**保存** をクリックします。

Portfolio Server アプリケーションフォルダ内の保存済みのビューフォルダにある表示は、すべての新しいカタログに自動的に含まれます。

保存済みの表示のインポート

Portfolio のインポートとエクスポートの機能を使って、保存済みの表示とサムネールのフレームをカタログからカタログへと転送することができます。

注意：

Portfolio Server アプリケーションフォルダの「保存済みのビュー」ディレクトリと「フレーム」ディレクトリにそれぞれ置かれた、保存済みの表示とフレームのファイルは、新しいカタログを作成する際に、自動的に新しいカタログに含まれます。

保存済みの表示をインポートするには：

1. デフォルト表示のドロップダウンメニュー（各ギャラリーの右上隅にある）からリストの編集を選択します。
2. 保存済みのビューウインドウで、**インポート** ボタンをクリックします。
3. 保存済みのビューフォルダ（Portfolio Server アプリケーションフォルダ内）または表示ファイルをエクスポートした別の場所の、保存済みの表示のファイル（**.pvw** ファイル形式）を選択します。
4. **完了** をクリックします。

Portfolioによるファイルの管理






Portfolio カタログを作成し、独自のデジタルファイルを保存した後、作業の表示、整理、管理を簡単にする機能が多数用意されています。これには以下のタスクが含まれます。

- 画像、オーディオおよびビデオクリップ、その他の文書をプレビューする
- 各ファイルの詳細情報を取得する
- オリジナルファイルを編集する
- 画像を回転させる
- ファイルを新規ファイル形式にバッチ変換する
- ファイルの名前を変更する
- カタログを最新の状態に維持する
- カタログ化されたファイルを別のソフトウェアに容易にドラッグする
- ギャラリー内の画像を印刷する

アイテムのプレビュー

Portfolio はカタログに登録されたアイテムのプレビュー画像やメディアプレビュークリップをすばやく作成することができます。これらのプレビューは Portfolio デスクトップクライアントのサムネイルをダブルクリックすることで開くことができます。

アイテムをプレビューしている時に、オリジナルファイルを開くこともできます。プレビュー画像ウィンドウの上にある**オリジナル画像を表示** ボタンをクリックします。Portfolio は同じウィンドウ内に直接ファイルを開きます。もしくはコンピュータ内でそのファイルが開けるアプリケーションを使って開きます。

サムネイルに複数ページアイコン  が付いている場合は、複数ページやレイヤーを持っています。Portfolio はプレビュー画像ウィンドウ内で開き、    ボタンを使って別ページや別レイヤーを表示できます。

アイテムをプレビューするには：

- 任意のギャラリーでサムネイルをダブルクリックします。
- アイテムを選択し、Command + Option + I (Mac) 、または Ctrl + Shift + I (Win) をクリックします。
- アイテムのプロパティウィンドウでサムネイルをダブルクリックします。
- サムネイルを右クリックして、メニューからプレビューコマンドを選択します。

注意：


デフォルトで、Portfolio はサムネイルがダブルクリックされたときにファイルをプレビューしますが、この動作を変更できます。

Portfolio > 環境設定 (Mac) 、または **編集 > 環境設定** (Windows) を選択し、一般タブでダブルクリックした結果をプレビューの表示、プロパティの表示、または オリジナルの編集に設定します。

アイテムのプロパティの表示と編集

Portfolio は、カタログ化するすべてのファイルに関する非常に詳細な情報を保存します。この情報には、Portfolio そのものがカタログ作成中に収集するデータである、各ファイルの作成日、ファイルサイズ、画像寸法、ファイルタイプなどが含まれます。また、Portfolio アイテムには、追加可能なメタデータ情報（例えば説明やキーワード）や、カスタムフィールドを使用して追加できるその他のデータも含まれます。こうした情報はプロパティダイアログボックスに表示されます。

アイテムのプロパティを開くには：

- サムネールを選択します。
- ツールバーからプロパティ  をクリックします。または、**COMMAND-I** (Mac) または、**ALT-ENTER** (Windows) を押します。
- 概要、キーワード、フィールドの各タブを切り替えて、各ファイルの詳細を表示します。


プロパティの編集

概要


アイテムプロパティダイアログの、概要パネルではアイテム名と説明を編集することができます。アイテム名はカタログ内の名前で、登録時はファイル名と同じ名前になっています。ここでアイテム名を変更しても、ディスク上のファイル名には影響ありません。

説明フィールドは特に文字数の制限はありません。しかし説明文を短くしておく方が実際の役に立ちます。アイテムの特徴を記しておくよりも内容を記述するためのフィールドです。

キーワード

アイテムにキーワードを追加するには、フィールドに入力して  をクリックします。

カタログでマスターキーワードが用意されていれば、マスターキーワードをクリックしてから割り当てをクリックします。

アイテムからキーワードを削除するには、リストからキーワードを選択して  をクリックします。

キーワードをダブルクリックすると、そのキーワードが割り当てられた全てのアイテムを検索します。

フィールド

フィールドパネルでは、ドロップダウンメニューから表示するフィールドのグループを選択できます。

フィールド値を編集するには、リスト内のフィールド名をダブルクリックするか、フィールドを選択してから編集をクリックします。

アイテムのプロパティナビゲーション

アイテムプロパティダイアログボックス下部の4つのナビゲーションボタン（最初、次へ、前へ、最後）を使用して、選択したアイテム間を移動できます。このため、アイテムのプロパティウィンドウを繰り返し開いたり閉じたりせずに、一連のアイテムに関する情報へのアクセスが簡単になります。

以下のキーボードショートカットを使用して、アイテムのプロパティ内のアイテム間を移動することもできます：

操作	Windows ショートカット	Mac ショートカット
次のアイテムに移動する	CTRL-右矢印	COMMAND-右矢印
前のアイテムに移動する	CTRL-左矢印	COMMAND-左矢印
概要、キーワード、フィールドタブを切り替える	CTRL-TAB	

オリジナルファイルの編集

カタログ化されたファイルを編集するために、Portfolio から他の任意のソフトウェアに直接移動できます。

オリジナルファイルを編集するには：

1. 任意の Portfolio ギャラリーで、編集するアイテムを選択します。
2. アイテム > オリジナル > 編集の順に選択します。または、Command + E (Mac) または Ctrl + E (Win) を押します。
3. Portfolio はオリジナルファイルを編集するために必要なソフトウェアを起動し、そのプログラムでファイルを開きます。

Portfolio は一般に、特定のファイルタイプを編集するために、最後に使用されたソフトウェアの名前と場所を記憶しています。必要があれば（特定のタイプのファイルを初めて編集しようとしたときなど）、アプリケーションを選択するように要求されます。Portfolio は選択した情報を将来のために記憶します。

ファイルの移動、コピー、削除

オリジナルファイルの移動、コピー、名前変更、および削除のすべてを Portfolio の中で実行できます。オリジナルファイルで実行するすべてのアクションは、アイテムメニューのオリジナルファイルの操作サブメニューからアクセスできます。

ファイルをコピーするには：

1. 任意の Portfolio ギャラリーで、コピーするアイテムを選択します。
2. アイテム > オリジナル > コピーの順に選択します。
3. ダイアログボックスで、コピーされるファイルの宛先フォルダを選択し、**選択** (Mac) または **OK** (Windows) をクリックします。Portfolio は、選択されているファイルを指定されたフォルダにコピーします。オリジナルファイルはそのまま残ります。

ファイルを移動するには：

1. 任意の Portfolio ギャラリーで、移動するアイテムを選択します。
2. アイテム > オリジナル > 移動の順に選択します。
3. ダイアログボックスで、移動されるファイルの宛先フォルダを選択し、**選択** (Mac) または **OK** (Windows) をクリックします。Portfolio はオリジナルファイルを指定された新規フォルダの場所に移動し、カタログを更新して、カタログ化されたアイテムの新しい場所を自動的に記録します。

注意：

ファイルのコピーはカタログに影響しません。ただし、ファイルを移動すると Portfolio 内で更新され、パスはファイルの新しい場所を指すようになります。

ファイルを削除するには：

1. 任意の Portfolio ギャラリーで、移動するアイテムを選択します。
2. アイテム > オリジナル > 削除の順に選択します。
3. 警告ダイアログボックスで、**削除** または **すべて削除** をクリックします。Portfolio はディスクからオリジナルファイルを削除します。

画像のバッチ変換

Portfolio は、画像をサポートされているファイル形式から JPEG または TIFF 形式にバッチ変換することができます。ファイルを JPEG 形式または TIFF 形式に変換する場合、画像の解像度、サイズ、カラーモード、ディスク上の場所を変更できるほか、変換されたファイルをディスクに自動的に追加することもできます。

埋め込まれたメタデータは、新しいファイル形式でサポートされる場合、新規ファイルに転送されます。EXIF メタデータの TIFF ファイルへの埋め込みは現在サポートされていません。

注意：

すべてのバッチ変換処理は、Portfolio Server によって行われるため、コンピュータによる処理を解消します。よって、Portfolio Server はカタログ作成するすべてのファイルへのアクセスを持っている必要があります。一般的には、ネットワーク共有上にあるファイルを選択してください。

画像グループをバッチ変換するには：

1. バッチ変換するアイテムを選択します。個別のサムネールを選択するか、複数のサムネールを選択できます。
複数のサムネールを選択するには、Command キー（Mac）または Ctrl キー（Win）を押しながら、各選択対象をクリックします。
2. アイテム > 画像の一括変換を選択します。
3. 画像の一括変換ダイアログボックスで、宛先のファイル形式を選択します。JPEG を選択する場合、設定をクリックして圧縮率または画質レベルを設定します。
4. ドロップダウンボックスからカラーモードを選択します。
5. 画像解像度を変更するには、解像度オプションをチェックし、新しい DPI を指定します。
6. 画像サイズを変更するには、サイズ変更オプションを有効にし、新しいサイズを識別する方法を指定します。
 - パーセントで指定：1%から 500%までの範囲で倍率を変更します。
 - 画像の拡大/縮小：このオプションは選択された高さと同幅に合うように画像を比例して倍率変更します。
 - 画像エリアの拡大/切り取り：このオプションは、元の縦横比を維持しながら、新しい領域の 4 辺すべてに合うように画像を拡大します。定義された領域を超えた辺から画像の均等な部分がトリミングされます。
7. 新しい画像を保存する方法を選択します：
 - ファイルの保存場所を尋ねるダイアログボックスを表示する：変換をクリックすると、Portfolio はディレクトリを指定するよう要求します。
 - オリジナルファイルを新規ファイルで置換する
 - オリジナルと同じフォルダ内：新しいファイル拡張子により、ファイルの名前が現在のファイルと同じになる場合は、ファイルの名前が適切に変更されます。たとえば、bunny.jpg は bunny1.jpg となります。
8. 変換された画像を現在の Portfolio カタログに追加する場合は、新規画像をカタログに追加オプションをチェックします。

注意：

新規画像をカタログに追加するには、管理者または発行者のアクセスレベルを持っていない限りなりません。

9. 変換をクリックします。

画像の回転

Portfolio は JPEG 画像を回転させることができ、ファイルを個別に開き、編集することなく、デジタル写真の向きを縦から横へ(またはその逆に)簡単に切り替えることができます。これは、デジタルカメラから多数の写真をカタログ化し、調整の必要な横向きまたは縦向きの写真が組み合わされている場合、特に便利です。

注意：

Portfolio は JPEG 画像のみを回転させます。他の形式で保存済みの画像を回転させるには、画像編集ソフトウェアでファイルを開き、編集アプリケーション内で回転を実行する必要があります。

JPEG 画像を回転させるには：

1. 回転させるアイテムを選択します。
個別のサムネールを選択するか、複数のサムネールを選択できます。複数のサムネールを選択するには、Command キー (Mac) または Ctrl キー (Win) を押しながら、各選択対象をクリックします。
2. アイテム > オリジナルファイルを回転 (JPEG 画像のみ) を選択して、以下の 3 つのオプションのいずれかを選択します。
 - 時計回りに 90 度回転
 - 反時計回りに 90 度回転
 - 180 度
3. 各アイテムが回転する際、進行状況ダイアログボックスが表示されます。

画像をすばやく回転させるために、**COMMAND + J**キーを押すか (Mac)、または **CTRL + J**キーを押して (Win)、選択した画像を時計回りに回転させるか、**COMMAND + [**キーを押すか (Mac)、または **CTRL + [**を押して (Win)、選択した画像を反時計回りに回転させることができます。

サムネールのみを回転

Portfolio では任意の画像のサムネールのみを回転させ、オリジナルをそのままにしておくことができます。

アイテムのサムネールを回転するには：

1. 回転するサムネールのアイテムを選択します。
個別のサムネール、または複数のサムネールを選択できます。複数のサムネールを選択するには、Command キー (Mac) または Ctrl キー (Win) を押しながら、各選択対象をクリックします。
2. アイテム > サムネールを回転を選択して、以下のサブメニューオプションのいずれかを選択します：
 - 時計回りに 90 度回転
 - 反時計回りに 90 度回転

ファイル名を変更

Portfolio は、カタログ化するオリジナルファイルの名前を簡単に変更するための方法を 5 つ用意しています：

- カタログ作成オプションの名前の変更機能を使用して、ファイルをカタログ化するときに名前を変更できます。これは、デジタルカメラやスキャナからインポートするファイルに名前を付けるときに便利です。
- サムネールを選択し、**アイテム > オリジナルファイルの操作 > ファイル名を変更**の順に選択して、ファイル名を変更ダイアログボックスで新しい名前を入力することにより、個別のファイルを名前変更します。
- サムネールを選択し、Command + Option + N (Mac)、または Ctrl + Shift + N (Windows)、ファイル名を変更ダイアログボックスで新しい名前を入力します。
- カタログ内の任意のアイテムのアイテムのプロパティウィンドウを開いて、名前フィールドで新しい名前を入力します。アイテムのプロパティを開くには、サムネールを選択して、ツールバーのプロパティボタンをクリックするか、Command + I (Mac)、または Alt + Enter (Win) キーを押します。
- スライドショーの途中で、スライドショーコントローラの名前変更ボタンをクリックし、ファイル名を変更ダイアログボックスで新しい名前を入力します。

別のファイルへ再リンク

特定の状況下で、Portfolio アイテム（その説明、キーワード、その他のデータを含む）を保持しながら、アイテムをまったく異なるファイルにリンクする場合があります。たとえば、画像を編集し、別名で保存コマンドを使用して、ファイルを新しい名前で保存することがあります。Portfolio はファイルの新しいバージョンを指しますが、古いアイテムに保存したすべての情報を保持する場合があります。

この処理は別のファイルに再リンクコマンドを使用して行うことができ、任意の既存アイテムを異なるオリジナルファイルに結びつけることができます。

既存のアイテムを新規オリジナルファイルにリンクするには：

1. 再リンクするアイテムのサムネールを選択します。
2. **アイテム > オリジナルファイルの操作 > 別のファイルに再リンク**を選択します。
3. 別のファイルを指定します。
4. Portfolio はカタログ内の既存のアイテムにリンクされているファイルをカタログ化し、アイテムを新規情報（新規サムネール画像など）で更新します。

注意：

別のファイルに再リンク後、Portfolio カタログ内のメタデータを新規ファイルに埋め込むことができます。詳しくは、**メタデータの埋め込み** 25 ページのを参照してください。

カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアへドラッグ

Portfolio はファイルの管理と整理を行うための完璧な機能ですが、創造的な作業のほとんどはおそらく Portfolio の外で発生するものです。例えば、画像の編集、文書の作成、プレゼンテーションの作成、印刷物のページレイアウト、ウェブコンテンツの開発などは、他のソフトウェアで行われます。

Portfolio からこうした他のアプリケーションへの移動は通常、単純なドラッグ&ドロップ操作で済みます。Portfolio を使用して、他のソフトウェアで簡単に画像の作業を行う方法をいくつか以下に示します：


- サムネールをドラッグ&ドロップ対応文書にドラッグし、その文書内に画像のコピーを配置する。
- サムネールを Adobe Photoshop、Illustrator といった画像編集ソフトウェアのエイリアス（またはショートカット）の上にドラッグし、そのソフトウェアで画像を開く。
- サムネールをデスクトップまたはフォルダウィンドウにドラッグし、その場所にオリジナルファイルのコピーを作成する。
- サムネールを電子メールメッセージにドラッグし、添付ファイルとしてオリジナル画像のコピーを送信する。
- OS X の場合は、QuarkXPress のドキュメント内に画像をドラッグできます。サムネールを画像ボックスにドロップすると、作成済みの画像ボックス内に選択した画像が配置されます。Portfolio が新しい画像ボックスを作成することもできます。

アイテムの更新

カタログ化されたすべての情報の更新

更新コマンドは、選択された各アイテムについて、最初にカタログ化された後に変更されたものを完全に更新します。その処理には、各ファイルの場所の確定（必要があれば、ユーザーが特定する）、設定の抽出、新しいサムネールの作成が含まれます。更新コマンドは、カタログ化された後に変更されたアイテム（新しい変更日で示される）のみを更新します。

カタログ化されたすべての情報を更新するには：

1. 更新するアイテムを選択します。
すべてのアイテムを更新するには、ギャラリーパレットからすべてのアイテムギャラリーを開きます。
2. **編集 > すべて選択**を選択します。または、Command + A (Mac) または Ctrl + A (Win) を押します。
3. ツールバーの更新  をクリックするか、または Command-U (Mac) または、Ctrl-U (Windows) を押します。または **アイテム > 更新** をクリックします。

Portfolio は、アイテムに保存されているパス名を使用して、各アイテムのソースファイルを検索します。ソースファイルが見つかり、その変更日が Portfolio 内にもともと記録されている日付より新しい場合、アイテムは更新されます。ソースファイルが見つからない場合は、特定するように要求されます。選択されているアイテムに対して新しいファイルを選択した場合、アイテムは現在のカatalog作成の詳細オプション設定に基づき、新しいファイルの情報によって更新されます。

ソースファイルが見つからず、ファイルを特定するように要求されてこのファイルをスキップをクリックした場合、選択されたアイテムはそのままの状態になります。

オリジナルファイルの場所の更新

ファイルが新しい場所に移動されたが他に何も変更がない場合、パスの変更コマンドを使用してすばやく更新できます。

1. パスを更新するアイテムを選択します。
2. アイテム > パスの変更を選択します。
3. 更新ダイアログボックスが開き、指定されたファイルの新しい場所を見つけるように要求されます。
4. ファイルを選択し、**選択** (Mac) または **開く** (Win) をクリックします。Portfolio 内のアイテムは、オリジナルファイルの正しい場所を指すようになります。

この方法を用いてファイルを更新すると、Portfolio は自動的に同じディレクトリ内で更新する必要がある他のファイルを検索し、同様に更新を提供します。場所の更新ダイアログボックスでサブディレクトリの検索オプションを有効にしている場合、Portfolio はサブフォルダについても一致するファイルを探します。

ドラッグ&ドロップによるパスの更新

カタログ内にある一部のファイルを移動したことが分かっている場合、新しいパス情報でカタログを更新するためのより簡単な方法があります。それは、ドラッグアンドドロップを使用する方法です。この方法は、カタログ化されたファイルを新しい場所に移動し、ファイル名を変更していない場合に限り使用できます。

1. Macintosh の Finder または Windows エクスプローラで、移動されたファイルのアイコンを選択します。
2. **OPTION** キー (Mac) または **CTRL** キー (Win) を押しながら、アイコンを Portfolio カタログにドラッグします。必ず、ファイルが移動される前に、もともとカタログ化されたときと同じカタログの中にファイルをドラッグしてください。
3. Portfolio はダイアログボックスを表示し、これらのファイルのパスを更新することを確認します。
4. **OK** をクリックします。これによって更新されるのはファイルのパスだけで、サムネールや他の設定は更新されないことに注意してください。

サムネールを再作成するための更新

この更新コマンドにより、Portfolio は選択された各ファイルを再確認し、最新のサムネール画像を作成します。これは最初、112 ピクセルのサムネール設定でアイテムをカタログ化した後、256 ピクセルのサムネールが必要になった場合などに便利です。

サムネールを再作成するには：

1. 新規サムネールを作成するアイテムを選択します。
2. アイテム > サムネールの再作成を選択します。
3. Portfolio は各ファイルを再確認し、新規サムネールを作成します。

ファイルを検索

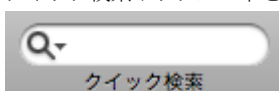
Portfolio の最も重要な機能の 1 つは、必要に応じてデジタルファイルを検索し取り出すことができることです。カタログ化されたデータを詳しく検索するいくつかのツールが利用できます。


クイック検索

Portfolio で最も簡単で使いやすい検索機能は、ツールバーの右側にあるクイック検索ボックスです。クイック検索では、任意のフィールドの組み合わせに基づいて、現在のギャラリーの中からファイルを検索することができます。クイック検索ではボタンをクリックしたり、メニューをプルダウンしたり、検索ダイアログボックスを開いたりする必要はありません。クイック検索が、ファイルの検索を行う、最も速くて簡単な方法です。

クイック検索を行うには：

1. クイック検索ボックスの中をクリックします。



2. 単語またはフレーズをボックスに入力して、Enter キーを押します。クイック検索はデフォルトでは、ファイル名と説明フィールドを「を含む」で検索を行い、キーワードフィールドのような複数の値を持つフィールドは「で始まる」で検索を行います。
3. 一致するアイテムが  検索結果のギャラリーに表示されます。



注意：

クイック検索ボックスで入力したテキストは、Enter キーを押して検索を行った後でも選択されたままになっています。別のクイック検索を行うには、検索に用いる別の単語やフレーズを入力して Return キーを押すだけです。

同じギャラリー内での複数検索

クイック検索は現在のギャラリーだけを検索するので、特定のアイテムを探し出すために検索内容をすばやく改良できます。


たとえば、鳥というキーワードを含むアイテムをすべて検索する場合は以下のように行います。

1. ギャラリーパレット  ですべてのアイテムのギャラリーを選択します。
2. クイック検索フィールドに鳥を入力し、キーボードで **ENTER** キーを押します。検索結果のギャラリーに結果が表示されます .
3. 次に鳥を含むアイテムで、キーワードに赤を持つものだけにします。クイック検索フィールドに赤を入力し、**ENTER** キーを押します。Portfolio は現在のギャラリー（鳥のクイック検索結果を含むギャラリー）だけを検索して、その中で見つかったアイテムを表示します。

検索コマンドの使用


多くの Portfolio ユーザーにとっては、クイック検索ボックスを使った簡単な複数フィールドの検索で十分満たされます。しかし、Portfolio の高度な検索エンジンを使えば、複数の検索条件を用いた複雑な検索を行うことも可能です。複雑な検索方法を保存すると、最小の労力で同じ検索を再び行うこともできます。保存した検索方法をギャラリーに適用して、開かれるたびに保存した検索を実行するスマートギャラリーを作成することもできます。Portfolio の検索コマンドを使えば、特定の検索パラメータを用いて、任意のフィールドを任意の組み合わせで検索することができます。

検索ダイアログボックスにアクセスするには：

- ツールバーから検索ボタン  をクリックします。
- Command-F (Mac)、Ctrl-F (Windows) を押します。
- 編集 > 検索 > 検索 (Mac)、カタログ > 検索 (Windows) を選択します。

特定のアイテムの検索

特定のアイテムの検索：

1. ツールバーから検索ボタン  をクリックします。または Command-F (Mac)、Ctrl-F (Windows) を押す
または編集 > 検索 > 検索 (Mac)、カタログ > 検索 (Windows) の順に選択します
2. フィールドメニューから検索に使用するフィールドを選んで、検索に用いる条件を選択します。
3. 真ん中のメニューから一致オプションを選択します。検索を行うフィールドによって、8~14 種類のオプションがあります。「と等しい」や「と一致する」を用いて正確な言葉を検索したり、「を含む」や「以外で終わる」を用いてもう少し緩やかな条件で検索したりできます。
4. 必要に応じて、他の検索オプションも選択します：
現在のギャラリー内で検索：このチェックボックスをオンにすると、Portfolio は現在のギャラリーにあるアイテムのみを検索し、カタログ内の他のすべてのアイテムは無視されます。これは、目標のファイルに焦点を合わせるために、段階的に条件を狭めて検索を行う場合に便利です。カタログ内で条件に一致するすべてのアイテムを検索する場合は、このオプションのチェックが外されていることを確認してください。
複数のカタログを検索：複数のカタログを開いていない場合は、このオプションは選択できません。複数のカタログを開いている場合は、このオプションを選択し、開いているすべてのカタログでアイテムを検索できます。詳細については [複数のカタログを検索](#) 52 ページの を参照してください。
新規一時ギャラリーに結果を表示：このオプションを選択すると、新しいギャラリーが作成され、検索結果をそのギャラリーに表示します。デフォルトでは、検索結果は検索結果ギャラリーに表示されます。
5. 検索をクリックして検索を開始します。

複数の条件による検索

検索ダイアログボックスを使えば、複数の条件(ファイルタイプ、作成日、およびキーワードの一致)に基づいて、より複雑な検索を行うことができます。

複雑な検索を行うには：

1. 検索ダイアログボックスで条件を追加ボタン (Windows) または[+]ボタン (Mac) をクリックして、追加の検索条件を含めるようにダイアログボックスを拡大します。ダイアログボックスを拡大して、最大 5 個まで検索条件を指定することができます。条件を増やした後で、より簡単な検索をするために条件を減らすボタン (Windows) または[-]ボタン (Mac) をクリックして、条件を減らすことができます。
2. 左のフィールドプルダウンメニューから検索に使用するフィールドを選んで、検索に用いる条件を選択します。
3. 真ん中のメニューから一致オプションを選択します。検索を行うフィールドによって、8~14 種類のオプションがあります。「と等しい」や「と一致する」を用いて正確な言葉を検索したり、「を含む」や「以外で終わる」を用いてもう少し緩やかな条件で検索したりできます。
4. 必要に応じて、他の検索オプションも選択します：
現在のギャラリー内で検索：このチェックボックスをオンにすると、Portfolio は現在のギャラリーにあるアイテムのみを検索し、カタログ内の他のすべてのアイテムは無視されます。これは、目標のファイルに焦点を合わせるために、段階的に条件を狭めて検索を行う場合に便利です。カタログ内で条件に一致するすべてのアイテムを検索する場合は、このオプションのチェックが外されていることを確認してください。
複数のカタログを検索：複数のカタログを開いていない場合は、このオプションは選択できません。複数のカタログを開いている場合は、このオプションを選択し、開いているすべてのカタログでアイテムを検索できます。詳細については、[複数のカタログを検索](#) 52 ページの を参照してください。
新規一時ギャラリーに結果を表示：このオプションを選択すると、新しいギャラリーが作成され、検索結果をそのギャラリーに表示します。デフォルトでは、検索結果は検索結果ギャラリーに表示されます。
5. 検索を調整するために、各検索行のおよび/またはのメニューを設定します。
6. 検索をクリックして検索を開始します。
7. 検索結果のギャラリーに結果が表示されます。

検索条件オプション

以下の表では、検索に利用できるカタログの一般的なフィールドのリストです。カスタムフィールドがある場合は、同様に検索が可能です。

アイテムがカタログに登録される際に、ファイル内のメタデータが関連フィールドに抽出されます。Adobe アプリケーションで作成されたファイルなどでは XMP メタデータを持っており、ファイル作成時に多彩な情報をファイルに入れることができます。Portfolio ではこれらの情報を抽出して基本フィールドに抽出します。

基本フィールド

これらのフィールドは多くのドキュメントタイプで利用できます。

フィールド名	説明
ファイル名	ファイル名
ファイルサイズ	ファイルサイズ
作成日	オリジナルファイルが作成された日付（日付フィールドについての注意をお読みください）
修正日	オリジナルファイルが最後に修正された日付（日付フィールドについての注意をお読みください）
説明	ファイルの説明
キーワード	アイテムにアサインされたキーワード

日付フィールドについての注意：

日付フィールドには日付と時間の両方が常に含まれていますが、日付のみ表示されます。検索時には時間を含めた検索条件が必要です。

例：2012年2月14日に撮影された写真を検索する場合は、「02/14/2012 12:00 am より以降に作成」と「02/15/2012 12:00 am より以前に作成」で検索します。

ファイル情報フィールド

これらのフィールドはアセットの場所情報やサイズ情報を含んでいます。

フィールド名	説明
ディレクトリパス	アイテムのフルディレクトリパス（ファイル名は含まない）
ボリューム	アイテムの存在する物理ドライブまたはディスク
高さ	アイテムの高さ、ピクセル数（サムネールが抽出された場合は空白）
幅	アイテムの幅、ピクセル数（サムネールが抽出された場合は空白）
水平解像度	アイテムの水平解像度、dpi
垂直解像度	アイテムの垂直解像度、dpi
ビット数	画像ファイル内のカラービット数
カラーモード	画像内に含まれるカラーモードで、Portfolio は画像から直接カラーモードを抽出します。Portfolio が理解できるカラーモード：白&黒、グレースケール、RGB、CMYK、YUV、Lab、YCKK（その他のモードは不明となります）。
カラープロファイル	画像が作成されたデバイスやアプリケーションによりエンベッドされたカラースペース（例：sRGB、Adobe RGB (1998)、キャリブレートモニタのプロファイル等）
ページ数	複数ページドキュメントのページで数

カタログ情報フィールド

これらのフィールドではアセットのカタログ記録です。ユーザーによる編集はできません。

フィールド名	説明
カタログ登録日	最初に Portfolio にカタログ化された日付と時刻
カタログ登録者	Portfolio にカタログ化したユーザー名
最終変更日	最後に変更された日付と時刻
最終変更者	最後に変更したユーザー名
アイテム ID	カタログ内のユニーク ID 番号
サムネイルサイズ	カタログ内のサムネイルサイズ：32（アイコン用）、112、256 ピクセル

ワークフローフィールド

これらのフィールドは Portfolio カタログをワークフローで利用する場合に使います。カスタムフィールドに追加すると便利です。

フィールド名	説明
承認の日付	アセットが承認された日付（日付フィールドについての注意をお読みください）
承認者	アセットの承認が必要な人の名前
クライアント名	アセットに関連するクライアント名
ジョブ名	アセットに関連するジョブやプロジェクトの名前
ジョブステータス	進行状況
回覧先	アセットを次ぎに回覧するユーザー名
回覧者への注意	アセットを回覧する人への注意
ウェブサイト	アセットに関連するウェブサイト
必要事項	アセットやジョブ完了に必要な説明

他のフィールド

以上の検索可能なフィールドの他に、Portfolio ではファイルから様々なメタデータを抽出することができます。IPTC や EXIF メタデータ（画像やデジタルカメラデータ用メタデータ）や、デジタル写真やビデオに含まれる GPS ロケーションフィールド、ビデオやアニメーションファイルに含まれる映像専用のメタデータ、MS Office メタデータなどがあります。これらのフィールド名は EXIF、GPS、IPTC、Movie、MS で始まり、検索に利用することができます。

検索条件の保存

日常的にカタログから特定のタイプのアイテムを検索する必要がある場合は、それらのアイテムの検索方法に名前をつけて保存することができます。

保存済みの検索方法は、検索ダイアログボックスの保存済みの検索方法ドロップダウンメニューに表示されます。保存済みの検索方法を使用するときは、メニューから検索方法の名前を選択するか、検索パレットで保存した検索方法をダブルクリックするか、または Windows の場合、ツールバーの保存済みの検索方法を使用してドロップダウンメニューから検索を選択します。

検索条件を保存するには：

1. 検索ダイアログボックスで検索方法を設定します。
2. 保存済みの検索方法ドロップダウンメニューから別名で保存を選択します。
3. 検索方法を保存ダイアログボックスで、新しい検索方法の名前を入力します。
4. **OK** をクリックして検索ダイアログボックスに戻ります。Portfolio は作成した検索の定義をカタログに保存します。

保存済みの検索方法を使用するには：

- 検索ダイアログボックスの保存済みの検索方法ドロップダウンメニューから保存済みの検索方法を選択します。
- Windows の場合、ツールバーの検索ドロップダウンメニューから保存済みの検索方法を選択します。
- 検索パレットを開いて(ウインドウ > 検索方法を表示)、パレット上で保存済みの検索方法の名前をダブルクリックする。
- 検索パレットで保存済みの検索方法を選択して検索ボタンをクリックするか、パレットのフライアウトメニューから検索を選択します。
- 保存済みの検索方法をギャラリーに添付して、スマートギャラリーを作成します(ギャラリー > 設定 > スマートギャラリー)。スマートギャラリーを開くと、検索が自動的に実行されます。

保存済み検索方法の名前変更、コピー、または削除

1. 検索ダイアログボックスで保存済みの検索方法ドロップダウンメニューからリストの編集を選択します。
2. 「検索方法のリストを編集」ダイアログボックスで、編集したい「保存済みの検索方法」を選択します。
3. 検索方法の名前変更、検索方法のコピー、または検索方法の削除の中から適切なボタンをクリックします。
4. OK をクリックして検索ダイアログボックスに戻ります。

—または—

1. 保存済みの検索方法パレットから、名前の変更または削除したい検索方法を選択します。
2. フライアウトメニューから、検索方法を削除または検索方法の名前変更を選択します。

デフォルトの検索方法

検索ダイアログボックスを開くたびに(または保存済みの検索方法ドロップダウンメニューからデフォルトを選択)、Portfolio は検索フィールドをデフォルトの検索方法で指定された属性で設定します。

デフォルトの検索方法を編集して、最も頻繁に使うアイテムを検索コマンドにあらかじめ設定することができます。

デフォルトの検索方法を変更するには：

1. 検索ダイアログボックスを開いて、デフォルトにしたい検索フィールドを設定します。
2. 保存済みの検索方法ドロップダウンメニューから、デフォルトとして保存を選択します。

パレットからの検索

マスターキーワードパレットやカスタムフィールドから作成した任意のパレットを使えば、どんなダイアログボックスを開く必要もなく、簡単に検索を行うことができます。

パレットから検索するには：

1. パレットで表示するキーワードをダブルクリックします。
2. 選択されたキーワードを持つすべてのアイテムが検索結果のギャラリーに表示されます。

注意：

キーワードリストが大きい場合は、マスターキーワードパレットのテキスト入力フィールドに文字を入力すれば、その文字で始まるキーワードにカーソルが移動するので、キーワードリストの中をすばやく移動することができます。

複数のカタログを検索

複数のカタログに対して検索するには：

1. 検索に含めたいカタログをすべて開きます。開いているカタログはカタログパレットに表示されます。開かれているカタログをすべて検索する必要はありませんが、開かれていないカタログを検索することはできません。
2. カタログパレットで、検索対象に含めたいカタログを選択します。カタログ名の左の虫眼鏡アイコンは、そのカタログが検索対象に含まれることを示しています。アイコンが表示されていない場合は、そのカタログは検索対象から除外されています。
3. 検索ダイアログボックスで、複数のカタログを検索オプションを有効にします。
4. 検索ダイアログボックスで（標準の単一カタログ検索の場合と同様の方法で）検索パラメータを設定し、**検索**をクリックします。
5. 検索結果は、新しい複数カタログの検索結果ギャラリーに表示されます。このギャラリーには複数のカタログからのアイテムが含まれるので、ギャラリーを設定したり、Web ページの作成、またはアイテムのディスクへの書き込みに使用したりすることはできません。

（検索した結果がひとつのカタログ内に含まれているアイテムの場合は、そのカタログの検索結果ギャラリーに表示されます）

複数カタログの検索結果を保存

別のギャラリーから画像をドラッグして、複数カタログの検索結果を保存することができます。ギャラリーは特定のカタログと関連しているため、ギャラリーにファイルをドラッグする際、別のカタログにそのファイルがあった場合は、ファイルがそのギャラリーを持つカタログにコピーされます。

複数カタログの検索結果を保存するには（Windows）：

1. カタログを選択して、複数カタログの検索結果を格納する新しいギャラリーを作成します。
2. 複数カタログの検索結果ギャラリーが最大化した場合、右上の端にある元に戻すボタンをクリックしてギャラリーを表示します。
3. ファイルをクリックして、複数カタログの検索結果ギャラリーから新しいギャラリーにドラッグします。

複数カタログの検索結果を保存するには（Mac）：

1. カタログを選択して、複数カタログの検索結果を格納する新しいギャラリーを作成します。他のカタログにあるファイルは、新しいギャラリーとカタログにコピーされることに注意してください。
2. Mac OS X の Portfolio はギャラリーを別々のウィンドウで表示するため、容易にファイルのコピーができます。ファイルをクリックして、複数カタログの検索結果ギャラリーから新しいギャラリー、またはギャラリーパネルにあるギャラリー名の上にドラッグします。

カタログ作成のステータスによってファイルを検索

Portfolio は、アイテムのカタログ作成のステータスに基づいたアイテムの検索を容易にします。例えば、カタログ作成の処理が中断された場合、カタログには部分的にカタログ化されたアイテムが含まれる場合があります。

部分的にカタログ化されたアイテムを検索するには（黄色のドット）：

- **編集 > 検索 > 部分的にカタログ化されたアイテム (Mac)** を選択します。

—または—

- **カタログ > その他の検索 > 部分的にカタログ化されたアイテム (Windows)** を選択します。

部分的にカタログ化されたアイテムを検索したら、すべてのアイテムをこのステータスで選択して、**アイテム > 更新**を選択すると、カタログ作成の処理が完了します。

読み取り不可能のアイテムを検索するには（赤のドット）：

- **編集 > 検索 > 読み取り不可能のアイテム (Mac)** を選択します。

—または—

- **カタログ > その他の検索 > 読み取り不可能のアイテム (Windows)** を選択します。

読み取り不可能のアイテムを検索したら、**アイテム > オリジナル > Finder** で表示する (Mac) または **アイテム > オリジナル > エクスプローラ** で表示 (Windows) コマンドを使用して、ファイルを検索し、ファイルのインテグリティや許可に関する問題を解決できます。

仮レコードアイテムの検索

作成したすべての仮レコードを簡単に見つけて、作成した仮レコードや更新または削除する必要がある仮レコードを管理することができます。

すべての仮レコードを検索するには：

- **カタログ > その他の検索 > 仮レコードアイテム (Windows)** を選択します。
- **編集 > 検索 > 仮レコードアイテム (Mac)** を選択します。

書類のテキストの検索

書類内のテキスト検索コマンドを使えば、カタログアイテムではなく、カタログ化された書類のテキストから英文の単語やフレーズを検索することができます（日本語は利用できません）。

注意

Portfolio では、テキストファイルと PDF ファイルでのみ検索を行うことができます。また、上記の種類 of ファイルをカタログに追加する際には、**詳細カタログ作成オプション**ダイアログボックスで、**書類内のテキストをインデックス化オプション**を選択していることを確認してください。

カタログ化された書類からテキストを検索するには：

1. **カタログ > その他の検索 > 書類のテキスト (Win)**、または **編集 > 検索 > 書類内のテキスト (Mac)** の順に選択します。
2. 検索する単語またはフレーズを検索する単語テキストボックスに入力します。
3. いずれか/すべてのドロップダウンボックスから
 - **すべてを選択して、見つかった書類ですべての検索単語を要求します。**
 - **いずれかを選択して、検索単語のいずれかのみを要求します。**
4. ドロップダウンメニューから、一致オプションを選択します。
これらのオプションは普通の検索コマンドの場合と同様です。
5. 検索対象を現在のギャラリーに限定する場合、または複数のカタログを検索する場合は、適切なオプションを選択します。
6. **検索**をクリックして検索を開始します。

消失ファイルの検索

ファイルのカタログ化後、移動、名前変更、削除が行われると、Portfolio がファイルを追跡できなくなる可能性があります。消失ファイルの検索コマンドを使用して、そのような消失ファイルを簡単に検索して、Portfolio に再リンクしたり、またはカタログから削除したりできます。

注意：

Portfolio はマウントされているボリュームでのみ、消失ファイルの検索を行います。カタログ化されたアイテムソースファイルを含むボリュームがマウントされていない場合、Portfolio はそれらのファイルについて報告しません。

消失ファイルをチェックするには：

1. **カタログ > その他の検索 > 消失ファイル** (Win) 、または **編集 > 検索 > 消失ファイル** (Mac) の順に選択します。Portfolio はカタログ内に保存されている各アイテムのパス名を、マウントされているすべてのボリュームとディスクに対して比較し、ソースファイルがその場所で見つかるかを確認します。結果は消失ファイルダイアログボックスに表示されます。
2. 消失ファイルが見つかった場合は、リスト内の各アイテムを選択します。
3. **検索** をクリックして、そのファイルの新しい場所を指定します。指定した場所で消失ファイルが見つかった場合は、カタログ内のアイテムが自動的に更新されます。または、**カタログから削除** をクリックして、Portfolio カタログから選択したアイテムを削除してください。

プリント

通常はカタログアイテムを検索および選択して、ソースファイルの編集、表示、または別文書での使用を行います。カタログそのものからプリントする場合があります。たとえば、選択した画像をクライアントに見せたり、文書で使用するためにアイテムを評価したりする場合があります。

画面上のギャラリーの表示を設定すると、表示設定は、ギャラリーからアイテムをプリントする際にも使用されます。

プリントオプション

「プリント」ダイアログボックスには、標準プリンタの選択、ページ範囲、コピー数のコントロールのほか、アイテムがページ上に表示される様子を指定するためのオプションが含まれています。

Mac OS XでPortfolio プリントオプションにアクセスするには、プリントダイアログの中のオプションプルダウンメニューからPortfolio を選択します。

プリンタ：ドロップダウンボックスからプリンタを選択し、**設定**をクリックしてプリンタ固有のオプションを設定します。

現在のギャラリー表示を印刷／ページ単位に指定されたアイテム数：このドロップダウンボックスにより、1 ページに配置される画像の数、および現在の表示設定を使用するかどうかを指定できます。「現在のギャラリー表示を印刷」は、ギャラリーから任意の保存済みのビューのデータを使用します。他のすべての設定は、ページ単位に特定の数のアイテムをフレームやテキストなしでプリントします。

ページあたりのアイテム数：現在のギャラリー表示のプリントを選択した場合、ページあたりのアイテム数を指定できます。

- **最大級**：このオプションは、すべてのアイテムフレームとテキストを含め、実際のサムネールサイズで可能な限り多くのアイテムをプリントします。
- **横のアイテム数**：このオプションはサムネールのサイズを変更し、グリッドに配置します。この設定ではフレームがプリントされないことに注意してください。

印刷対象：Portfolio がカタログ内に保存されている低解像度のサムネールのみをプリントするか（サムネールを選択）、フル解像度の画像をプリントするか（オリジナルを選択）を選択できます。

画質：この設定は、オリジナル画像をプリントするときに Portfolio が使用する解像度データのレベルを指定します。最高の設定にすると、プリンタの負荷が高くなります。一部のプリンタは十分なメモリが搭載されていないため、プリンタにダウンロードされるデータ量に対応できない場合があります。問題が発生する場合は、設定を「高い」または「標準」に切り替えてみてください。

画像を同様のサイズに変更：このオプションは、横のアイテム数か、ページ単位に指定されたアイテム数を選択した場合に使用できます。このオプションは、横向き画像と縦向き画像のレイアウトを、統一のとれた外観にする際に役立ちます。たとえば、レターサイズの用紙にページあたり4つの画像を配置するレイアウトを選択した場合、縦向き画像はページ上ですべて同じサイズになりますが、横向き画像はより狭い幅に合わせる必要があるためにサイズが小さくなります。このオプションを選択すると、縦向き画像はサイズが変更され、横向き画像のサイズに近くなります。

ページ余白：ページの余白をインチで設定します。デフォルトはページの上、下、左、右、いずれも0.5インチです。

ヘッダー／フッター：ヘッダーまたはフッターは、プリントしたページの上部または下部に表示する任意のテキストを含みます。

次の値から始まるページ番号を印刷：数値を入力することで、開始ページ番号を設定することができます。

単一ファイルのプリント

プレビューウィンドウで、**ファイル>プリント**を選択して、単一のフルサイズの画像をプリントできます。印刷の質を高めるために、「オリジナルの編集」コマンドを使用し、カタログ化された画像をオリジナルのアプリケーションで開き、そこからプリントすることを推奨します。

コンタクトシートのプリント

「コンタクトシート」とは、1 ページ内に小さいサイズの一連の画像が表示されているものです。コンタクトシートは、クライアントにいくつかの画像の中から選択してもらったり、特定のギャラリー内に含まれているアイテムを印刷して参照できるようにするために使います。

コンタクトシートをプリントするには：

1. ギャラリーパネルから、コンタクトシートをプリントしたいギャラリーを選択します。特に表示をカスタマイズする必要はありません。画像はフレームまたはテキストなしで「そのまま」プリントされます。
2. ファイル>プリントを選択します。
3. OS X では、プリントダイアログの下にある、詳細を表示ボタンをクリックします。
4. **現在のギャラリービューを印刷する**ポップアップメニューから、各ページに含める画像数をクリックして選択します。
5. テキストボックスに、アイテム間の最小間隔を入力します。
6. すべての画像をほぼ同じサイズに整える場合は、**画像を同様のサイズに変更**チェックボックスをオンにします。
7. 画像品質を選択します。解像度をあげると印刷に時間がかかります。
8. ページ番号、余白、ヘッダ&フッタ情報を入力します。
9. **OK** (Windows) または、**プリント** (Mac) をクリックします。

ギャラリーからのアイテムのプリント

サムネールまたはカタログアイテムのリストをプリントするには：

1. プリントするアイテムを選択してギャラリーウィンドウに配置します。
2. 保存済みのビューを適用するか、並べ替え、手動によるアイテムの順序付け、フレーム、背景色など、必要な外観になるようにビューをカスタマイズします。選択するビュータイプは、サムネール、アイテム、またはリストで、プリントページへの画像の配置方法に直接影響を与えます。
3. ギャラリーで必要な設定を行ったら、ファイル>プリントを選択します。

オートシンク

オートシンクは最も重要で高性能な Portfolio の機能の 1 つであり、ネットワーク上のフォルダの内容を Portfolio が作成/管理するカタログと同期させる素晴らしい機能です。

オートシンクはコンピュータシステム上の特定のフォルダと Portfolio カタログのアイテム間にリンクを作成します。オートシンクのフォルダパレットにフォルダを追加すると、Portfolio からサムネールをそのフォルダにドラッグするだけで、アイテムをそのフォルダに移動することができます。逆に、コンピュータシステム上で（Mac の Finder または Windows エクスプローラを用いて）そのフォルダに移動したファイルは、自動的に Portfolio でカタログ化されるため、Portfolio カタログの内容はディスク上のフォルダの内容と完全に一致します。

オートシンクはディスク上にあるフォルダとファイルを表示するだけではありません。オートシンクを使えばフォルダの作成、移動、削除を行うことができ、事実上 Portfolio からディスクファイルの管理、およびカタログ化されたファイルを希望する場所に置くことが可能になります。

オートシンクの典型的な使用方法：


- Portfolio カタログからサムネールをフォルダにドラッグして、Portfolio でディスク上のファイルを整理する。
- ハードディスク(またはネットワーク)から既存の階層構造のフォルダを Portfolio の「フォルダパレット」に追加し、同期ボタンを一度クリックするだけで、すべてのフォルダの内容をカタログ化する。
- Portfolio でネットワーク上の任意の数のフォルダを監視し、これらのフォルダにファイルが追加されたり、これらのフォルダのファイルが変更されたり削除されるたびに、視覚的に警告を行う。
- Portfolio を終了することなく、または Portfolio カタログを手動で更新することなく、カタログ化されたファイルをネットワーク上のフォルダから別のフォルダへと移動する。
- ワークグループの他のユーザーが、オートシンクが監視しているフォルダに対し、ファイルをドロップするだけで、カタログにアイテムを追加できるようにする。同期ボタンを一度クリックするだけで、それらのファイルをカタログに移動できます。

注意：

Portfolio Server にファイルをアップロードする必要があるウェブクライアントユーザーは、オートシンクフォルダが必要です。

フォルダパレットの表示

オートシンクを使用するためには、フォルダパレットを表示する必要があります。

表示されていない場合は、ツールバーのフォルダ  をクリックするか、表示>フォルダを選択して、パレットを表示します。

最初、フォルダパレットは空白です。Portfolio と同期させるハードディスクまたはコンピュータネットワーク上にある任意のフォルダは、追加された後にこのパレット内に表示されます。



新しい監視フォルダの追加

フォルダ同期の使用を開始するためには、システム上のどのフォルダを Portfolio に監視させるかを指定する必要があります。Portfolio に階層構造になっているフォルダを監視させるには、最上位のフォルダを Portfolio に指定します。

重要：

Portfolio Server でカタログ登録したファイルにアクセスするすべてのユーザーは、オートシンクフォルダは Portfolio サーバーとすべての Portfolio デスクトップクライアントの両方にアクセスできる必要があります。

新しい監視フォルダをフォルダパレットに追加するには：

1. フォルダパレットの 1 番上にある、監視フォルダを追加  をクリックします。
2. Portfolio サーバーと同期を維持するフォルダを選択します。標準のダイアログボックスが開き、フォルダを選択するよう求められます。Portfolio に階層構造になっているフォルダをすべて監視させるには、階層構造の最上位のフォルダを選択します。Portfolio が自動的にサブフォルダを確認し、フォルダパレットにそれらを含めます。選択ボタン (Mac) または OK ボタン (Windows) をクリックしてフォルダを選択します。
3. オートシンクの設定ダイアログボックスで、Portfolio がフォルダを監視する方法と、新しいファイルが見つかったとき、またファイルが削除されたときの動作を指定します。
 - **フォルダ内の変更を常に監視するオプションを使うと、オートシンクフォルダで変更をスキャンする時間を指定できます。変更が検出されたときには、フォルダ表示でフォルダ名がハイライト表示されます。**
 - **同期する間隔オプションを使うと、オートシンク (一番上の階層にあるフォルダ) 内のアイテムをカタログに追加する間隔、またはカタログから削除する間隔を設定できます。**
 - **同期時にカタログ作成オプションプリセットオプションを有効にして、カタログ作成中に保存したプリセットを使用します。** カタログ作成時のプリセットを作成して保存しておく、そのプリセットがドロップダウンリストに含まれます。コピー、移動、ファイル名の変更機能を含んだプリセットも選択できますが、同期時に使用する際にはプリセットのこうした機能は無視されます。基本的に、カタログ作成プリセットのプロパティの割り当て (フィールド名、説明、キーワード) のみが使用されます。プロパティ割り当て機能を含んでいないプリセットは、ドロップダウンリスト内に表示されません。詳細は、[カタログ作成オプションプリセットの保存 18 ページ](#)を参照してください。
 - **カタログにあるアイテムのオリジナルファイルが見つからないときオプションを使うと、オートシンク処理でオリジナルのファイルが見つからない場合、アイテムをそのままにしておくか、削除するかを指定できます。**
4. OK をクリックしてオートシンクを設定し、もう一度 OK をクリックしてオートシンクフォルダを作成します。選択したフォルダはフォルダパレットのリストに表示されます。監視フォルダは小さいバインダーアイコンでフォルダパレットに表示されます。すべてのサブフォルダはサブフォルダアイコンで表示されます。
5. 同期ボタン  をクリックして新たに追加されたフォルダのコンテンツを現在の Portfolio カタログと同期させます。新しいフォルダがフォルダパレットに追加されたときは必ず、その名前は太字で表示され、そのフォルダがまだ Portfolio と同期されていないファイルを含んでいることを表します。同期ボタンをクリックすると、Portfolio は選択したフォルダの内容を調べて、フォルダ内のまだカタログ化されていないすべてのアイテムをカタログ化します。


注意：

フォルダパレットに空のフォルダを追加した場合は、太字で表示されません。そのフォルダには Portfolio と同期する必要のあるファイルがまだ含まれていないためです。

6. オートシンクダイアログボックスに、Portfolio がカタログ化するファイルがリストで表示されます。カタログ化作業を継続するには同期ボタンをクリックしてください。

監視フォルダのオートシンク設定の編集

オートシンク監視フォルダの設定は、いつでも編集することができます。

1. 設定を編集する監視フォルダを選択します。
2. フォルダパレットの一番上にある監視フォルダの設定ボタン  をクリックします。
3. オートシンクの設定ダイアログボックスで設定を編集して、OK をクリックします。



監視フォルダの削除

フォルダパレットから監視フォルダを削除すると、Portfolio はディスク上のそのフォルダの監視を停止し、それ以降フォルダをカタログの内容と同期させません。

注意：

監視フォルダを削除しても、そのフォルダはハードディスクまたはネットワークから削除されません。また、フォルダに含まれるどのファイルも削除しません。この操作は単にフォルダと Portfolio の接続を切るだけです。

フォルダパレットから監視フォルダを削除するには：

1. フォルダパレット内で削除する監視フォルダを選択します。サブフォルダではなく監視フォルダを選択したことを確認してください。
2. フォルダパレットの1番上にある、監視フォルダの削除ボタン  をクリックします。注意：フォルダの削除  ではなく、必ず監視フォルダの削除をクリックしてください。
3. Portfolio は、フォルダパレットのリストから削除するフォルダをこれ以降は監視しない、という警告を表示します。OK をクリックします。
4. これで監視フォルダはフォルダパレットのリストに表示されません。これは、Portfolio がその内容を監視していないことを示します。削除されたフォルダ内で保存されたアイテムはカタログからは削除されません。

監視フォルダの内容の表示

監視フォルダを（ハードディスクまたはネットワークから）フォルダパレットに追加すれば、Portfolio を使ってそのフォルダ内にある任意の使用可能なフォルダや監視フォルダ自体の内容をすばやく表示することができます。

フォルダおよびすべてのサブフォルダの内容を表示するには：

1. フォルダパレット内のフォルダをクリックします。
2. 選択されたフォルダとそのすべてのサブフォルダ内のファイルが、現在の Portfolio ギャラリーに表示されます。

1つのフォルダのみの内容を表示するには：

1. Option キー（Mac）または Ctrl キー（Windows）を押しながら、フォルダパレットでフォルダをクリックします。
2. 選択したフォルダのファイルのみが現在の Portfolio ギャラリーに表示されます。

フォルダパレットによるファイルの移動

Portfolio を使えばフォルダパレットに表示されている任意のフォルダへ、または任意のフォルダから、カタログ化されたファイルを簡単に移動したり、コピーしたりできます。つまり、ファイルを整理するときに、Macintosh の Finder や Windows エクスプローラに切り替えて、ファイルをフォルダからフォルダへ移動する必要はありません。Portfolio で行うことができます。

フォルダパレットを使ってアイテムをフォルダに移動するには：

1. カタログ化された任意のアイテムのサムネールをフォルダパレットで表示されているフォルダにドラッグします。
2. Portfolio は自動的にファイルをコンピュータシステム上の対応するフォルダに移動し、ファイルの新しい場所を反映するように Portfolio カタログを更新します。

ファイルを 1 つのフォルダから別のフォルダに移動するには：

1. フォルダパレットでフォルダをクリックして、現在の Portfolio ギャラリーで、選択したフォルダ内のファイルを表示します。
2. カタログ化された任意のアイテムのサムネールをフォルダパレットで表示されている別のフォルダにドラッグします。
3. Portfolio は自動的にファイルをコンピュータシステム上の対応するフォルダに移動し、ファイルの新しい場所を反映するように Portfolio カタログを更新します。


注意：

ボリューム間でのファイルの移動は Macintosh の Finder または Windows エクスプローラと同様で、オリジナルを削除または移動することなく、ファイルを新しい場所にコピーします。


オートシンクによる新しいフォルダの作成

オートシンクを使用すれば、Portfolio 内で新しいフォルダ、または既存のフォルダの新しいサブフォルダを作成して、それらのフォルダでディスク上の画像を分類したりカテゴリ化したりできます。これらのフォルダを設定するために、Macintosh の Finder や Windows エクスプローラに切り替える必要はありません。Portfolio のフォルダパレットから、ハードディスクまたはネットワーク上のフォルダの追加、削除、移動ができます。


新しい監視フォルダを作成するためには：

1. フォルダパレットで既存のフォルダが選択されていないことを確認してください。
2. フォルダパレットの 1 番上にある、監視フォルダの追加ボタン  をクリックします。
3. フォルダ選択ダイアログボックスで、新しいフォルダの場所を指定して、新規ボタン (Mac) または新規フォルダボタン (Win) をクリックします。
4. 選択 (Mac) または OK (Win) をクリックして選択を確認します。
5. 作成したフォルダは、フォルダパレットで新しい監視フォルダとして表示されます。

新しいサブフォルダを作成するには：

1. フォルダパレットですでに表示されているフォルダの 1 つを選択します。
2. フォルダパレットの 1 番上にある、新規サブフォルダボタン  をクリックします。
3. 新しいフォルダが、選択されたフォルダのサブフォルダとして作成されます。


フォルダの同期

フォルダパレットのフォルダ名が太字に変わりフォルダアイテムが感嘆符を含む場合は、最後にそのフォルダを同期してから、そのフォルダ内のファイルに何らかの変更が加えられことを示します。

行われた可能性のある変更には以下のものがあります。

- カタログ登録したファイルが変更された。
- Finder (Mac) またはエクスプローラ (Windows) を使用して、フォルダからファイルが削除された。
- 新しいファイルがフォルダに追加された。
- 既存のファイル名が変更された。

これらの変化を反映するように Portfolio カタログを更新するには：

1. 同期する必要のあるフォルダを選択します。太字で名前が表示されているフォルダのみ同期が必要です。同期する必要のある複数のフォルダを選択するには、親フォルダを選択します。サブフォルダは自動的に同期対象になります。
2. 同期  ボタンをクリックします。
3. フォルダパレットで選択されたフォルダは、内容が Portfolio カタログと同期されたので、もう太字では表示されていません。

オートシンクの使用に関する重要な注意事項

- 同期されたフォルダは少しの間太字のままである場合があります。これは、Portfolio が同期による変更を確認するためにフォルダを再スキャンするからです。同期中の複数のフォルダおよびファイルがディレクトリ内にある場合、この作業は時間がかかることがあります。
- ファイルがフォルダから削除されていて、オートシンクダイアログボックスの消失ソースファイルのアイテム削除オプションが無効なまま同期コマンドを使用すると、フォルダは非同期として太字のまま残ります。これは、フォルダにはすでに存在しないファイルのアイテムを Portfolio がまだ含んでいるためです。フォルダを完全に同期するためには、消失ソースファイルのアイテム削除オプションを有効にしてフォルダをもう一度同期します。
- Portfolio を使用せずに (Macintosh の Finder または Windows エクスプローラを用いて) ファイル名を変更した場合は、Portfolio は同期の際に、名前が変更されたファイルを新規ファイルとして扱います。名前を変更されたファイルを含むフォルダを同期する場合は、そのファイルのアイテムは、キーワード、説明および他のすべての保存されたデータとともに削除され、新しい名前のファイルに対応する新しいアイテムが作成されます。したがって、このような変更を行う場合は、Portfolio 内のファイル名変更の機能を使用することを推奨します。
- 1つのオートシンクフォルダから別のオートシンクフォルダに Portfolio を使用せずにファイルを移動した場合、Portfolio はファイルが移動されたと認識して、2つのフォルダを太字表示にします。1つはファイルが削除されたフォルダで、もう1つはファイルが追加されたフォルダです。Portfolio が適切にカタログを更新するためには、これらのフォルダ両方の親フォルダを同時に同期する必要があります。そうしない場合は、Portfolio はファイルの元の場所のアイテムを削除し、新しい場所のファイルのアイテムを新たに作成します。これによりカタログは最新状態を維持しますが、オリジナルアイテムに保存されていた情報を失う場合があります。Portfolio を用いて、1つのオートシンクフォルダから別のオートシンクフォルダにファイルを移動する場合は、Portfolio は常にアイテムを適切に更新します。
- オートシンクフォルダにネットワークアクセスできない場合は、フォルダパレット内のリストでそのフォルダは薄く表示されます。カタログの一部であるそのフォルダ内のアイテムのサムネールを見ることはできますが、アイテムを開いたり変更したりすることはできません。

FinderまたはWindowsエクスプローラへの切り替え

Portfolio のフォルダパレットから Windows エクスプローラまたは Mac Finder に簡単に切り替えて、ファイルがディスク上の実際のフォルダでどう表示されるかを確認することができます。

Macintosh：フォルダ表示ドロワーで表示されているフォルダ名で右クリックします。ショートカットメニューから Finder 上で表示を選択します。

Windows：フォルダ表示パレットで表示されているフォルダ名で右クリックします。ショートカットメニューからエクスプローラを選択します。

キーワード

キーワードは、カタログ化されたファイルに割り当てることができる説明の単語またはフレーズで、ファイルをカテゴリ化したり分類したりするものです。たとえば、日没時の熱帯地方の海岸の画像があったとすると、砂浜、海岸、海、日没、熱帯、休暇、レクリエーション、アウトドアなどのキーワードをその画像に割り当てることができます。これらの単語は、画像を他の関連する画像とグループ化したり、ファイルを検索したりするのを容易にします。Portfolio では、アイテムに割り当てることができるキーワードの数に制限はありません。

キーワード入力を避ける方法

キーワードで入力するのが退屈だと思った場合（ほとんどのユーザーがそう思います）、このセクションで参照しているいくつかのテクニックを利用すると、キーワードの手動による入力を最小限に抑えることができます。

- カタログ化するときにファイル名とフォルダ名をキーワードに変換する。
- カタログ作成オプションを使用して、カタログ化するときにキーワードを割り当てる。
- 既存のマスターキーワードリストをマスターキーワードパレットにインポートする。
- キーワードをサムネイルにドラッグアンドドロップして割り当てる。
- フィールド値の編集コマンドを用いて、キーワードを複数のアイテムに割り当てる。

キーワードの追加

Portfolio には、カタログのアイテムにキーワードを追加する便利な方法がいくつかあります。

カタログ登録時にキーワードを追加

Portfolio のカタログ作成オプションを使用すれば、複数のアイテムに対してそれらがカタログ化されるときにキーワードを割り当てることができます。詳細は、[カタログオプション](#)（17 ページの）を参照してください。

キーワードの編集コマンドを使う

この方法は、数多くのファイルに同じキーワードを追加する場合に便利です。


1. ギャラリーでキーワードを割り当てるアイテムを選択します。
2. アイテム > キーワードの編集を選択するか、**COMMAND-OPTION-K** (Mac) または、**CTRL-SHIFT-K** (Windows) を押します。キーワードの編集ダイアログボックスが開きます。選択されたアイテムのうち少なくとも 1 つのアイテムにすでに割り当てられているキーワードがキーワードリストに表示されます。
3. テキストボックスにキーワードを入力して、**追加**をクリックします。キーワードのステータスが追加に変化し、そのキーワードがカタログに追加され、選択されたアイテムに割り当てられることを示します。キーワードを追加した後で**割り当て**をクリックする必要はありません。追加は割り当てを意味します（つまり、ステータスフィールドが追加または割り当てになっているキーワードは、ダイアログボックスが閉じられるときにアクティブなギャラリーで選択されたすべてのアイテムに割り当てられます。追加はそのキーワードが単に新しいキーワードであることを示しているだけです）。
4. キーワードの追加が完了したら、**OK** をクリックします。

プロパティダイアログボックス

プロパティダイアログボックス（アイテム > プロパティ）を使用して、各アイテムにキーワードを追加することができます。この方法は、各々のアイテムに複数のキーワードを割り当てる場合に特に便利です。詳細は、[アイテムプロパティの表示と編集](#)（40 ページの）を参照してください。

アイテム表示を使う

アイテム表示を使用しているとき、任意のアイテムのキーワードを直接編集することができます。

1. キーワード編集機能をアクティブにするには、アイテムのキーワードフィールドの任意の場所をクリックします。
2. キーワードを追加するには、テキスト入力フィールドにキーワードを入力して  をクリックします。アイテム表示にある任意の編集可能なデータフィールドを同じ方法で編集できます。

フィールド値の編集によるキーワード追加

フィールド値の編集コマンドを使えば、選択したすべてのアイテムに対するキーワードの追加、削除、または置換が容易になります。

マスターキーワードパレットを使う

カタログの管理者がマスターキーワードのセットを作成した場合は、それらをマスターキーワードパレットで使用できます。パレットを表示するには、ウィンドウ > マスターキーワードリストパレットを表示を選択するか、**COMMAND-SHIFT-K** (Mac) または、**CTRL-K** (Windows) を押します。

マスターキーワードパレットからキーワードを割り当てるには：

1. キーワードを追加するアイテムを選択します。
2. アイテムに割り当てる単語をマスターキーワードパレットで選択します。
3. パレットの割り当てをクリックします。

マスターキーワードパレットからのキーワードのドラッグアンドドロップによっても、キーワードを割り当てることができます。


1. マスターキーワードパレットからキーワードをドラッグして、キーワードを適用したいアイテムのサムネールにドロップします。
2. 複数のアイテムにキーワードを割り当てる場合は、まずギャラリーでアイテムを選択して、選択された任意のアイテムの上にキーワードをドロップします。キーワードは選択されたすべてのアイテムに自動的に割り当てられます。

テキストのドラッグ&ドロップ

Microsoft Word のようなドラッグアンドドロップに対応した任意のソフトウェアからテキストを選択して、Portfolio のサムネール上にドラッグして、そのテキスト中の単語をキーワードとして割り当てることができます。

キーワードの削除

不要なキーワードを削除するには以下の 4 つの簡単な方法があります：

- フィールド値の編集コマンドを使って、選択された複数のアイテムからキーワードを削除します。詳細は、[フィールド値の編集コマンドの使用](#) (69 ページの) を参照してください。
- プロパティダイアログボックスのキーワードタブでキーワードを選択し、削除をクリックする。
- キーワードの編集ダイアログボックスでキーワードを選択し、削除をクリックする。
- Windows ユーザーはアイテム表示内でキーワードを削除できます。リストからキーワードを選択して、 をクリックして、アイテムからキーワードを削除します。

キーワードの表示

選択されたアイテムに割り当てられたキーワードを以下の場所で表示することができます：

- もしキーワードが、サムネール表示、アイテム表示またはリスト表示（表示>アイテムを選択）の中に含まれている場合は、各表示の中。
- プロパティダイアログ（アイテム>プロパティ:キーワードを選択）のキーワードタブの中。
- キーワードの編集ダイアログボックス（アイテム>キーワードの編集を選択）の中。

キーワードが表示される場合、各キーワードの横に表示される数字は、カタログ内でそのキーワードが割り当てられたアイテムの数を表します。

キーワードリストに表示される数字は、カタログでの各単語の使用回数を表します。

マスターキーワード

カタログに対するマスターキーワードリストを作成することにより、カタログ内のアイテム間で、またはさまざまなカタログ間で一貫したキーワードを維持することができます。マスターキーワードリストによって、リスト内のキーワードだけをカタログ内で使用できるようにすることが可能です。

キーワードの一貫性を得る最良の方法は、カタログ管理者がマスターキーワードのリストを設定することです。

マスターキーワードリストを設定すると、そのリストは自動的に Portfolio の以下のさまざまな場所に表示されます。

- マスターキーワードパレット上（ウインドウ>マスターキーワードリストパレットを表示を選択すると表示される）
- アイテムプロパティダイアログボックスのキーワードタブ内
- カタログ登録オプションダイアログボックスのキーワードタブ内

マスターキーワードは手動で入力、または既存のテキストファイルからインポートすることができます。

キーワードに関する一般的なヒント

マスターキーワードのリストを設定する場合、カタログを検索するユーザーの立場を考慮することが重要です。たとえば 「車」と「自動車」のどちらをより頻繁に使うのでしょうか。それぞれのキーワードは対象ファイルを正しく説明していますが、状況によっていずれかのキーワードがより適している場合があります。その場合はいずれかのキーワードを選択して、そのキーワードを一貫して使用するようにします。

マスターキーワードを定義して、そのキーワードのみを常に使用するようにすると、ファイルの検索がより簡単になります。また、Portfolio カタログのサイズが増えるにつれて、キーワードの数も増える傾向にあります。事前に決めたルールに従って、マスターキーワードのみを使用すると、ユーザーがより正確にファイルをカタログ化し、利用できるようになります。

外国語と日本語の統一、カタカナとひらがなの統一、外国語の複数形の使用については統一性も重要です。わかりにくいキーワードが複数存在するカタログは良いカタログとはいえません。例:fly/flies、mouse/mice、goose/geese、アップル/Apple、カタカナ/かたかな、など。

マスターキーワードリストの作成

マスターキーワードリストにキーワードを追加には：

1. カタログ>カタログ管理を選択するか、Command + Option + J (Mac) または Ctrl + Shift + J (Windows) を押します。
2. カタログ管理ダイアログボックスのキーワードタブを選択します。
3. 新しいキーワードをダイアログの一番上のテキストボックスに入力し、次に**追加**をクリックします。
リストに既に存在する単語の場合には、**追加**ボタンは灰色で表示されます。
4. マスターキーワードの追加が完了したら、**OK** をクリックして変更を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

マスターキーワードのインポートおよびエクスポート

あるカタログからマスターキーワードリストをエクスポートし、他のカタログでそのリストをインポートすることができます。これは複数のカタログ間でキーワードを共有する場合に便利です。また任意のカタログから標準のキーワードをエクスポートし、他のカタログのマスターキーワードリストにインポートし、そのキーワードリストに名前変更、追加、削除を行って、適当なマスターキーワードリストを作成するという場合もあります。

Portfolio は各キーワードが改行文字で区切られたファイルにキーワードをエクスポートします。したがって、任意の同様な形式のテキストファイルからマスターキーワードのリストをインポートすることもできます。

マスターキーワードリストをエクスポートするには：

1. **カタログ>カタログ管理**を選択するか、Command + Option + J (Mac) または Ctrl + Shift + J (Windows) を押します。
2. キーワードタブから、**エクスポート**をクリックします。
3. エクスポートするファイルの名前と保存場所を指定して、**保存**をクリックします。

任意のキーワードリストをマスターキーワードリストにインポートするには：

1. **カタログ>カタログ管理**を選択するか、Command + Option + J (Mac) または Ctrl + Shift + J (Windows) を押します。
2. キーワードタブから、**インポート**をクリックします。
3. キーワードを含んだファイルに移動して、インポートします。キーワードリストは各キーワードエントリが改行文字で区切られたプレーンテキストファイルに限ります。
4. **開く**をクリックします。キーワードがマスターキーワードリストに追加されます。

マスターキーワード名の変更

マスターキーワードの名前を変更するには：

1. **カタログ>カタログ管理**を選択するか、Command + Option + J (Mac) または Ctrl + Shift + J (Win) を押します。
2. **カタログ管理**ダイアログボックスのキーワードタブを選択します。
3. クリックして名前を変更したいキーワードを太字にして、次に**名前を変更**をクリックします。
4. キーワードの新しい名前を入力します。
5. マスターキーワードの作業が完了したら、**OK**をクリックしてダイアログボックスを閉じ、変更を保存します。

マスターキーワードの削除

マスターキーワードを削除するには：

1. **カタログ>カタログ管理**を選択するか、Command + Option + J (Mac) または Ctrl + Shift + J (Windows) を押します。
2. **カタログ管理**ダイアログボックスのキーワードタブを選択します。
3. クリックして名前を変更したいキーワードをハイライトし、次に**削除**をクリックします。
4. マスターキーワードの作業が完了したら、**OK**をクリックしてダイアログボックスを閉じ、変更を保存します。

注意：

マスターキーワードリストからキーワードを削除しても、そのキーワードを割り当てたアイテムからは削除されません。すでにアイテムに適用されているキーワードを変更（たとえば、すべての「急ぐ」を「至急」に変更）したい場合、「アイテム」からフィールド値の編集を選択してキーワードを変更します。

カスタムフィールド

カスタムフィールドを使用すれば、カタログ化するアイテムに使用する任意の種類の情報（日付、数字、テキストブロック、または URL）を保存することができ、ファイルの整理、カテゴリ化、および検索をより柔軟に行うことができます。

カスタムフィールドは、厳密にはキーワードや説明ではない情報によってファイルを整理する場合に利用します。例えば、カタログ化されたファイルに関連するウェブサイトの URL のフィールドを追加したり、デジタル写真のカタログに「写真家」のフィールドを追加したり、価格情報や品番を保存するフィールドを追加したりする場合に使えます。

Portfolio の 6 つのタイプのカスタムフィールド：

- **日付/時刻**：日付/時刻などを入力します。例えば、このフィールドタイプは、画像の発行日用のカスタムフィールドを作成するために使用できます。
- **小数**：小数を含む数値を入力します。このフィールドタイプは、外貨の価格用のカスタムフィールドに役に立ちます。
- **数値**：普通の数値を入力します。このフィールドタイプはカタログのパーツ番号や、品番に最適です。ただし数字のみに限ります。
- **テキスト**：1 行のテキストを入力します。写真家やアーティストの名前など、多くのカスタムフィールドで使用できます。
- **テキストブロック**：改行を含む、複数行のテキストを入力します。
- **URL**：このフィールドタイプは、ウェブや他の URL アドレスに使用します。ウェブクライアントのグリッド表示で URL フィールドが表示されていると、クリックすると新規ブラウザウィンドウやタブが開く、アクティブなハイパーリンクを作成できます。

キーワードとカスタムフィールド

Portfolio を使う際に、カスタムフィールドとキーワードをどのように使い分けるか、判断がつきにくい場合があります。一般的に、キーワードはファイルの内容を表すために使い、カスタムフィールドはファイルのプロパティに使います。

カスタムフィールドは、ビジネスモデルに関連したファイルについての情報を保存するのに特に有用です。カスタムフィールドは、日常業務に必要な情報を保存する場合に特に便利です。ジョブ番号、部品番号、在庫、価格、はい/いいえのオプションが付いた情報、事前定義した変数を設定できる任意のデータなどを格納する際に使用するとよいでしょう。

例えば、グラフィックデザイナーが冷凍食品のパッケージ会社から依頼されたプロジェクトを完了したとします。プロジェクトには、Adobe Illustrator のファイルと多くの関連画像が含まれています。このような場合、ファイルをカタログ化して、クライアント名とジョブ番号を格納するためにカスタムフィールドを使用します。このプロジェクトが冷凍ピザのボックスデザインであれば、キーワードに「ピザ」、「サラミ」、「冷凍」を追加します。

カスタムフィールドの設定にはいくつかのステップが必要ですが、Portfolio カタログから情報をすばやく取り出すためにインデックス化されるため、キーワードより検索は速く行われます。

キーワードの追加および活用の詳細は、[キーワードの追加](#)（63 ページの）を参照してください。カスタムフィールドの設定および使用の詳細は、[カスタムフィールドの追加](#)（68 ページの）を参照してください。

カタログへのカスタムフィールドの追加

カタログへカスタムフィールドを追加するには：

1. アクセスレベルを管理者モードに変更します。カタログ>アクセスレベルを選択し、カタログのアクセスレベルを管理者に変更し、必要であればパスワードを入力して **OK** をクリックします。
2. **カタログ>カスタムフィールド** を選択します。
3. カスタムフィールドダイアログボックスで、**新規** をクリックします。カスタムフィールドの追加ダイアログボックスが表示されます。
4. フィールド名テキストボックスにフィールドの名前を入力します。
5. フィールドタイプを選択します。フィールドタイプによってこのフィールドに入力可能な値が決定されます。フィールドタイプは一度定義されると変更することはできません。
6. 選択したフィールドタイプの残りのオプションを適切に選択した後、**OK** をクリックして「カスタムフィールド」ダイアログボックスに戻ります。
7. カスタムフィールドの追加が完了したら、**OK** をクリックします。

カスタムフィールドタイプ

以下に、Portfolio で作成できる各カスタムフィールドタイプの属性について説明します。

日付/時刻

このフィールドタイプでは、アイテムの日付か時刻、またはその両方を入力できます。日付/時刻のカスタムフィールドの追加ダイアログボックスで時刻の表示オプションの選択を外せば、時刻の値を表示しないようにできます。日付/時刻フィールドは複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。

注意：

日付/時刻フィールドを検索する場合は、かならず時刻の存在を想定しています。つまり、（アイテムをカタログ化する際のソースファイルからの抽出により、またはフィールドに時刻を入力することにより）時刻の値がフィールドに入力されていた場合、「時刻の表示」をオフにすることによりそのフィールドが隠されていても、検索が行われる場合には Portfolio は時刻を検索に含めます。例: 「5/20/02」で検索しても「5/20/02 3:00 pm」を含むアイテムは見つかりません。なぜなら、検索の要求は「5/20/02 12:00:00」と解釈されるためです。時刻が表示されていない場合でも、これは変わりません。

小数

このフィールドタイプでは、最大で小数点以下第 8 位までの精度を持つ数値を入力できます。小数フィールドは複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。精度を設定するには、ドロップダウンメニューから選択します。

数値

普通の数値を入力します。数値フィールドは複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。

テキスト

このフィールドタイプは、1 行のテキストのために設計されています。フィールドの最大の長さは、フィールドで入力できる文字数を長さのテキストボックスに入力することで設定できます。テキストフィールドの長さは 1 から 249 文字までで、複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。このタイプのフィールドは複数行のテキストを含むことはできません(複数行のテキストにはテキストブロックを使用)。

テキストブロック

テキストブロックは 32K 以内の任意の長さの複数行にわたるフィールドです。このフィールドタイプを使えば、アイテムに複数行のテキストを追加できます。改行やキャリッジリターンを含めることもできます。テキストブロックフィールドは並べ替えやフレーズでの検索はできません。

カスタムフィールドをパレットとして表示

カスタムフィールドをより使いやすくするために、Portfolio では定義済みリストで設定された値をパレットとして表示できます。これは、マスターキーワードパレットと同様のものです。これにより、2~3回のクリックで簡単にフィールドの値を割り当てることができます。個々のアイテムを開く必要もありません。

定義済みの値のリストを持ったカスタムフィールドを作成した場合、そのカスタムフィールドの名前を持った新しいパレットが自動的にウィンドウメニューのカスタムフィールドパレットサブメニューの下に加えられます。

例えば、4つの定義済みの値を持つ進行状況という名前のカスタムフィールドを作成すると、進行状況を表示コマンドがウィンドウ>メニューの下のカスタムフィールドパレットサブメニューに追加されます。

進行状況を表示コマンドを選択すると、進行状況という名前の新しいパレットが開きます。パレットには、そのカスタムフィールドで使用できる定義済みの値のリストが表示されています。

フィールド値をパレットを使用して割り当てる

フィールド値をパレットを使用して割り当てるには：

1. フィールド値を入力するアイテムを選択します。
2. 選択したアイテムに割り当てるエントリーをカスタムフィールドで選択します。
3. パレットの割り当てボタンをクリックします。

カスタムパレットからエントリーをドラッグアンドドロップするには：

1. カスタムフィールドから値をドラッグして、任意のサムネールにドロップし、エントリーをそのアイテムに対応するカスタムフィールドに割り当てます。
2. 複数のアイテムに値を割り当てる場合は、まずギャラリーでアイテムを選択して、選択された任意のアイテム上にカスタムフィールドのエントリーをドロップします。値は選択されたすべてのアイテムに自動的に割り当てられます。

フィールド値の編集コマンドを使用

フィールド値の編集コマンドは、キーワード、説明、任意のカスタムフィールドなどのすべての編集可能な Portfolio のフィールドの値を追加、削除、および編集する作業を高速化するために設計されています。

フィールド値を編集するには：

1. 編集するアイテムのサムネールを選択します。フィールド値の編集コマンドは選択したアイテムに対してのみ有効です。ギャラリー内の全アイテムの値を編集する場合は、**編集>すべて選択**を選んで、ギャラリーのすべてを選択します。
2. アイテム>フィールド値の編集を選択してフィールド値の編集ダイアログボックスを開きます。
3. 編集するフィールドメニューから編集を行うフィールドを選択します。メニューには、カスタムフィールドを含むすべての編集可能なフィールドが表示されます。
4. 編集方法ラジオボタンからアクションを選択します。編集するフィールドに従って、データの置換、削除、追加または添付を行うことができます。
5. 追加、変更、または削除する値を置換する値フィールドで指定します。置換の場合は、置き換えられる値と、置き換える値の両方を指定する必要があります。
6. **適用**ボタンをクリックします。

カテゴリー

Portfolio にはフォルダのような階層を使ってアイテムを視覚的に整理できる機能があります。これは、カテゴリーパレットからアクセスすることができます。たとえば、以下のような場合にこの機能を使えます：

- 低解像度画像、高解像度画像、RGB バージョン、CMYK ファイルなど、ジョブファイルのすべてのバージョンを整理する。
- 文書ファイル、画像、フォントなど、印刷関連の仕事のすべての要素を整理する。
- 一般的なカテゴリー（たとえば動物）の中により範囲の狭いトピック（鳥）やサブトピック（水鳥）がある、入れ子構造のような階層的なキーワードの構造を使って画像コンテンツをカテゴリ化する。

カテゴリーパレットは、カタログのアイテムにリンクされたフォルダの階層構造からなっています。このパレットのフォルダアイコンをダブルクリックすると、そのフォルダ内のすべてのカタログ化されたアイテムを表示できます。オプションで、フォルダ内のサブフォルダの中にあるアイテムも表示することができます。

カテゴリーパレットのオプションを使えば、手でフォルダ階層を作成でき、アイテムをカタログからカテゴリーパレットのフォルダにドラッグして、アイテムをフォルダにリンクできます。

また、フォルダをカテゴリーパレットから Macintosh の Finder または Windows エクスプローラにドラッグすれば、任意のローカルまたはネットワークボリューム上に、すべての仕事内容（フォルダ、サブフォルダ、およびカタログ化された内容）のコピーや、任意の数のフォルダやコンテンツのコピーを、1つの操作で簡単に作成することができます。

カテゴリーとオートシンク

カテゴリーもオートシンクもデジタルファイルを階層的なフォルダ構造に整理できます。しかし、両者はこの作業に対して非常に異なったアプローチを取っています。

カテゴリー機能はファイル整理のために、深い階層になったフォルダ構造を使っています。しかし、カテゴリーパレットで表示されるフォルダは仮想的なフォルダです。それらをコンピュータ上のフォルダに基づいて作成することはできますが、それらはネットワークやハードドライブ上にある本物のフォルダではありません。それらは、Portfolio 環境の中で、心理的にファイルをグループ化したり整理したりする方法に過ぎません。コンピュータ上のフォルダとカテゴリーパレット内のフォルダには、実際のリンクは存在していません。カテゴリーパレットのフォルダにアイテムをドラッグしても、ディスク上のオリジナルファイルには何も起こりません。オリジナルファイルは今まで存在した場所に存在します。

カテゴリーパレットを使えば、パレット上で設定した階層を正確に反映した一連の全く新しいフォルダをディスク上に生成できます。しかし、システム上の既存のフォルダにファイルを移動することはできません。

一方、オートシンクを使えば、ディスク上の実際のフォルダでファイルを整理することができます。Portfolio のフォルダパレットでフォルダをダブルクリックすると、ディスク上のそのフォルダの実際の内容が表示されます。オートリンクでは、Portfolio とフォルダの間には、ネットワーク上で実際の接続が存在します。オートシンクを使って Portfolio でファイルを移動したりまとめたりするときは、ハードディスクやネットワーク上のオリジナルファイルをリアルタイムで移動させています。オートシンクは単なるカテゴリ化の機能ではなく、ファイル管理機能です。

注意：

カテゴリー機能は強力な管理機能ですが、ファイルを論理的にも物理的にも整理できるオートシンクの方が、ほとんどのユーザーにとって最も役に立ちます。

新しいカテゴリーの作成

カテゴリーパレットを使って新しいカテゴリーを作成するには：

1. アクセス権を管理者レベルに変更します。 **カタログ> アクセス権のレベル**を選択します。カタログのアクセスレベルを管理者に変更して、必要な場合はパスワードを入力し **OK** をクリックします。
2. カテゴリーパレットで、**新規**ボタンをクリックするか、パレットのフライアウトメニューから新規を選択します。フォルダの名前を入力するよう求められます。
3. フォルダ名を入力して **OK** をクリックします。フォルダが、カテゴリーパレットで選択されているレベル（現在選択されているフォルダの下のレベル）に作成されます。
4. すべてのフォルダを作成し終わるまで、フォルダの作成を続けます（ステップ 1 と 2）。
5. 必要に応じてフォルダを上下にドラッグして、望みのフォルダ構造にします。Mac OS X では、ドラッグすると、どこに移動されるかを表す黒いバーが表示されます。

カテゴリーの削除

カテゴリーを削除するには：

- カテゴリーパレットで、削除するカテゴリーを選択し、次にパレットの一番下の削除ボタンをクリックします。
- フライアウトメニューからカテゴリーの削除を選択します。

アイテムをカテゴリーにリンクする

カテゴリーの作成が完了したら、そのカテゴリーを用いてカタログ化されたファイルを分類できます。

カタログ化されたアイテムを既存のカテゴリーにリンクするには：

1. カテゴリーパレットが開いていることを確認してください。
2. カテゴリー化するアイテムを選択して、カテゴリーパレットの適切なカテゴリーにそれらをドラッグアンドドロップします。ギャラリーの選択されたアイテムが、そのフォルダにリンクされます。

—または—

1. ギャラリーでアイテムを選択します。
2. カテゴリーパレットで、アイテムをリンクするカテゴリーを選択します。
3. カテゴリーパレットのフライアウトメニューから、カテゴリーにアイテムを割り当てを選択します。選択されたアイテムが、そのカテゴリー「フォルダ」にリンクされます。

アイテムを指定のカテゴリーに表示

指定したカテゴリー内のカタログ化されたアイテムを表示するには：

1. カテゴリーパレットで表示するカテゴリーフォルダをダブルクリックします。
2. 選択されたフォルダ内のアイテムがギャラリーに表示されます。
カテゴリーとそのすべてのサブカテゴリーの中のアイテムを表示する場合は、パレットのフライアウトメニューからサブカテゴリーのアイテムを表示を選択します。選択されたフォルダとすべてのサブフォルダ内のアイテムがギャラリーに表示されます。

アイテムをカテゴリーから削除

カテゴリーからカタログ化されたアイテムを削除するには：

1. カテゴリーから削除するアイテムを選択します。
2. カテゴリーパレットで**削除**ボタンをクリックするか、フライアウトメニューからカテゴリーからアイテムの削除を選択します。選択されたカタログアイテムはカテゴリーフォルダから削除されますが、ギャラリーやカタログからは削除されません。

カテゴリーに基づいたフォルダを作成

ファイルのカテゴリー化が完了したら、Portfolio は整理されたフォルダ構造をディスク上にコピーすることができます。この処理はオリジナルファイルを移動しないことに注意してください。この処理はカテゴリーパレットのフォルダ構造に基づいて、新しい場所にファイルのコピーを作成します。

カテゴリーに基づいたファイルとフォルダ構造をカテゴリーからディスク上に作成するには：

1. カテゴリーパレットで、コピー元のカテゴリーの最上位レベルのフォルダを選択します。
2. そのフォルダを Finder (Mac) またはエクスプローラ (Win) にドラッグします。Mac では、すべてのアイテムに対して 1 つのフォルダを作成するか、またはフォルダ階層を維持するかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。

—または—


1. パレットのフライアウトメニューからファイルのコピーを作成を選択し、アイテムを保存するフォルダを選択します。
2. **フォルダの作成**をクリックして、すべてのアイテムを 1 つのフォルダに置くか、**すべてのフォルダの作成**をクリックしてフォルダ階層を維持します。Portfolio は、カテゴリーパレットの各フォルダに対応する、新しい「本物の」フォルダをディスク上に作成し、各オリジナルファイルのコピーを適切なフォルダの中に置きます。

ファイルの配布

ファイルの電子メールによる送信

Portfolio カタログの中から電子メールで画像、低解像度のプレビュー、および他のデジタルファイルを他のユーザーに送ることができます。Portfolio は使用しているコンピュータの電子メールソフトウェアに直接接続します。これにより、手で電子メールのソフトウェアを起動したり、画像の解像度を変更するために画像編集ソフトウェアを開いたりすることなく、画像を配布したり校正した画像を送付したりすることが容易にできます。

Portfolio からファイルを電子メールで送信するには：

1. 現在のギャラリーから送信したいアイテムを選択します。
2. ツールバーの**電子メールで送信**  ボタンをクリックします。Portfolio は、以下のファイルの送信方法を指定するように求めます：
 - **オリジナルファイルの送信**
 - **低解像度プレビューの送信**
 - **特定のピクセル幅のプレビューの送信**
3. オプションを選択して **OK** をクリックします。Portfolio はシステムのデフォルトの電子メールソフトウェアを起動して新規メッセージを作成し、選択されたファイルをメッセージに添付します（プレビューのオプションが選択された場合はプレビューを生成し、添付します）。
4. 新規の電子メールは、電子メールソフトウェアで自動的に作成されます。電子メールの送付先アドレスを指定し、件名と本文を通常と同様に記入します。

注意：

Portfolio から電子メールに添付できるアイテムの数やサイズに制限はありませんが、使用している電子メールクライアントソフトウェア、ネットワークの電子メールサーバー、またはインターネットサービスプロバイダには添付ファイルのサイズ制限がある場合があります。添付ファイルが非常に大きくなる場合は、それらのファイルを Portfolio の収集コマンドで集めて、FTP を用いてインターネットで転送するほうが良いかもしれません。

ファイルのディスクへの書き込み


Portfolio には、CD または DVD に直接焼き付ける機能があります。他の CD/DVD 作成ソリューションは必要ありません。

注意：

ディスクへの書き込み機能は、オペレーティングシステムに依存します。また、Portfolio を使用してファイルを収集し、後でディスクに書き込むこともできます。

ディスクへの書き込み機能を使えば、カタログにあるオリジナルファイルのアーカイブの作成や、クライアント用のプレビュー画像ディスクの作成、またはオリジナルファイルのコピーの発行でさえ行うことが可能です。


オリジナルファイルまたはプレビューファイルのディスクへの書き込み

1. 必要であれば、外付け CD または DVD 書き込み用の機器がコンピュータに接続されていることを確認します。
2. ドライブに空のディスクを挿入します。
3. ギャラリーパネルで、書き込むアイテムのギャラリーを開きます。そのギャラリーのすべてのアイテムがディスクの作成に使用されます。Portfolio では、1 つのカタログのみにあるファイルの書き込みがサポートされています。このオプションは、複数のカタログのアイテムを含むギャラリーでは使用できません。
4. ギャラリー>ディスクへの書き込みを選択します。または、ツールバーから**ディスクへの書き込み**  ボタンをクリックします。
5. ディスクへの書き込みダイアログボックスで、ディスクのボリューム名を入力します。これは、ディスクをドライブに挿入したときに、Windows エクスプローラまたは Macintosh の Finder で表示される名前です。
6. 次の3つのファイルオプションから選択します：
 - **オリジナルファイル：フルサイズのオリジナルファイルを含みます。**
 - **オリジナルと同じサイズの低解像度 JPEG ファイル**
 - **X 幅の低解像度の JPEG ファイル：このオプションを選択すると、ファイルのサイズ変更をして、特定のピクセル幅に合わせます。**
7. オリジナルファイル（このカタログ内のアイテムをディスク上のファイルに置き換える）は選択しません。このオプションは、アーカイブディスクの作成のみに使われます。
8. 含めたいファイルのフォルダ名を入力します。
9. 必要であれば、フォルダ階層を維持してファイルを整理するオプションをチェックしてください。このオプションを使えば、ディスク上のオリジナルファイルのサブフォルダと同じ位置にサブフォルダが作成されます。
10. ウィンドウの 1 番下にある予想サイズフィールドに表示される収集されたファイルの合計サイズ（メガバイト）をチェックして、書き込むボリュームに十分な空きスペースが有ることを確認してください。
11. **書き込み**をクリックしてアーカイブディスクを作成します。書き込みプロセスが終了した際、書き込みセッションが閉じられ、その他のファイルをディスクに追加することができなくなります。

オリジナルファイルをディスクにアーカイブ

必要に応じて、オリジナルファイルのアーカイブディスクを作成することができます。アーカイブディスクを作成すると、オリジナルファイルがディスクにコピーされ、カタログからのパスはアーカイブディスクを示すように更新されます。カタログにはサムネールとアーカイブされたファイルのプレビュー画像がそのまま残りますが、オリジナルファイルを開くと、Portfolio によりアーカイブディスクを挿入するように求められます。

ファイルをディスクにアーカイブするには：

1. 必要であれば、外付け CD または DVD 書き込み用の機器がコンピュータに接続されていることを確認します。
2. ドライブに空のディスクを挿入します。
3. ギャラリーパネルで、書き込むアイテムのギャラリーを開きます。そのギャラリーのすべてのアイテムがディスクの作成に使用されます。Portfolio では、1 つのカタログのみにあるファイルの書き込みがサポートされています。このオプションは、複数のカタログのアイテムを含むギャラリーでは使用できません。
4. ツールバーにある **ディスクへの書き込み**  をクリックするか、**ギャラリー > ディスクへの書き込み** を選択します。
5. ディスクへの書き込みダイアログボックスで、ディスクのボリューム名を入力します。これは、ディスクをドライブに挿入したときに、Windows エクスプローラまたは Macintosh の Finder で表示される名前です。複数のアーカイブディスクを作成する場合、たとえば、ARCHIVE001、ARCHIVE002 などのようなアーカイブディスクの論理ボリュームによる命名規則を選択することが賢明です。これによりアーカイブディスクを効果的に整理し素早く探すことができます。ボリューム名の長さは、最大 16 文字に限定されます。
6. Mac では、オリジナルファイル（このカタログ内のアイテムをディスク上のファイルに置き換える）を選択します。Windows では、オリジナルファイルおよびディスクに書き込むファイルへのカタログのリンクパスのオプションをチェックを選択します。
7. フォルダ名を入力して、ディスク上のオリジナルファイルを整理します。
8. 必要であれば、フォルダ階層を維持してファイルの整理オプションをチェックしてください。このオプションを使えば、オリジナルファイルのサブフォルダと一致するディスク上の場所にサブフォルダが作成されます。
9. アーカイブディスクを作成すれば、元のカタログはオリジナルファイルの新しい場所を示すように更新されます。
10. ウィンドウの 1 番下にある予想サイズフィールドに表示される収集されたファイルの合計サイズ（メガバイト）をチェックして、書き込むボリュームに十分な空きスペースが有ることを確認してください。
11. **書き込み** をクリックしてアーカイブディスクを作成します。書き込みプロセスが終了したら、書き込みセッションが閉じられ、その他のファイルをディスクに追加することができなくなります。ディスクに十分な空き容量がない場合には、書き込みの処理は完了できません。

アーカイブディスクに書き込みを行った後、オリジナルファイルはまだシステム上に残っていますが、カタログはすでにアーカイブディスクを参照しています。必要であれば、Finder (Mac) またはエクスプローラ (Win) を用いてシステム上のオリジナルファイルを削除してもかまいません。


ファイルの収集

Portfolio を使用していると、カタログ化されたファイルをコンピュータやネットワーク上のさまざまな場所からコピーして 1 か所に集めるのが便利だと思える場合が多くあるかもしれません。ディスクへの書き込みコマンドのように、収集コマンドは、ファイルをコピーして収集します。

収集機能を使用するのは次のような場合が考えられます。

- ネットワーク上に分散しているファイルを 1 つの場所にコピーする。
- ファイルを選択してネットワーク上の新しいフォルダにコピーし、他の人がそれらのファイルにアクセスして使用できるようにする。
- ファイルを 1 か所に集め、Portfolio のファイルと他の必要な内容をすべて含んだ CD または DVD を作成する。これはディスクへの書き込みコマンドを使うよりも収集コマンドを使う方が便利な点です。
- 配布とレビューのために低解像度の JPEG 画像を集める。

ファイルを収集するには：

1. コレクションに含めるすべてのファイルが現在のギャラリーに含まれていることを確認します。
2. ツールバーの **Collect**  ボタンをクリックします。または、ギャラリー->収集を選択します。
3. 以下から、収集するファイルの種類を選択します：
 - **オリジナルファイル**
 - **低解像度の JPEG ファイル**
 - **特定のピクセル幅の低解像度の JPEG ファイル**
4. コレクションの保存先を選択します。
5. フォルダボタンをクリックする (Mac) か、または参照ボタンをクリック (Win) して、新しいコレクションがコピーされるフォルダを選択します。フォルダの選択またはフォルダの参照ダイアログボックスで、既存のフォルダの選択または新しいフォルダの作成ができます。
6. Mac では、収集したファイルを CD-R に書き込む場合、カタログ機能を付加して正常に動作させるには、CD をドライブに挿入してマウントしたボリュームを収集先に指定してください。このアクションによってのみ、特定の場所にファイルを収集し、ディスク作成を完了させないようにできます。
7. 収集したファイルをフォルダ階層にコピーする場合は、フォルダ階層を維持してファイルの整理するオプションをチェックします。収集されたファイルを単一のフォルダに収集する場合は、このオプションのチェックを外したままにします。
8. Windows では、コレクションを CD-R に書き込む場合、このボリューム名を新しいカタログで使用するをオンにして、最終的に CD に付ける名前を入力します。これにより、アーカイブカタログのパスが正常に動作します。
9. ウィンドウの 1 番下にある予想サイズフィールドに表示される収集されたファイルの合計サイズ (メガバイト) をチェックして、書き込むボリュームに十分な空きスペースが有ることを確認してください。
10. **収集**をクリックします。Portfolio は現在のギャラリー内のすべてにアイテムをコピーします。

Webページの作成

Web ページ作成アシスタントを使用すると、ウェブページを最初から作ったり、HTML コードを直接書くことなく、Portfolio カタログから極めて簡単にウェブページを作成することができます。Web ページ作成アシスタントを用いて生成されるウェブページは静的なものです。それをエクスポートした時点での Portfolio の内容は、静止した「スナップ写真」のようなものです。

Web ページの作成を使用すると、数クリックで洗練されたウェブページを作成することができます。直感的に操作できる Web ページ作成アシスタントは、プロフェッショナルな出来映えのウェブページを作成する各操作をサポートします。

この機能はさまざまな方法で使用することができます。例えば、Web ページの作成を使用してウェブサイトの HTML ファイルパッケージを作成し、ディスクに書き込むことができます。

選択するサイトテンプレートに依存して、最大 5 つの簡単な操作でサイトを作成できます。サイトの各ページを設定するために、以下の操作をアシスタントが順を追ってガイドします。

ウェブページを作成するための操作

- **よろこそ**：エクスポートするカタログ名と画像数を一覧表示します。
- **開始**：ウェブサイトのレイアウトを選択します。
- **サイト**：サイトのすべてのページに適用されるグローバル設定をここで設定します。サイトに「トップページ」を追加することもできます。
- **ギャラリー**：ウェブページでの画像の表示方法を設定します。
- **詳細**：通常 1 つの高解像度画像と他の詳細情報が表示される詳細情報ページを設定します。
- **エクスポート**：エクスポートする場所の設定と、テンプレートに加えられた変更の将来の再利用のための保存を行います。

Web ページの作成 - 開始操作

Portfolio ギャラリーの選択された画像のウェブページを作成するには：

1. ウェブページに含める画像のサムネールを選択します。Web ページの作成コマンドは選択されたアイテムのみに作用します。ギャラリーで表示されているすべての画像を含めるときは、**編集>すべて選択**を選択します。
2. **アイテム>Web ページの作成**を選択します。
3. Web ページ作成アシスタントが表示されます。アシスタントが処理の各操作を案内します。以下では、各操作に関する詳細について説明します。

注意：

HTML コードによるウェブページ作成と同様、ウェブを見る人が使用するブラウザの種類とバージョンによりウェブページの見え方は異なります。作成されたページにアクセスするユーザーが使用すると想定されるすべてのブラウザで生成されたページをテストすることを推奨します。

開始操作

開始操作では 8 つのプロフェッショナルなデザインのテンプレートを選択することができます。これらのテンプレートをコピーして、特別なニーズに合わせてカスタマイズすることもできます。

操作の 1 番上のアシスタントパスにより、現在、エクスポート処理のどこまで進んでいるかがわかります。各サイトアイコンをクリックすると、そのテンプレートの詳細が表示されます。

各テンプレートは特定のページレイアウトとデザイン情報を持っており、アシスタントは各テンプレートで設定可能なオプションとページのみを表示します。

開始操作以降、どの時点でも **Web ページのエクスポート** をクリックすることができます。この場合、エクスポート操作までの以降の操作ではデフォルトの設定が使用されます。

デザイン済みテンプレートを使用するには：

1. 使用するテンプレートのアイコンをクリックしてハイライトします。
2. **Web ページのエクスポート(またはエクスポート)**をクリックして、すべてデフォルトでサイトを設定します。または、**次へ**をクリックして、テンプレートのページを設定します。

Web ページの作成 - 基本設定操作

基本設定操作ではグローバルサイトオプションを指定します。これらはサイトのすべてのページに表示されるアイテムです。

サイト設定 (**Web ページのタイトル**)

Web ページのタイトルボックスには、サイトを見るときにブラウザのタイトルバーに表示されるテキストを入力します。

サイトロゴ

すべてのページに表示するカスタムのグラフィックを選択することができます。これは、会社のロゴや、またはエクスポートされる画像グループの画像説明などになります。JPG、GIF、PNG ファイルを使用することができます。最大サイズの推奨は 150×90 ピクセルです。

デフォルトのロゴのグラフィックを変更するには、**参照**ボタンをクリックして、使用するグラフィックの場所に移動します。

注意

グラフィックのファイル、HTML、および他のファイルはコンピュータ上のどこにあってもかまいません。サイトをエクスポートするときにアシスタントが自動的にすべてのファイルを集めます。

サイトヘッダーおよびフッター

Web ページのヘッダーとフッターにはテキストまたは HTML を入れることができます。ウェブサイトのナビゲーションボタン、または選択したものを何でもここに含めて、現在使用中の他のサイトと一致する外観を作成できます。ヘッダーおよびフッターの最大サイズの推奨は 600×90 ピクセルです。

ヘッダーまたはフッターファイルを変更するには、**参照**ボタンをクリックします。選択したファイルが自動的にコピーされて、ファイル名が header.html または footer.html に変更されます。

注意

アシスタントでは特にリストされていませんが、新しいヘッダー、フッターまたはロゴを指定しないかぎり、デフォルトテンプレートを使用する場合はヘッダー、フッター、Web ページのロゴは必ず含まれます。

トップページ

トップページは、サイトのユーザーに最初に表示するページです。サイトのナビゲート方法などの重要な情報を入れることができます。トップページは、480×480 ピクセルの推奨される最大サイズまで拡大でき、テキストまたは HTML を入れることができます。

ホームページへのリンクを含める

このオプションをチェックすると、すべてのページに指定したホームページへのリンクが設定されます。ほとんどのテンプレートでは、ロゴのグラフィックがリンクになっており、このテキストボックスに入力された URL を使用します。

Web ページの作成 - ギャラリー操作

ギャラリー操作では、アイテムのサムネールを表示するウェブページを設定します。このステップで、ページのデザイン、サムネールのサイズ、表示するデータフィールド情報などを指定します。

ページスタイル

最初の操作はギャラリーのページスタイルの選択です。ページスタイルでは、ページの一般的な機能とページの外観が定義されます。ページスタイルは、どのアイテムをどこに表示するかを決めるものです。他のページスタイルを選択するまで、デフォルトが選択されます。

ページスタイルを選択するにはページスタイルアイコンをクリックしてハイライトします。

スタイルシート

選択するサイトに応じて、複数のスタイルシート候補が表示されることがあります。スタイルシートでは、サイトのカラースキーム、通常は最終的なページ上の各アイテムの背景色とテキスト色を制御します。

サムネールオプション

サムネールオプションを使えば、表示される画像のサイズ、縦横のレイアウト、および画像をクリックした際の動作を設定できます。

サムネールサイズは、カタログ内のサムネールのサイズに依存します。オリジナルサイズを選択した場合は、カタログのサムネールサイズが使用されます。

注意：

カタログのサムネールのサイズより大きいサイズを選択すると、サムネールの表示品質が低下する可能性が高くなります。したがって、カタログでサムネールが 112 ピクセルで作成されている場合は、112 より大きいサイズを入力するべきではありません。新しい設定を選択した場合は、必ずページをプレビューして確認してください。

ドロップダウンメニューから、ユーザーがサムネールをクリックした結果として発生するアクションを選択します。詳細の表示を選択すると詳細情報ページが表示されます。その他のオプションは、各表記のとおりです。

表示フィールド

ページスタイルによっては、多くのデータフィールドを表示することができます。ページに含めるデータフィールドをチェックして、フィールドをクリック、およびドラッグし、適切な表示順序に並べ替えます。

注意：

表示フィールドを選択する場合は、グループフィールドで表示方法を選ぶことができます。フィールドはテキストボックス、プルダウンメニュー、またデータの種類によってはハイパーリンクで表示できます。デフォルトのテンプレート設定は以下の順番で用意されています：

1. テキストボックス
2. プルダウン
3. ハイパーリンク

Web ページの作成 - 詳細情報

詳細情報ページは、ただ 1 つの画像が、他のページに表示されるサムネールよりも大きいサイズ、高い画質で表示されるページです。このステップでは、詳細情報ページオプションを設定します。

ページスタイルとスタイルシート

ページスタイルとスタイルシートオプションは前のページと同様の動作をします。ページスタイルをクリックしてハイライトし、ドロップダウンリストからスタイルシートを選択します。

画像オプション

表示する画像、その画像のサイズ、ユーザーが画像をクリックした結果として発生するアクションを選択することができます。

使用する画像では、ウェブブラウザ上でどの画像を表示するかを指定します。次の中から 1 つを選択します。

- オリジナルはオリジナル画像を表示します。この設定を使用する場合は、必ず具体的な画像のサイズを次のフィールドで設定してください。
- プレビューはカタログからの画面プレビューを使用します。カタログが画面プレビューを含んでいない場合は、オリジナル画像が使用されます。
- サムネールはカタログのデフォルトサムネールを使用します。

オリジナル以外でサイズを設定した場合は、Portfolio によって画像が選択されたサイズに変更されます。

注意：

画像サイズと使用する画像の両方にオリジナルを選択した場合、ウェブブラウザで表示できないファイル（TIF、PSD など）は詳細画像を表示できません。この問題を解決するには、オリジナルサイズ以外の画像サイズを選択してください。これにより、Portfolio が自動的に新しい画像を作成します。

ユーザーがオリジナルファイルを開くことのできるリンクまたはボタンを追加するには、画像のクリックでオリジナルを表示を選択します。

表示フィールド

ページスタイルによっては、多くのデータフィールドを表示することができます。ページに含めるデータフィールドをチェックして、フィールドをクリック、およびドラッグし、適切な表示順序に並べ替えます。

Web ページの作成 - エクスポート操作

エクスポート操作では、サイトをエクスポートする場所とテンプレートのコピーを保存する場所を指定します。

テンプレート設定のコピーの保存

すべての選択をした後、同じ設定をまた使用するために選択内容を保存する必要があるかもしれません。選択内容を保存するには、レイアウトの説明を入力して**コピーを保存**ボタンをクリックします。次回ウェブページ作成アシスタントを使用するときに、保存されたテンプレートが他のデフォルトテンプレートとともに一覧表示されます。

サイトのエクスポート

1. 保存場所ボックスにディレクトリを入力します。**参照**ボタンをクリックして、保存するディレクトリに移動します。
2. **エクスポート**をクリックします。

注意：

選択したアイテムの数によっては、サイトのエクスポートには非常に長い時間がかかる場合があります。

独自の Web ページテンプレートを作成

作成したテンプレートへのカスタマイズを保存するには、以下の方法を使用することができます：

- 開始操作でテンプレートをコピーします。
- エクスポート操作で**コピーの保存**ボタンを使用します。
- Web ページ作成アシスタントの各手順で**ソースの表示**ボタンを使用しソースコードを表示および編集します。

テンプレートの変更をデフォルトテンプレートに直接保存することはできません。これは、ユーザーが常にデフォルトテンプレートにアクセスできるようにしているからです。

テンプレートをコピーするには：

1. Web ページ作成アシスタントの「開始操作」で、サイトアイコンを右クリックして、メニューから複製を選択します。
2. ダイアログボックスで新しいテンプレートの名前を入力して、**OK**をクリックします。
3. 新しいテンプレートアイコンをクリックしてハイライトします。
4. をクリックして、新しいテンプレートを使ったページの設定を始めます。

注意：

アシスタントのエクスポート操作では、テンプレートを保存するオプションがあります。必ず**保存**をクリックして後で使用できるようにしてください。

Web ページテンプレートの非表示及び再表示

Web ページ作成アシスタントの開始操作には、今後使用しないと思われる複数のテンプレートが存在する可能性があります。インターフェースを単純にするには、それらの表示を非表示にすることができます。テンプレートを隠しても削除されることはありませんので、いつでも再表示できます。

テンプレートを非表示にするには：

- サイトのアイコンを右クリックして、メニューから隠すを選択します。

テンプレートを再表示するには：

1. 任意のサイトのアイコンを右クリックします。
2. 再表示から以下のいずれかを選択します：
 - **すべてを表示(またはすべて)**を選択して、すべての隠されたテンプレートを表示します。
 - **再表示する特定のテンプレート名**を選択します。

Web ページのソースコードの編集

HTML の知識があれば、Web ページ作成アシスタントでソースコードを直接編集することができます。

ソースコードを表示するには、ギャラリー操作または詳細情報操作から、ソースの表示ボタンをクリックします。このツールを使えば、定義済みのソースコードの細かい調整も簡単に行えます。

ソースコードエディタでは以下のことができます：

- ページのソースコードを直接編集することができます。
- デフォルトのウェブブラウザに変更内容をプレビューできます。
- 現在のソースコードをファイルにエクスポートすることができます。
- ファイルを読み込み、現在のソースコードをインポートしたファイルで置換することができます。
- 編集されたソースファイルを保存または別名で保存(または名前を付けて保存)することができます。

注意

ソースファイルを編集する場合、ページの機能が損なわれて、できあがったサイトが正常に動作しない可能性があります。ソースファイルを編集する場合は注意してください。ページ設定をすべて選択する前に、ソースを見ておくことをお勧めします。これによって、アシスタントにより設定されるパラメータをより良く理解することができ、ページの機能を損なう可能性が少なくなります。

閉じるボタンをクリックすると、Web ページ作成アシスタントに戻ります。

NetPublish

NetPublish を使えば、Portfolio カタログをウェブヘダイナミックに公開することができます。Portfolio NetPublish で制作したウェブページでは、ウェブユーザーがリアルタイムでカタログ内のファイルに対する追加や変更をウェブ上で見ることができます。

Portfolio NetPublish Assistant は、自動的に Portfolio クライアントとともにインストールされます。システム要件とインストールに関する詳細については、Portfolio Server Admin ガイドを参照してください。

ウェブページの配信

Web ページを作成ツールを使った後は、それを他の人に見せることができます。

ウェブサーバーへアップロードする

書き出したウェブページをウェブサーバーにアップロードして、サーバーにアクセスできる誰からでも見るようにすることができます。

Cyberduck (<http://cyberduck.ch>) のような FTP プログラムや、Windows Explorer を使って、ファイルをウェブサーバーにアップロードします。

ネットワーク上で HTML ファイルを共有する

コンピュータに内蔵されているファイル共有機能を使って、ネットワーク上の他のユーザーに共有することができます。

TIPS

- 1 カ所にウェブページを書き出して、そのフォルダを共有すると、書き出した全ウェブページはネットワーク上で自動的に共有されます。
- Web ページを書き出すと、書き出した **webpages** フォルダ内に、スタートページも書き出されます。ファイル名は **index.html** です。

HTML ファイルをリムーバブルディスクにコピーする

Web ページの作成コマンドは、ウェブサイトに必要なすべてを作成します。HTML と関連ファイルが含まれるこのフォルダを、別ドライブ、DVD、またはリムーバブルディスクにコピーすることができます。ユーザーはウェブブラウザを使って、直接このフォルダ内の **index.html** を開くことができます。

スライドショー

Portfolio のスライドショー機能を使えば、カタログの画像（サムネールではない）から自動的に実行されるスライドショーを作成できます。スライドショーは、指定した間隔、または手動で画像を進めます。スライドショーを他の人に配布するために、スタンドアロンの QuickTime ムービーとして保存することも可能です。

Portfolio はアクティブなギャラリーのファイルをスライドショーに使用します。スクリーンは空白になり、現在のギャラリービューの背景色の上で画像が表示されます。画像を実際のサイズで表示するか、スクリーンを最大限に利用するサイズに変更するかを選択できます（アイテムがスクリーンで表示するには大きすぎる場合は、自動的に縮小されます）。

スライドショーで使用するアイテムを探すときに、画面プレビューが存在する場合は、画面プレビューが表示されます。画面プレビューが見つからず、ソースファイルも見つからない場合は、アイテムのサムネールが表示されます。

スライドショーの作成

スライドショーを作成するには

1. スライドショーで使用するアイテムをすべて含むギャラリーを作成します。
2. ギャラリー内のアイテムをクリックし、表示したい順番にドラッグして並べ替えます。スライドショーは、3D 画像、ムービー、およびサウンドを含むことができます。Portfolio でプレビューできるものはすべてスライドショーで表示できます。
3. **表示**>スライドショーを選択するか、Command + Shift + S (Mac) または Ctrl + : (Win) を押します。
4. 手動で操作するスライドショーでは、コントローラーの矢印を使って、次または前のアイテムに移ります。または、キーボードの左右の矢印キーを使って、スライドショーの中で前後のアイテムに移動できます。Home または End キーを使えば、スライドショーの最初または最後に移動できます。
時間で自動的に切り替わるスライドショーは自動的に開始します。ミニコントローラーの一時停止ボタンを使えば、プレゼンテーションの停止や開始、再開を行うことができます。スライドショーが連続再生でなければ、最後のアイテムが表示されると終了します。
5. スライドショーを中断してギャラリーに戻るには、コントローラーの停止ボタンを押すか、キーボードの **ESC** キーを押します。時間で切り替えのスライドショーの場合、指定された時間間隔がたってから画像の読み込みが始まり、大きい画像の場合は読み込みに最大 2~3 秒かかるということに注意してください。

スライドショーのオプションを設定

スライドショーのオプションを設定するには：

1. 表示>スライドショーのオプションを選択します。
2. スライドショーのオプションダイアログボックスのスライドの切り替えセクションで、手動または一定の時間で自動切り替えを選択します。手動によるスライドショーでは、矢印キー、または画面上のビデオのようなスライドショーコントロールを使って画像を切り替えます。一定時間で自動的に切り替わるスライドショーでは、スライドは自動的に進みます。時間間隔を最大 99 秒まで設定できます。
3. 表示サイズを選択します。実際のサイズは、画像をソースファイルの画像の実際のサイズで表示します。画面に合わせて表示では、Portfolio が画像をディスプレイの画面サイズに合わせて拡大します。いずれの場合も、画像が大きすぎる場合は、画面に合わせて縮小されます。
4. スライドショーの他のオプションを設定します。スライドショーを連続再生する場合は、連続再生チェックボックスをオンにします。スライドショーで画像とともにフィールド（たとえば、ファイル名、またはカスタムフィールドに保存されたキャプション）を表示する場合は、フィールドの表示チェックボックスをオンにして、ドロップダウンメニューからフィールドを選択します。スライドショーを実行すると、画面の下に沿って、画像の下に（現在のギャラリーで使用されているフォントで）フィールドテキストが表示されます。
5. すべてのオプションの設定が完了したら、OK をクリックします。これでスライドショーを実行する準備が整いました。

スライドショー中にファイルを編集

スライドショーの間に表示される手動のコントローラーを使用して、Portfolio カタログのアイテムを素早く編集することができます。これらのコントロールを使用すると、素早く必要のないアイテムを削除したり、ファイル名を変更したり、他の便利な機能を実行できます。

	Portfolio カタログからアイテムを削除します。		オリジナルファイルを削除します。
	オリジナルファイルをコピーします。		オリジナルファイルを移動します。
	ルファイルの名前を変更します。		

スライドショーの自動開始

カタログが開かれたときにスライドショーを自動的に実行させることができます：

1. カタログ > カタログ管理を選択します。
2. 起動時の動作タブでスライドショーを開始するオプションを有効にします。
3. 次回カタログを開いたとき、すべてのアイテムのギャラリーのスライドショーが自動的に起動します。

スライドショーのQuickTimeムービーへの保存

QuickTime Movie を作成オプションはカタログのアイテムを書き出して、QuickTime ムービーのフォーマットで保存します。スライドショーを書き出す場合は、ムービーのトランジションを指定します。

スライドショーを QuickTime ムービーとして書き出すには：

1. QuickTime ムービーを使ったスライドショーとして、書き出したいギャラリーを開きます。
2. ムービーに含めたいアイテムを選択します。
3. アイテム > QuickTime ムービーの作成を選択します。
4. ムービーのサイズを設定し（ピクセル数）、各スライドのタイミングを設定し、画像切り替え時のエフェクトをドロップダウンボックスから選択します。
5. 選択 (Mac) または編集 (Windows) をクリックして画像を切り替えるときのエフェクトを設定します。
各エフェクトに特有のオプションがあります。画像を切り替えるときのエフェクトのオプションを設定して、OK をクリックします。
6. OK をクリックして、QuickTime ムービーの設定を終了します。
7. ムービーファイルの名前と保存場所を選択します。
8. 保存をクリックします。

注意

スライドショーを書き出すときに、オリジナル画像（アイテムのソースファイル）が見つからない場合は、カタログのサムネールが代わりに書き出されます。

Portfolio Express

Portfolio Express パレットはフローティングパレットで、いつでもすべてのアプリケーションからグローバルキーボードショートカットにより、Portfolio カタログの内容を簡単に利用できるようにします。カタログ化したすべてのファイルを検索したり、コピーしたり、開いたりして使用することができます。Portfolio を起動して開く必要もありません。パレットは、カタログ中の各アイテムのサムネールをファイル名とともに表示します。

Portfolio Express パレットには以下のような使い方があります：

- パレットを使って画像をすばやく探し出し、見つけた画像をダブルクリックして、Adobe Photoshop や指定した他の画像編集ソフトウェアでその画像を開くことができます。
- パレットを開いて、Microsoft Word や Adobe InDesign のようなドラッグアンドドロップに対応したアプリケーションに画像をドラッグすることができます。
- 電子メールを作成しているときに、パレットからファイルをつかみメッセージにドラッグすることにより、そのファイルを添付することができます。
- パレットからロゴ、クリップアート、または他の画像を選択して、PowerPoint のスライドや Word の文書に直接ドラッグできます。
- Portfolio Express ホットキーを押して、パレット上の画像を選択し、Finder で表示またはエクスプローラで表示コマンドを選択するだけで、ディスク上にある画像を今までにはない速さで見つけ出すことができます。

Portfolio Express パレットは、システムのどの場所からでも、画像にすばやく、簡単にアクセスできるよう設計されています。

Portfolio Express パレットでは、Portfolio へ新しいアイテムをカタログ化したり、既存の Portfolio レコードを編集したり、キーワードを追加したり、他のファイル管理のタスクを実行したりすることはできません。

Portfolio Express パレットは、カタログ化されたアイテムを選択して使用することを容易にします。Portfolio カタログを編集したり、他のファイル管理を行うには、メインの Portfolio アプリケーション（パレットから起動できる）を使用してください。

Portfolio Express パレットは完全にバックグラウンドで実行されるので、Macintosh Dock や Windows のツールバーにアイコンは表示されません。

Portfolio Expressを起動

Portfolio Express パレットは Portfolio とは異なる、独立したアプリケーションです。デフォルトで、Portfolio Express パレットはメインの Portfolio アプリケーションと同じフォルダにインストールされます。

Portfolio Express をインストール後、最初に起動するには：

Macintosh： Portfolio Express を起動するには、Portfolio Express のアイコンをダブルクリックします。Macintosh の場合、デフォルトでは Portfolio Express は自動的に起動するアプリケーションとしてインストールされます。

Windows： Portfolio Express パレットはスタートアップアプリケーションとしてインストールされるので、起動時にバックグラウンドで実行されます。デフォルトのホットキーを押す（**CTRL + SHIFT + P**）か、システムトレイの Portfolio Express のアイコンをダブルクリックすると、パレットが表示されます。

Portfolio Express のアプリケーションがバックグラウンドで実行されていない場合は、**スタート>すべてのプログラム**

>Extensis>Portfolio>Portfolio Express の順に選択します。

Portfolio Expressでカタログを開く

Portfolio Express パレットを最初に起動するときにはパレットは空で、カタログメニューには「開いているカタログがありません」というメッセージが表示されます。

Portfolio Express でカタログを開くには:

1. パレットの右側のフライアウトからカタログを開く を選択します。
2. カタログに移動して、開くを選択します。

最近使ったカタログを開くには、パレットのカタログドロップダウンメニューからカタログ名を選択します。

Portfolio Express パレットは最近開いたカタログをいくつか記憶しています。開きたいカタログが、最近使ったカタログのメニューに表示されない場合は、メニューからカタログを開くを選択してそのカタログを探します。

パレットを使って一度開かれたカタログは、パレットの一番上にあるカタログメニューを使って順番を切り替えることができます（開いているカタログは常にメニューの一番上に表示されます）。

注意:

Portfolio Express パレットを使って Portfolio カタログを開く方法は、メインの Portfolio アプリケーションでカタログを開く方法と全く同じです。カタログがパスワードで保護されている場合は、パレットからカタログを開くために適切なパスワードを入力するように要求されません。

Portfolio Expressを使用した検索


Portfolio Express パレットでカタログを開けば、パレットの上方、カタログのドロップダウンメニューのすぐ下にあるクイック検索ボックスで任意のアイテムを検索することができます。


Portfolio Express パレットのクイック検索ボックスは、メインの Portfolio アプリケーションのクイック検索ボックスと全く同様に使用できます。任意のフィールドの組み合わせに基づいてファイルを検索することができます。クイック検索で使われるフィールドの組み合わせは、Portfolio のクイック検索の環境設定で設定します。

注意:

Portfolio Express のクイック検索ツールは Portfolio Server 管理者が定義したものと同一検索パラメータを使用します。

Portfolio Express を使用してクイック検索を行うには:

- Portfolio Express のクイック検索ボックスをクリックして、ボックス内に単語またはフレーズを入力し、Return キーを押します。マッチするアイテムがパレットに表示されます。
- また、最近使ったクイック検索をドロップダウンメニューから選択し、虫眼鏡アイコン  をクリックすることでその検索を実行することができます。


Portfolio Express のカタログの中のすべてのアイテムを表示するには、クイック検索フィールドの右にある虫眼鏡アイコン  をクリックしたまま、メニューからすべてを表示を選択します。

Portfolio Expressを使ってファイルにアクセス

注意

ファイルサーバー上のカタログ化されたアセットを使用する場合、必ずマウントを共有してください。

Portfolio Express パレットを使ってカタログ化されたアイテムに直接アクセスするには、以下の方法が使えます：

- サムネイルをダブルクリックしてオリジナルファイルを編集します。サムネイルを選択して、フライアウトメニューからオリジナルの編集 コマンドを選択することもできます。
- サムネールを Adobe Photoshop、Illustrator のような編集ソフトウェアのエイリアス（またはショートカット）の上にドラッグして、それらのソフトウェアで画像を開くことができます。
- サムネールを（Microsoft Word や Adobe InDesign のような）ドラッグアンドドロップに対応したアプリケーションの文書にドラッグして、それらの文書に画像をコピーすることができます。
- サムネールを右クリックして、ショートカットメニューからオリジナルの表示（Mac）またはエクスプローラで表示（Windows）を選択します。
- サムネールを選択して、フライアウトメニューから Finder で表示（Mac）またはエクスプローラで表示（Windows）を選択します。
- パレットの右上隅にある Portfolio ボタン  をクリックするか、フライアウトメニューから Portfolio へ切り替えコマンドを選択して、Portfolio で現在開かれているカタログを開きます。
- サムネールをパレットから電子メールのメッセージにドラッグすることにより、オリジナル ファイルのコピーをそのメッセージに添付します。
- Mac OS X で、サムネールを QuarkXPress の文書にドラッグして、XPress レイアウトに画像を配置します。サムネールをピクチャボックスにドロップすると、選択された画像が既存のピクチャボックスに配置されます。それ以外の場合は、Portfolio Express がその画像のための新しいピクチャボックスを作成します。

Portfolio Expressのホットキーを設定

Portfolio Express をバックグラウンドで実行していれば、Portfolio Express パレットのホットキーを押すだけで、カタログ化された画像にアクセスすることができます。


Portfolio Express パレットのホットキーを設定するには：

- パレットの右側のフライアウトメニューからホットキーの設定コマンドを選択します。
- Windows では、ホットキーを使用可能にするチェックボックスがオンになっていることを確認してください。それから、ホットキーのフィールドをクリックして、ホットキーとして使いたいキーの組み合わせを押してください。Mac OS X では、ダイアログボックスが開いたら、使いたいキーの組み合わせを押すだけです。
- OK をクリックして、新しいホットキーをアクティブにします。ホットキーを使えば Portfolio Express パレットの表示/非表示を切り替えることができます。

Portfolio Expressを自動的に起動

Mac OS X では、Portfolio Express パレットは、マシンを立ち上げたときに自動的に起動するように設定されています。何らかの理由で起動項目から削除された場合は以下の手順で再度追加してください。

Mac OS X で Portfolio Express を自動的に起動するには：

1. システム環境設定を開きます。
2. ユーザー & グループをクリックします。
3. ログイン項目をクリックします。
4. 追加  ボタンをクリックします。
5. Portfolio デスクトップクライアントフォルダに移動します。
6. Portfolio Express アイコンを選択して、追加をクリックします。

次回コンピュータを起動したときに、Portfolio Express は自動的に実行されます。

Windows で Portfolio Express を自動的に起動するには：

1. スタートボタン  をクリックして、すべてのプログラムをクリック、スタートアップフォルダを右クリックし、開くをクリックします。
2. C:\Program Files\Extensis\Portfolio Desktop Client\を開きます。
(64-bit バージョンの Windows では : C:\Program Files (x86)\Extensis\Portfolio Desktop Client\)
3. Portfolio Express を右クリックして、ショートカットを作成をクリックします。
オリジナルアイテムと同じ場所に新規ショートカットが表示されます。
4. ショートカットをスタートアップフォルダにドラッグします。

次回コンピュータを再起動したときに、Portfolio Express は自動的に実行されます。

成功事例

効率的なワークフローの定義

デジタルデータを管理する場合、効率的なワークフローが欠かせません。Portfolio は、アセットの整理、追跡、共有を支援するように設計されています。パワフルで柔軟な機能を備え、ワークフローに合わせて自由に活用することができます。

しかし、Portfolio の柔軟性は、両刃の剣に例えることができます。ファイルの管理には多角的なアプローチを採ることができますが、状況に最適な方法を決定するには注意深い計画が必要となるからです。

ユーザーのニーズは多種多様ですが、このガイドを参考にして、ニーズに合ったワークフローを作成できる、アセットマネージメントの最良のアプローチを理解してください。

ほとんどのワークフローは、次のような簡単なステップから構成されます：

1. カタログにするファイルを集めます。
2. ファイルをカタログに取り込みます。
3. ほかのユーザーとファイルを共有します。
4. ファイルをアーカイブします。

ワークフローに応じたニーズの相違点は、各ステップで詳しく説明します。またニーズは、Portfolio をワークグループ環境で使うか、スタンドアロンで使うかということによっても変わってきます。

ワークグループ環境でのPortfolio設定

ワークフローを設定する前に考えておくべき点がいくつかあります。このガイドは、次のような点を考慮する際にお役立ていただくことを目的としており、明確で効率的なワークフローを維持するための基準について説明します。

カタログの作成

ワークフローの段階に合わせて、複数のカタログを作成しますか？

キーワードの利用

カタログに取り込んだファイルを表わす最も使用頻度の高いキーワードは何ですか？

進行状況の確認

どのようなカスタムフィールドを作成しますか？ 例えば進行状況というカスタムフィールドを作成し、ワークフローの進行状況に応じて事前に定義されたフィールド値（企画、デザイン、編集など）を割り当てると、進行状況を簡単に確認できます。

ユーザーのアクセス

公開したウェブページからファイルをダウンロードできるようにしますか？ または Portfolio を使ってカタログに直接アクセスしますか？
カタログにアクセスするユーザーの数は？ 各ユーザーが持つアクセス権のレベルは？

共有

複数のユーザーとファイルを共有する計画がありますか？ ファイルをウェブサイトに公開してユーザーがダウンロードできるようにしますか？ または、Portfolio を使ってカタログに直接アクセスしますか？ Portfolio からほかのユーザーにファイルを電子メールで送信しますか？

ファイルの回覧

Portfolio のユーザー間でファイルを回覧する方法は？ カスタムフィールドと事前に定義されたリストを作成し、各ユーザーが回覧したことを示すようカスタムフィールドの内容を変えますか？ スマートギャラリーを作成して、メタデータを使ってタグ付けされたファイルを表示しますか？

メタデータの格納

ファイルのメタデータの作成、記録、利用方法は？ ファイルをカタログに取り込むときにメタデータを抽出しますか？ カスタムフィールドに情報を記録しますか？ EXIF、IPTC、XMP メタデータがワークフローに必要ですか？

管理者の採用

ワークグループや企業の環境では、ファイル管理システムを利用するユーザーの数が多いため、統一性が大きなカギとなります。大規模な共有システムでカタログやキーワードのデータを不注意で作成すると、システム全体に悪影響を及ぼします。重要な情報の消失や入力ミスなどのために、ファイルが簡単に見つからなくなる恐れもあります。

特定のユーザーや少人数のグループだけがつねにカタログを作成し、Portfolio データベースの情報を更新するようにすると、ファイルのカタログ化やキーワードの作成による問題の発生を最小限に抑えることができます。

使用するカタログの数

作成するカタログの数は、ワークフローや保存するデータの種類によって異なります。

Portfolio カタログには、最高で 250,000 ファイルまで追加できます（メタデータの情報量や条件により異なります）。1つのカタログで、十分にニーズを満たすことができます。しかし、前述のように、複数のカタログにファイルをグループ化すると、高度なファイル管理が可能になり、適切なファイルを簡単に見つけることができるようになります。

Portfolio には、一度に複数のカタログを検索する機能が備わっているため、1つのカタログでアイテムが見つからなかった場合は、検索の範囲を広げて複数のカタログから検索することもできます。

アイテムのグループ化には多くの方法がありますが、それぞれのニーズに合った方法を利用してください。次に、さまざまな状況においてファイル管理を簡素化するための整理方法について説明します。

テーマによるグループ化

重複しないようなテーマを定義できる場合は、テーマ別にした複数のカタログに、ファイルを分けて整理するとよいでしょう。

例えば、さまざまな雑誌を印刷する出版社などでは、各雑誌に対して別々の Portfolio カタログを作成します。

結婚式と車の展示会をそれぞれ撮影する写真家の場合は、2つの異なるカタログにそれぞれの画像を整理します。

プロセスによるグループ化

1つのワークフロー内でファイルの状態を明確に定義できる場合があります。アイテムをその状態によって区別することで、ユーザーは適切な形態のファイルにアクセスしやすくなります。

写真家の例を見てみましょう。この写真家は、多くの写真を撮影しますが、その中から少数の画像を販売用を選びます。画像を販売した後、または不必要になった場合は、その画像をコンピュータから削除し、CD-ROM にアーカイブしたいと考えています。ただし、アーカイブした後もオリジナルのファイルがどこに保存されているかを知る方法が必要です。

まず、処理中、使用中、アーカイブという3つのカタログを作成します。撮影した写真はすべて「処理中」カタログで管理します。販売や使用の対象となるファイルは、「使用中」カタログにドラッグします。販売済みまたは不要になった写真は、「アーカイブ」カタログに移動します。このカタログから、オリジナルのファイルを CD-ROM/DVD-ROM に書き込みます。

詳細は、[オリジナルファイルをディスクにアーカイブ](#)（75 ページの）を参照してください。

ファイルタイプによるグループ化

ファイルタイプによってファイルをグループ化して、カタログに整理する方法もあります。

Portfolio では、PDF ファイルのテキストをインデックス化し、検索することができます（英文のみ）。これは、大量の PDF ファイルを所有するユーザーにとって便利な機能です。しかし、PDF を画像やプレゼンテーションなど、ほかのファイルと混ぜて整理する場合に、インデックス化された PDF ファイルを含めると、ほかのファイルを検索する処理が遅くなることがあります。このため、インデックス化された PDF ファイルを数多く持つユーザーは、PDF を整理するカタログとその他のファイルを整理するカタログを作成するとよいでしょう。

セキュリティによるグループ化

機密情報の保護は、現在のビジネスにとって非常に重要です。そこで、Portfolio カタログへのアクセスを許可されたユーザーに限ることで、重要なファイルの配布を効率よくコントロールできます。

例えば、マーケティング部で、激しい競争を勝ち抜くための新しいキャンペーンを準備しているとします。キャンペーンの詳細が公にならないように、万全なセキュリティ対策が必要となります。すべてのパートナー会社が、現在の画像、コピー、ウェブコンテンツなどを持ち、キャンペーン準備を進めます。マーケティング部では Portfolio Server を使って、パスワード保護されたカタログを公開し、キャンペーン関係者のみにアクセスを許可し、その他のユーザーはカタログにアクセスできないように設定します。

詳細は、[アクセスレベルの変更](#)（13 ページの）を参照してください。

ファイルの整理

Portfolio ではファイルを整理する際に、使いやすいウィンドウを使用しますが、ディスク上でどのようにファイルを整理すべきか、不安を抱いているユーザーは数多くいます。そのような場合は、一貫した理解しやすい方法でファイルを整理すると、効率的なワークフローを実現できます。

すでにカタログを作成した場合、またはファイルの整理に不満がある場合でも心配する必要はありません。そのままの状態をファイルで Portfolio に取り込み、ファイルを整理してから、Portfolio でオートシンクを使ってディスクに新しいディレクトリを作成します。

ディスク上のファイルの整理

Portfolio ではファイルを整理する際に、使いやすいウィンドウを使用しますが、ディスク上でどのようにファイルを整理すべきか、不安を抱いているユーザーは数多くいます。そのような場合は、一貫した理解しやすい方法でファイルを整理すると、効率的なワークフローを実現できます。

すでにカタログを作成した場合、またはファイルの整理に不満がある場合でも心配する必要はありません。そのままの状態をファイルで Portfolio に取り込み、ファイルを整理してから、Portfolio でオートシンクを使ってディスクに新しいディレクトリを作成します。

フォルダ階層の作成

Portfolio ではファイルをカタログ化するときに、フォルダのパスからキーワードを直接、自動的に作成できます。つまり階層化されたフォルダの名前を、階層内の各フォルダのキーワードとして追加できます。詳細オプションダイアログボックスのプロパティタブで、パスとボリューム名からキーワードを作成するオプションをオンにします。パス名からキーワードを作成 20 ページのを参照してください。

この例としては、ハッチバックフォルダ内のカタログ化した画像には、「画像」、「車」、「ハッチバック」というキーワードが自動的に適用されます。ワークグループでは、このような効率的なフォルダ階層の設定が必須と言えるでしょう。

また、全ファイルを 1 つのルートディレクトリに整理する方法もあります。この例では画像ディレクトリがルートディレクトリです。このルートディレクトリに必要なだけサブディレクトリを作成し、ファイルを整理します。これは特にワークグループで使用するカタログで有効な整理方法です。

ファイルを複数のディレクトリに保存している場合は、オートシンクパレットやウィンドウを使って、ファイルを整理できます。整理するディレクトリをオートシンクパレットに追加してから、Portfolio を使って新しいディレクトリを作成し、ファイルを移動して整理します。詳細は[オートシンク](#) 57 ページのを参照してください。

命名規則の作成

Portfolio でファイルをカタログ化する場合、カタログ作成オプションを使って、ディスク上のファイルの移動や名前の変更を行うことができます。オリジナルファイルの命名方法について特定のルールを作り、それに従って名前を付けると、ファイルを簡単に識別、検索、共有することができるようになります。

クライアント名、プロジェクト、製品番号、日付など、関連するファイルの情報をファイル名に含めるのがもっとも一般的な方法です。

次に、簡単に利用できる命名規則の例を示します：

ファイル名	ファイル名の内容
jones_newsletter04_001.jpg	社名、プロジェクト番号、連続番号
axle_756452j_002.jpg	部品名、部品番号、連続番号
smith_040623_066.pdf	社名、日付(YMMDD)、連続番号

Mac、Windows、Linux、および Unix でネットワークの互換性を維持するには、すべてのプラットフォームで使用できるファイル名を使用します。

- ファイル名は拡張子も含めて 32 文字以内にします。
- 特定の意味を持つキャラクタや区別が困難なキャラクタは利用を避けてください。ピリオドとダッシュを除く句読点、*、%、@、\$のようなキャラクタやシンボルも利用できません。
OSによっては、大文字と小文字で異なる判断をします。例えばファイル名の wrench_111213.png と WRENCH_111213.png では、異なります。
アクセントの無い小文字、数字、ピリオド、アンダースコア、ダッシュに限定して利用すると良いでしょう。
- スペースではなくアンダースコア(_)を使います。
- 日付には単純なフォーマットを使います。たとえば、2004年6月23日は、040623 などになります。これで、Macintosh の Finder、Windows のエクスプローラ、また Portfolio 内でもファイルが同じ順番で表示されます。

カタログの管理

デフォルトフィールド値

デフォルト値はカタログのフィールドに指定できます。これにより、値が必要なカスタムフィールドに値が常に格納されます。

新しいファイルをカタログ化する場合、カタログ作成オプションダイアログボックスを通じて値が入力されますが、その値が設定されていないときにデフォルト値が自動的にそのアイテム用に格納されます。

たとえば、進行中のすべての作業用の Portfolio カタログがあれば、プロジェクト進行状況という名前のカスタムフィールドを設定できます。このカスタムフィールド用にデフォルトフィールド値をアイデア段階に設定します。新たにカタログ化したすべてのアイテムにこの値が設定され、この値を後で完了に変更するだけで済みます。

また、デフォルト値は抽出した値または手動で割り当てた値を使って上書きすることもできます。手動で割り当てた値には、カタログ作成オプションで割り当てた値またはオートシンク監視フォルダによって適用された値が含まれます。

フィールドデフォルト値を定義するには：

1. **カタログ>カタログ管理**を選択します。
2. 管理パスワードを入力して、**追加**をクリックします。
3. カタログ管理ダイアログボックスで、デフォルト値タブを選択します。カタログ用のすべてのカスタムフィールドが、このタブに表示されます。
4. デフォルト値を設定したいカスタムフィールドを探します。フィールド名の左のボックスをチェックします。すでにデフォルト値が設定されている場合は、**編集**ボタンをクリックします。デフォルト値が設定されていない場合は、**編集**ダイアログボックスが自動的に開きます。
5. **編集**ダイアログボックスは、編集しているカスタムフィールドのタイプによって異なります。複数の値を持つフィールドの場合、1つかそれ以上のデフォルト値を追加することができ、単一値フィールドは1つのデフォルト値のみを受け入れることができます。適切なデフォルト値を入力して、**OK** をクリックします。
6. 必要に応じて、追加のデフォルト値を入力します。
7. 追加のデフォルト値を終了したら、**OK** をクリックします。

カタログの起動時オプションの設定

カタログ管理者は、カタログが開かれる際のさまざまなアクションについてもコントロールすることができます。

次のオプションはカタログ管理ダイアログボックスの起動タブ上で使用できます（**カタログ>カタログ管理**を選択してください）。

検索ウィンドウを開く：Portfolio の起動時に検索ウィンドウを自動的に開きたい場合、このオプションをオンにします。これにより、複雑な検索を即座に始めることができます。このオプションは通常、Portfolio で最初に行う操作が検索ダイアログボックスから検索条件を操作するような場合に便利です。

マスターキーワードパレットを開く：起動時にマスターキーワードパレットを開きます。これにより、ユーザーが手動でマスターキーワードパレットを開く手間が省けます。

スライドショーを実行：Portfolio を起動すると、フルスクリーンのスライドショーを開始し、カタログ内の全アイテムをスライドショーで表示します（指定されたスライドショーのオプションを使用します）。このオプションは、Portfolio を使用してプレゼンテーションする場合や、カタログを開いたらすぐにプレゼンテーションを開始するように設定する場合に便利です。スライドショー機能の使用に関する詳細は、**スライドショー 84 ページ**のを参照してください。

スプラッシュスクリーンを表示：独自のスプラッシュスクリーンを Portfolio カタログに追加して、カタログが開かれるたびにそのスプラッシュスクリーンを（4 秒間）表示することができます。Portfolio を起動すると、標準の Portfolio スプラッシュスクリーンの直後に、カスタムのスプラッシュスクリーンが表示されます。詳細は、**カスタムのスプラッシュスクリーンを追加 96 ページ**のを参照してください。

カスタムのスプラッシュスクリーンを追加

独自のスプラッシュスクリーンを Portfolio カタログに追加して、カタログが開かれるたびにそのスプラッシュスクリーンを（4 秒間）表示することができます。Portfolio を起動すると、標準の Portfolio スプラッシュスクリーンの直後に、カスタムのスプラッシュスクリーンが表示されます。

注意：

大きいスプラッシュスクリーンはカタログのサイズを増大させ、読み込みに時間がかかる可能性があります。スプラッシュスクリーンを必要以上に大きくしないことを推奨します。

カスタムのスプラッシュスクリーンを追加するには：

1. **カタログ>カタログ管理**を選択して、**カタログ管理ダイアログボックス**を開きます。
2. 起動時の動作タブで、**スプラッシュスクリーンを表示オプション**を有効にします。
3. **開く**（Win）をクリックまたは**ファイルの選択**（Mac）をクリックします。
4. スプラッシュスクリーンとして使用する JPEG 画像のある場所に移動し、**開く**をクリックします。
5. **OK**をクリックします。

選択された画像がダイアログボックスのカスタムスプラッシュスクリーンセクションに表示されます。この画像が次回カタログが開かれたときにスプラッシュスクリーンとして使用されます。

カスタムのスプラッシュスクリーンを削除するには：

1. **カタログ>カタログ管理**を選択して、**カタログ管理ダイアログボックス**を開きます。
2. 起動時の動作タブから、**クリア**をクリックします。
3. **OK**をクリックします。

データのインポートとエクスポート

Portfolio にはデータをカタログにインポートしたり、他のアプリケーションで使用するためにカタログからデータをエクスポートしたりできる強力な機能があります。

フィールド値のインポートコマンドを使用すれば、他のデータベースのフィールドと Portfolio の特定のフィールドを一致させることにより、そのデータベースから Portfolio にデータをインポートすることができます。逆に、Portfolio の任意のフィールドをデータベースやスプレッドシートで使用するために、テキストファイルにエクスポートすることができます。

フィールド値のインポート

Portfolio カタログにインポートするデータベースファイルを作成するには、フィールドがタブで区切られ、各アイテムがキャリッジリターンで区切られたプレーンテキストファイルを、データベースアプリケーションからエクスポートします。

テキストファイルの最初のアイテムは、データベースフィールドヘッダーです（この最初のアイテムは「Portfolio」カタログのデータベースフィールドと一致させるために使われ、アイテムとしてはインポートされません）。

警告

インポートされるテキストファイルは、常に Unicode フォーマット（UTF-16）で保存する必要があります。フォーマットについて詳しくない場合は、テキストエディタ（メモ帳、TextEdit、ワードパッドなど）でファイルを開いて、Unicode UTF-16 フォーマットでファイルを保存してください。

インポートを開始する前に、Portfolio にはあらかじめ必要なカスタムフィールドが設定されている必要があります。カスタムフィールドが設定されていないと、そのフィールドにはデータはインポートされません。

フィールド値をインポートするには：

1. インポートを行うデータの保存に必要なカタログのカスタムフィールドが設定されていることを確認します。カスタムフィールドの作成の詳細は、**カスタムフィールド**（67 ページの）を参照します。
2. インポートするデータが、上で記述したように各フィールドの値がタブで区切られ、各アイテムが改行で区切られたプレーンテキストファイルであることを確認します。
3. **ファイル > フィールド値のインポート**を選択して、インポートを行うテキストファイルを指定します。
フィールド値のインポートダイアログボックスで、インポートファイルのフィールドの見出しの下の左側の列にテキストファイルからのフィールドヘッダーが表示されます。
4. テキストファイルの各フィールドヘッダーを、右側の列に一覧表示されている Portfolio カatalogの適切なフィールド名に一致させます。ファイルのフィールドと Portfolio のフィールドを上下に動かして、フィールドの相対的な位置の順序を合わせます。左右の列の間をクリックして、インポートメニューをアクティブにします。これにより、各フィールドに対して適切なインポート演算子（キー、インポート、またはスキップ）を選択することができます。演算子の機能は以下のとおりです：
 - **フィールドのスキップ (X) : テキストファイルのフィールドがカタログにはインポートされないことを示します。**
 - **このフィールドにインポート (->) : テキストファイルのフィールドが矢印の右側にあるカタログのフィールドにインポートされることを示します。**
 - **フィールドキー (=) : キーの関係を定義します。Portfolio カatalogの対応するフィールドの値と一致する値が、インポートされるデータの選択されたフィールドで検索されます。インポートで、指定できるキーの関係は 1 つだけです。**
5. インポートフィールドの設定が完了したら、将来使用するためにその設定を保存できます。設定を保存するには、**保存済みセット**のドロップダウンメニューから**別名で保存**を選択します。
6. データベースをインポートする準備ができたなら、**インポート**をクリックします。

Portfolio はテキストファイルの 2 番目のアイテムの各フィールドの値を（1 番目のアイテムはフィールドヘッダーなので、2 番目のアイテムが実際のデータを持つ最初のアイテム）、インポートの最初で指定された対応する Portfolio の各フィールドタイプの値と比較して、適切なデータタイプであるかどうかをチェックします。値が適切なデータタイプでない場合は警告が表示され、インポートをキャンセルすることができます。

すべてのタイプが一致すれば、Portfolio はデータをインポートします。インポートの処理中、対応する Portfolio のフィールドタイプに一致しないフィールドのデータはスキップされます。

複数の値を入力できるフィールドのデータも置換する

フィールド値のインポートダイアログボックスで、このチェックボックスがオンになっている場合は、複数の値を持つフィールドにインポートされた値は、Portfolio のアイテムの値を上書きします。このチェックボックスがオフになっている場合は、インポートされた値は Portfolio のアイテムリストの末尾に追加されます。

テキストファイルのインポートに関する技術的な注意事項

インポートされるファイルはフィールドがタブで区切られ、アイテムがキャリッジリターンで区切られたテキストファイルなので、インポートするデータのフィールド内にこれらの文字が含まれていないことを確認してください。もし、それらの文字がフィールド内に含まれていると、インポートは予期しない結果となります。

Portfolio は ASCII 標準に従っており、ASCII 11 を垂直タブとして認識します。この文字はフィールド内での改行を表すために使用します（例えば、説明フィールドのようなテキストブロックで使用）。Portfolio はまた、ASCII 29 をグループ分離文字として認識します。この文字は複数の値を持つフィールド（例えば、キーワードフィールド）内で、値を区切るために使用します。複数行または複数の値を持つデータを他のデータベースからエクスポートする場合は、必ずこれらの文字を使用してください。複数の値または複数行を持つフィールドをサポートしているデータベースには、これらの標準をサポートしているものもあります（例えば、FileMaker Pro など）。

データのテキストファイルへのエクスポート

Portfolio カタログのデータを、エクスポートするフィールドとスキップするフィールドを指定して、テキストファイルにエクスポートすることができます。アクティブなギャラリーで選択されたアイテムのデータのみがエクスポートされます。

カタログのフィールドをテキストとしてエクスポートするには：

1. ギャラリーでテキストデータのエクスポートを行うアイテムを選択します。
2. **ファイル>フィールド値のエクスポート**を選択します。
3. カタログのフィールドリストの左端の列をクリックして、各フィールドのエクスポートを有効にするか無効にするかを設定します。チェックされているフィールドがエクスポートされます。
4. **エクスポート**をクリックします。
5. エクスポートするファイルの名前を入力して保存場所を指定し、**OK**をクリックします。Portfolio は選択された各アイテムの情報を含む、タブで区切られたテキストファイルのエクスポートします。このファイルは、アイテム内の各フィールドがタブで区切られ、各アイテムがキャリッジリターンで区切られたテキストファイルです。

テキストファイルのエクスポートに関する技術的な注意事項

エクスポートされるファイルはフィールドがタブで区切られ、アイテムがキャリッジリターンで区切られたテキストファイルなので、もしこれらの文字がフィールド内にあるとファイルを適切にフォーマットできません。したがって、Portfolio ではこれらの文字をフィールド内で使用することはできません。

Portfolio は ASCII 標準に従っており、ASCII 11 を垂直タブとして使用します。この文字はフィールド内での改行を表すために使用します（たとえば、説明フィールドのようなテキストブロックで使用）。Portfolio はまた、ASCII 29 をグループ分離文字として使用します。この文字は複数の値を持つフィールド（たとえば、キーワードフィールド）内で、値を区切るために使用します。複数の値または複数行をもつフィールドデータのテキストファイルへのエクスポートをサポートしているデータベースには、これらの標準をサポートしているものもあります（たとえば、FileMaker Pro など）。

破損したカタログの修復

Portfolio カタログを開けず、カタログが破損した可能性がある場合は、修復コマンドを使って修復することができます。

特定のフィールドをソートまたは検索してクラッシュした場合に修復コマンドを起動します。

カタログを修復するには：

1. Portfolio Server Admin Web インターフェースを使用して、カタログをオフラインにしてください。
2. カタログの FDB ファイルのローカルコピーを作成します。
3. マシン上で Portfolio デスクトップクライアントをローカルで使用して、**カタログ>修復**を選択します。ディレクトリダイアログボックスが表示されます。
4. 修復するカタログを探して、**開く**をクリックします。
5. 修復されたカタログの新しい名前を入力し、保存場所を選択して、**保存**をクリックします。Portfolio がカタログをチェックし、損傷の修復を試みている間、進行状況ウィンドウが表示されます。修復されたカタログを Portfolio Server のデフォルトカタログの場所に戻すことができます。
6. 完了状況レポートが表示されたら、**OK**をクリックします。
7. 修復されたカタログを開いて、すべてのアイテムが損なわれていないことを確認します。
8. Portfolio Server Admin Web インターフェースを使用して、カタログを再度使用できるようにします。

公開されたカタログの管理

Portfolio デスクトップクライアントから管理者モードでカタログを開く場合、そのカタログを他のユーザーがアクセスすることはできません。

Portfolio Server 上では、カタログは他のユーザーと同時共有されていますが、これは、カタログを管理者モードで使用している間は他のユーザーがそのカタログにアクセスできないことを意味します。カタログを管理者として開くと、他のすべてのユーザーはロックアウトされません。

他のユーザーがカタログを開いているときに、管理者モードに切り替えると、他のユーザーは即座にログオフされます。これを避けるには、サーバーの設定ダイアログボックスのオプションを使って、他のユーザーに（カタログを閉じて）自分自身でログオフするまでの時間を与えるか、彼らがログオフされるまでに一定の時間を与えるかのいずれかを行います。

不注意からユーザーがログオフされるのを避けるために、公開されたカタログは、たとえ環境設定ダイアログボックスでデフォルトのアクセスモードを管理者に設定していたとしても、管理者モードで開くことはできません。この場合、カタログはデフォルトで、発行者モードで開かれます。カタログを開いた後、ユーザーに警告して管理者モードに切り替えることができます（**カタログ>アクセス権のレベル**を選択）。

カタログを管理者モードで開いている間は、カタログがたとえ公開状態にあったとしても、そのカタログは他のユーザーのサーバーへの接続ダイアログボックスには表示されません。そのカタログを他のユーザーに公開するには、そのカタログを閉じるか、または違うアクセスモード（発行者、編集者、閲覧者）に切り替えます。

Portfolio Server 上でのカタログの設定に関する詳細については、Portfolio Server ユーザーガイドを参照してください。

スクリプトを使ったPortfolioの自動化

Portfolio は、Mac OS X の AppleScript や、Windows の OLE オートメーションにアクセスするために使用可能な Visual Basic、Visual C++、JavaScript、その他のスクリプト言語による多彩なスクリプト処理をサポートします。

上記のタイプの有効なスクリプトが Portfolio アプリケーションと同じフォルダ内のスクリプトという名前のフォルダに置いてある場合のみ、Portfolio のスクリプトメニューが表示されます。スクリプトフォルダ内にあるスクリプトとアプリケーションは、新しいスクリプトメニューに追加され、通常のメニューコマンドとして使用できます。

スクリプトフォルダ内の Mac OS X スクリプトファイルは AppleScript ファイルである必要があります。Windows スクリプトファイルはコンパイル済みの EXE または CMD ファイルでなければ、スクリプトメニューに含まれません。

注意

- スクリプトメニューは Portfolio デスクトップクライアントでのみ利用でき、MediaScript™ ファイルに対しては実行できません。Portfolio NetMediaMAX を導入する場合は、MediaScript ファイルは Portfolio Server と Portfolio Media Engines で自動ファイル変換に利用できます。
- カスタムプログラムについては、Extensis デスクトップクライアントではテクニカルサポート外となります。

カスタムカタログタイプ

サーバー管理者は Portfolio デスクトップクライアントを使って、カスタマイズしたカタログタイプを作成し、新規カタログ作成時に使うことができます。カスタムカタログタイプにはカスタムフィールドやメタデータマッピングを含めることができます。

設定方法は、Portfolio Server 管理ガイドとヘルプシステムで詳しく説明しています。ここでは概要のみを記載しています：

- Portfolio Server Admin アプリケーションで空の新規カタログを作成します。
- デスクトップクライアントを起動して、カタログ管理者権限でそのカタログを開きます。
- カタログをカスタマイズします。
- ファイル > **カタログタイプを保存**を選択します。
- Portfolio Server Admin アプリケーションでカタログの種類で保存したカタログタイプを選択できます。

環境設定

ダブルクリック設定

ギャラリーカタログでアイテムをダブルクリックしたときの動作設定を選択することができます。デフォルト設定を選択すると、アイテムのプロパティを表示、オリジナルファイルを編集、または画面プレビュー画像を表示することができます。

ダブルクリックの設定を変更するには：

1. **編集>環境設定** (Win) を選択、または **Portfolio>環境設定** (Mac) を選択します。
2. 環境設定ダイアログボックスの一般タブで、ダブルクリック時の動作のドロップダウンボックスから適切な設定を選択します。

ツールバーをカスタマイズ

ツールバーをカスタマイズするには：

1. **表示>ツールバーをカスタマイズ** を選択します。
2. Macintosh では、ツールバーにまたはツールバーから直接、ボタンアイコンをクリックしてドラッグします。

Windows では、リストから希望のボタンアイコンを選択して**追加**および**削除**ボタンをクリックします。

3. **閉じる** (Win) をクリックまたは**終了** (Mac) をクリックします。

環境設定ダイアログボックス

Portfolio 環境設定ダイアログボックスを開くには：

- Windows の場合は、**編集>環境設定** を選択します。
- Mac OS X の場合は、**Portfolio>環境設定** を選択します。

環境設定ダイアログボックス - 一般

これらのオプションは、主に、Portfolio が行うサムネールの表示、カタログ化されたアイテムのプレビューおよび現行ユーザー名の表示方法に関連するものです。

デフォルトのアクセスモード

このドロップダウンボックスを使用して、Portfolio のユーザーコピーに対して 4 つのアクセスレベルモード (閲覧者、編集者、発行者、管理者) のどれを使用してカタログを開くかを設定します。

画像寸法

画像寸法を表示するための測定単位を選択します。これはギャラリーおよびプレビューウィンドウの表示に適用されます。

アイテムをダブルクリック

このオプションにより、サムネールをダブルクリックしたときの Portfolio の動作を定義できます。

Portfolio に以下の動作を設定できます：

- アイテムのプロパティダイアログボックスを開きます。
- アイテムのプレビューを開きます。
- 編集用にオリジナルのアイテムを開きます (ファイルのオリジナルアプリケーションを使用)

プレビュー時にムービーおよびサウンドファイルを自動再生

選択すると、プレビューウィンドウでムービーおよびサウンドファイルが自動再生されます。再生ボタンをクリックする必要はありません。

サムネールに複数ページアイコンを表示

選択すると、複数ページの PDF、Photoshop®、PowerPoint®および TIFF ファイルの右下隅に小さな複数ページアイコンが追加されます。

サムネールに部分的カタログ化のアイコンを表示

これを有効にすると、Portfolio は部分的にカタログ化された各サムネールのアイテムの下に、小さなアイコンを表示します。このアイコンは、アイテムが完全にカタログ化されたときに削除されます。

環境設定ダイアログボックス - カタログ作成タブ

カタログ作成オプションの案内なし

環境設定ダイアログボックスのカタログ作成タブで、カタログ作成オプションなしオプションを選択すると、いつでもカタログ作成オプションウィンドウを隠しておくことができます。

ただし、以下のことを設定どおりに行うセクションにある 3つのオプションにより、カタログ作成オプションダイアログボックスが隠れたままに設定されている場合、どのカタログ作成オプションを実行し、どのカタログ作成オプションを無視するかを指定できます。

カタログ作成時に誤ってファイルの移動または名前変更を行わないように、これらのオプションをオフにすることもできます。たとえば、アイテムの名前変更オプションをオフにすると、カタログ作成オプションダイアログボックスを表示して名前を変更する方法を設定しない限り、Portfolio はカタログの作成時にファイルの名前を変更しません。

用語集

-A-

ALT キー

Windows キーボードにある修飾キー。マウスや他のキーと共に使うと、ショートカットになったり、機能やアクションを拡張することができます。

API

アプリケーションプログラミングインターフェイス (Application Programming Interface)。Portfolio Server は開発者向けに API を提供しています。Portfolio カタログへのアクセスのカスタマイズ開発が可能です。

AppleScript

Mac OS X で利用できるスクリプト言語。アプリケーション間のデータ移動や自動化を実行できます。Portfolio デスクトップクライアントでは、Mac OS X の AppleScript®を使った自動化が可能です。Visual Basic の項目も参照してください。

-D-

DBA ツール

データベース管理ツール (Database Administrator Tool)。Portfolio カタログが使う SQL データベースに、アクセスと管理機能を提供する Windows 用のツール。

DNG

Digital Negative ファイル。Adobe が開発したファイルフォーマット。XMP メタデータ、プレビュー画像、その他の情報を含む RAW 画像。

DSN

Data Source Name。データソースへの接続を記述した情報。Portfolio Server は SQL データベース内のカタログを特定するために DSN を利用します。

-E-

EPS

Encapsulated PostScript。PostScript コマンドで書かれた画像や図形などを表す自己完結型の画像ファイル。他の PostScript ドキュメント内に配置することができます。

EXIF

Exchangeable Image File format。デジタルカメラにより利用される画像、音声、メタデータ用の標準フォーマット。EXIF データには画像を撮影したデバイスの情報 (モデル名やシリアル番号等) も一般的に含まれます。Portfolio では、EXIF タグを読み込んだり、書き出したファイルに埋め込むことができます。

-F-

FDB

Portfolio Server が利用する、カタログ/データベースのネイティブファイルフォーマット。カタログファイルの拡張子も FDB です。

-G-

GPS

全地球測位システム（Global Positioning System）。GPS ユニットを備えたカメラや測位システムでは、画像内に GPS メタデータを埋め込むことができます。Portfolio ではこのメタデータを読み込むことができます。

-I-

IPTC

International Press Telecommunications Council。デジタルファイルのメタデータ追加に関する世界最初の標準システム。IPTC メタデータは、XMP が使われる前の多くのシステムやデバイスでサポートされています。Portfolio は埋め込まれた IPTC メタデータを読み込むことができます。

IP アドレス

インターネットプロトコルアドレス（Internet Protocol address）。ネットワーク上のコンピュータや他のデバイスを特定するための数字によるアドレスシステム。IP アドレスは通常、192.168.0.10 のように、ピリオドで分割された 4 つの 0~255 の間の値で構成されています。IP アドレスは変更されない静的に割り当てられる場合（ネットワーク上のプリンタや他のデバイスなど）と、同じデバイスでもそのたびにダイナミックに異なるアドレスが割り当てられる場合（ネットワークから切り離されるノートコンピュータなど）があります。

-J-

JPEG/JPG

(1) Joint Photographic Experts Group が開発した標準圧縮形式。JPEG はロッキー圧縮で、より高い圧縮のためにデータの一部が失われます。(2) ビットマップファイルフォーマット。一般的に写真によく使われます。

-L-

LDAP

ライトウェイトディレクトリアクセスプロトコル（Lightweight Directory Access Protocol）。ネットワークユーザーディレクトリの参照と編集を行う手段。

-M-

MediaScript（メディアスクリプト）

Portfolio Server で 1 つまたは複数のカタログで実行させるコマンド集。スクリプトはいつでも任意に選択したアイテムに対して実行することができます。

-N-

NetMediaMAX

Portfolio Server の追加オプションで、追加のメディアエンジンライセンスとフォーマット変換の拡張、スクリプトが含まれています。

NetPublish

Portfolio Server の追加オプションで、カタログやギャラリーのコンテンツをウェブサイトに公開することができます。

-O-

ODBC

Open Database Connectivity。このソフトウェアはオペレーティングシステムとデータベース間を仲介し、アプリケーションからデータベースへのアクセスを容易にします。Portfolio Server Enterprise 版は、ODBC を使って Microsoft SQL Server、Oracle、MySQL データベースに接続します。

Office ドキュメント

Microsoft Office アプリケーション（Excel®、Word、PowerPoint®）で作成された表、文章、プレゼンテーションドキュメントのフォーマットの総称。Portfolio では、Office ドキュメントをカタログに登録してメタデータを抽出することが可能です。

-P-

PDF

ポータブルドキュメントフォーマット（Portable Document Format）。このファイルフォーマットは例えば印刷用の電子入稿時に利用されます。PDF ファイルは PostScript をベースにしており、フォントの埋め込みや、様々なレベルのプロテクションを含めることができます。

Portfolio Express

Mac OS X と Windows 用のデスクトップアプリケーションで、Portfolio カタログとアセットに接続できます。Portfolio Express はとても軽いシステムのため、バックグラウンドで起動しておき必要な時にホットキーで呼び出すことができます。カタログ内の検索、サムネール表示、他のアプリケーションへ画像をドロップ、オリジナルファイルの場所の表示などが行えます。

-Q-

QuickTime

Apple が提供するマルチメディアアプリケーション。多くのビデオやオーディオフォーマットの再生や変換が可能です。Portfolio Server は QuickTime を使い、いくつかのメディアトランスコーディングに使用しています。

-S-

SQL

Structured Query Language。エスキューエルと読みます。SQL はデータベース操作のための最も一般的なプログラミング言語です。

SQL Connect

Portfolio Server Enterprise 版のコンポーネントで、カタログ用に Portfolio の内部データベースではなく、SQL データベースが利用できるようになります。

SSL

Secure Sockets Layer。インターネット上の通信安全を提供する暗号プロトコル。SSL はメッセージの信頼性のために鍵のついたメッセージ認証コードを使用します。

-T-

TIFF

タグ付けされた画像ファイルフォーマット (Tagged Image File Format)。高品質画像でよく利用されるグラフィックファイルフォーマット。TIFF ファイルはビットマップグラフィック、ベクターパス、複数レイヤー、複数ページを含めることができます。

-U-

URL

Uniform (または Universal) Resource Locator。ファイルやウェブページなどのインターネットリソースを参照するテキストストリング。Portfolio カタログアイテムは URL フィールドを持つことができるため、Portfolio ウェブクライアントのグリッド表示で、アセットに関連するウェブリソースのクリック可能なリンクが表示できます。

-V-

Visual Basic

Microsoft Windows で利用されるプログラミング言語と開発環境。Visual Basic® (省略 VB) を使うと Windows 上の Portfolio デスクトップクライアントで自動化が可能です。AppleScript の項目も参照してください。

-X-

XMP

拡張可能なメタデータプラットフォーム。XMP はフィールドを多く持っており、必要に応じてカスタムメタデータを含めることができます。

-Z-

ZIP

(adj.) データ圧縮とアーカイブに利用されるファイルフォーマット。(v.) ひとつまたは複数のファイルを ZIP 形式ファイルに圧縮すること。Portfolio はダウンロードファイルを ZIP 形式で提供します。圧縮の項目も参照してください。

-ア-

アイテム

Portfolio カタログに登録されたもの。メタデータを含む画像、ビデオ、ドキュメント、または他のファイルアセットを示すもの。

アイテムプロキシアイコン

対応していないアイテムに対する代理。Portfolio ウェブクライアントでは、いくつかのアイテムプロキシアイコンがあります。プロキシアイコンはアイコンで表示され、見えていないと難しいアイテムのグループ化などを可能にします。プロキシアイコンは、アイテム検索 (選択されている現在の検索またはオーガナイザの検索結果の全アイテム)、アイテム表示 (メインウィンドウの現在のページで表示されている全アイテム)、アイテム選択 (現在のページで選択されているアイテム) に利用できます。

アクセスレベル

ユーザーが特定のカタログで利用できる機能を決定する階層ランク。ユーザーはメンバーになっているカタログごとにアクセスレベルを設定することができます。

アクティブディレクトリ

Windows ネットワークで提供されるディレクトリサービス。AD と省略されることがあります。

アシスタント

複雑な作業を単純なステップで提供するユーティリティ。Portfolio デスクトップクライアントには、NetPublish アシスタントやウェブページ作成アシスタントが搭載されています。

アセット

組織にとって価値がある、もしくは価値を生み出す、写真、画像、書類、オーディオ、ビデオ等のファイル

アップロード

ローカルコンピュータから、リモートコンピュータやサーバーにファイルを移動すること。ダウンロードの項目も参照してください。

-ウ-

ウェブアプリケーション

ウェブブラウザ内で起動し、複数のプラットフォームで簡単に利用できる強力なアプリケーション。ウェブアプリケーションはインターネット上にある必要はありません。

ウェブサーバー

(1) ワールドワイドウェブ上にコンテンツを配信するため、またはローカルイントラネット上にウェブスタイルのコンテンツを配信するためのソフトウェア。Microsoft の Internet Information Services (IIS) や Apache HTTP Server (Apache) など。(2) ウェブコンテンツ配信専用のハードウェアシステム。

-オ-

オーガナイザ

Portfolio ウェブクライアント内で、利用されるカタログアイテムのグループ。オーガナイザには、カタログやフォルダなど実際のグループを表すものと、ギャラリーのようにバーチャルなグループを表すものがあります。

オートシンク

自動的にファイルをカタログに登録したり、カタログ内のアイテムを最新の状態に保つためのシステム。オリジナルが見つからない場合に、カタログからアイテムを削除する設定にすることもできます。監視フォルダ内のアイテムとカタログが同期している状態にできます。

オートシンクフォルダ

Portfolio Server カatalogに追加したいファイルをユーザーが置く、ネットワーク上のフォルダ。Portfolio は指定された間隔でオートシンクフォルダをチェックし、新しく追加されたファイルや変更されたファイルが見つかったら、ファイルをスキャンして、メタデータの抽出とアップデート、パスの更新、サムネールとプレビューファイルの再作成を実行します。監視フォルダの項目も参照してください。

オープンディレクトリ

OS X サーバー上で動くディレクトリサービス。「Apple オープンディレクトリ」と呼ばれることもあります。

オフライン

ユーザーからアクセスできない Portfolio カatalog (例えばバックアップ中など)。オンラインの項目も参照してください。

オリジナル

カタログアイテム用の元ファイル。オリジナルファイルはカタログ内には保存されません。

オンライン

ユーザーからアクセス可能な Portfolio カタログ。オフラインの項目も参照してください。

-カ-

カスタムフィールド

Portfolio カタログ内でユーザーが設定したフィールド。ファイル用のあまり一般的ではない情報に利用します。典型的な使われ方としては、顧客コードや注文番号など、特定のワークフローやビジネスモデルで発生する情報などを格納するために使われます。

カタログ

(n) デジタルアセットを集めたもの。(v) カタログにデジタルアセットを追加する行為。Portfolio では、画像、グラフィック、デジタル写真、ドキュメント、その他のファイルをカタログと呼ぶデータベースファイルで管理します。カタログには、ファイルのサムネイル画像と、埋め込まれたメタデータ、必要なカスタム情報、ディスク上のオリジナルファイルの場所を示す情報が保存されています。カタログ内にはオリジナルファイル自体は含まれません。アセット、ファイル、メタデータ、サムネイルの項目も参照してください。

カタログオプションプリセット

Portfolio デスクトップクライアントを使ってアイテムをカタログに登録する際に、適用する複数のアクションを設定して保存したものの。

カタログ管理者

カタログ内のアセットをどう扱えるかを決められるアクセスレベル。カタログ管理者は、そのカタログに関するすべての設定権限を持ちます。

カテゴリ

Portfolio デスクトップクライアント内で設定できるバーチャルグループ。カテゴリを使うと、カタログ内のアセットを階層的に整理することができます。

カメラ RAW (Camera Raw)

デバイスのモデルやシリーズごとに用意されたファイルフォーマット。最低限に処理されたデータが含まれています。RAW ファイルは、デバイスのセンサーが直接捉えた情報をできる限り保持し、画像が撮影された状況をメタデータとして内蔵しています。

-キ-

キーワード

アイテムに付けられる、そのアイテムを表現する言葉。似たようなアイテムを探したり、検索を容易にします。アイテムに付けたキーワードは、カタログ内のアイテムのフィールド内に保存されます。マスターキーワードリストの項目も参照してください。

-ギ-

ギャラリー

カタログ内のアイテムの特定のセット。ギャラリー内には実際のアイテムが含まれるわけではなく、アイテムを表示するリストのみです。そのためギャラリーへアイテムを追加したり削除したりしても、カタログそのものは変更されません。

-ク-

クイック検索

特定のフィールド内のテキストを素早く検索するためのツール。クイック検索の設定は、Portfolio Server 内の quickfind.xml ファイルを編集することで変更することができます。

クエリー

(n.) データベースからの情報リクエスト。(v.) データベースから情報をリクエストすること。

クライアントアプリケーション

非サーバーシステム（コンピュータ、タブレット、スマートフォン）で動き、サーバーに接続して機能するソフトウェア。Portfolio にはデスクトップクライアントアプリケーションと、ブラウザベースのウェブクライアントが用意されています。

クリップ

オーディオファイルやビデオの一部。Portfolio Server はカタログに登録したオーディオファイルやビデオメディアからクリップを作成します。サーバー管理者はカタログが作成される際にクリップの仕様を設定することができます。

クロップ

特定の縦横サイズに画像を切り抜くこと。オリジナル画像内の要素が削られます。

-コ-

コマンド（Command、⌘ キー

Macintosh キーボードにある修飾キー。マウスや他のキーと共に使うと、ショートカットになったり、機能やアクションを拡張することができます。特に、Command-P で印刷、Command-C でコピーなど、多くのキーと組み合わせることで一般的なメニューアイテムを開けることがよく知られています。

コンタクトシート

(1) Portfolio ウェブクライアント：カタログ内の画像やドキュメントの小さな画像と、各アイテムの情報が含まれた PDF ファイル。
(2) Portfolio デスクトップクライアント：ギャラリーの内容を表す、同じようなサイズで表現された小さい画像。アナログ写真時代に、写真印画紙の上に直接一連のネガフィルムを置いてコンタクトシート、コンタクトプリント、またはプルーフシートと呼ばれるものを作成していました。ネガから印画紙に露光し、その後印画紙を処理します。ネガが印画紙と直接接触しているため、画像はネガフィルムと同じサイズで焼き付けられます。最終的な画像のセレクトや、最終プリントのアイデアを練るために利用されていました。

コントロール/Ctrl キー

コンピュータキーボードにある修飾キー。マウスや他のキーと共に使うと、ショートカットになったり、機能やアクションを拡張することができます。

-サ-

サーバー

(1) ファイルやサービスを、ユーザーやファイルサーバー、プリントサーバーなどの他のコンピュータシステムに提供するために用意される専用のコンピュータシステム。(2) サービスをユーザーや他のコンピュータに提供するソフトウェアパッケージ。Portfolio Server など。

サーバー管理

ブラウザベースのアプリケーションで、Portfolio Server カタログやユーザーの作成や削除、カタログメンバーシップの設定などが行えます。

サーバー管理者

サーバー管理アプリケーションを使ってカタログとユーザーを管理する責任者。

サイドカー

メタデータの埋め込みが許可されていないファイル形式用に、メタデータのみを持った別のファイル。一般的にサイドカーにはオリジナルファイルと同じファイル名に、その性質を示す拡張子が付きます（XMP サイドカーファイルには.XMP）。オートバイのサイドカーのように、サイドカーファイルはオリジナルファイルと一緒に移動します。

サブフォルダ

階層直下のフォルダ。フォルダ内のフォルダ。上位フォルダの項目も参照してください。

サムネイル

オリジナルファイルと比較して、サイズや解像度を下げたカタログ表示用のアイテム。

サムネイルの再作成

Portfolio Server がオリジナルファイルからサムネイルを再作成します。アイテムのサムネイルの再作成はオリジナルファイルから行います。カタログ上のサムネイルや、オリジナルファイルが変更された場合に利用します。

-ジ-

ジョブ

ユーザーによる指示で Portfolio Server が行うタスク。ジョブにはアップロード、ダウンロード、バッチ処理、自動処理も含まれます。

-ス-

スマートギャラリー

一定の条件に合うアイテムを表示するギャラリー。スマートギャラリー内のコンテンツは、条件が変更されると変わります。また新しく条件に合うアイテムがカタログに追加されたり変更されると、スマートギャラリーの内容が変わります。

-ダ-

ダウンロード

リモートコンピュータやサーバーから、ローカルコンピュータにデータを移動すること。アップロードの項目も参照してください。

-デ-

ディレクトリ

(1) ネットワークデータリソース。組織内の人、部署、チーム、プリンタ、その他の類似のリソースのエントリ用。(2) ファイルが含まれるディスク管理の一般的な用語。通常はフォルダとして見えています。

ディレクトリサービス

ディレクトリにアクセスする方法を格納して、整理、供給するソフトウェア。Windows のサーバーでは、アクティブディレクトリが最も一般的なディレクトリサービスです。OS X servers では、オープンディレクトリが一般的です。両方とも LDAP で実行されます。

ディレクトリサービスマッピング

ディレクトリサービスのグループ/ユーザーアカウントと、Portfolio ユーザーアカウント間を関連づけること。

データベース

様々な方法でアクセスが可能な、体系化されたデータセット。Portfolio カタログは、デジタルアセットを簡単に識別するためにデザインされた、特定のフィールドを持つデータベースです。

-テ-

テンプレート

新しいものを作成する際に、よく使うデザイン、パターン、スタイル等を共有するために、あらかじめある程度のデザインやレイアウトがされたもの。NetPublish では、カタログコンテンツの配信方法が保存された様々なウェブサイトの種類をテンプレートとして提供しています。Portfolio デスクトップクライアントでは、カタログレイアウト（フィールド、メタデータマッピング、マスターキーワードリスト等）を新規カタログタイプまたはテンプレートとして保存できます。

-ド-

ドキュメント（文書）

個人やグループの考えをまとめたコンピュータファイル。一般的には主にテキストからなるファイルを指して使われますが、写真や画像、ビデオ、オーディオファイルを指すこともあります（「ドキュメント」という用語自体は古い歴史があるため、デジタルコンテンツを指す場合にも様々な考え方があります）。

ドメインユーザーアカウント

ネットワークベースの Windows のユーザーアカウント。このアカウントはログインするとすぐにネットワークリソースを利用することができます。ローカルシステムアカウントの項目も参照してください。

ドラッグ&ドロップ

コンピュータマウスを使って、コンテンツを移動（ドラッグ）して、新しい場所で放す（ドロップ）操作。ドラッグ&ドロップはコンテンツによってデータの移動やコピーが行えます。

-ト-

トランスコード

ビデオやオーディオファイルを他のフォーマットに変換すること。

-パ-

パス

ディスク上のファイルやフォルダの位置を示すテキスト。

-バ-

バッチ処理

一連のプロセスやジョブを手動で行わずに実行すること。Portfolio はカタログアイテムを変換してダウンロード用に用意する作業をバッチ処理します。

バッチ変換

1つの操作で、複数アイテムの変換を行うこと。Portfolio ウェブクライアントに搭載されているバッチ変換機能は、ファイル形式、解像度、カラーモード、サイズを変換することができます。

パブリックギャラリー

カタログの全メンバーが見ることができるギャラリー。プライベートギャラリーの項目も参照してください。

パレット

他のウィンドウ上にフローティングウィンドウとして表示され、特定の機能やツールにすばやくアクセスできるウィンドウ。Portfolio デスクトップクライアントでは、カテゴリ、マスターキーワード、カタログオプションプリセット、カスタムフィールドへのデータ入力などのパレットが用意されています。

-ビ-

ビット深度

1 ピクセル内のカラー表現に使われているビット数。8 ビット画像は、1 ピクセルにつき 1 バイトが使われており、256 色の表現が可能です。24 ビット画像は、1 ピクセルごとに 3 バイトが使われ、それぞれレッド、グリーン、ブルーに割り当てられると、1600 万色が表現されます。

-フ-

ファイアウォール

コンピュータシステムやネットワーク内のアクセスをコントロールするソフトウェア。ファイアウォールは一般的に、ファイアウォールの外側にあるシステムやネットワークから、ファイアウォールの内部リソースへのアクセスブロックに使われます。

ファイル

オブジェクトコードのまとまったもの。コンピュータディスク内に、ひとつの名前で保存されているデータ。

フィールド

データベースに記録された一部。フィールドには一般的にアイテムに関連したデータ（例えば数字、日付、テキストなど）を持ちます。

フィルター

他のアプリケーションやプロセスで利用するためにデータを処理するソフトウェアの一部。Portfolio ウェブクライアントではプロパティパネルに表示する、検索や並べ替えに利用するフィールドリストをフィルターします。必要なフィールドだけを表示させることができます。

フィルターされたフィールド

Portfolio ウェブクライアント内のプロパティパネルに表示するカタログフィールドのサブセット。フィルターされたフィールドは、検索内選択や情報表示にも利用できます。Portfolio ウェブクライアントの各ユーザーは、各自の目的にあったフィールドを選択することができます。

フォルダ

ディスク上のファイルやフォルダをまとめておくための入れ物。

フォルダ階層

フォルダ内のフォルダなど、フォルダの配置。通常システムのファイル管理を指します。

-プ-

プライベートギャラリー

作成した人だけが見ることができるギャラリー。他のカタログメンバーは見ることができません。パブリックギャラリーの項目も参照してください。

フラグ

(v.) アイテムに注意マークを付けること。(n.) アイテムに付けた注意マークのこと。

フラグアイテム

Portfolio ウェブクライアントに付いている整理機能。カタログ内のフラグが付いたアイテムだけを表示します。

プリセット

同じ変換作業を繰り返し実行する場合に、素早く行えるよう変換設定を保存したもの。Portfolio ウェブクライアントでは、ファイル変換とダウンロード用にプリセットを作成して使うことができます。

プレビュー

(v.) 変更や印刷を行う前に画像やドキュメントを表示すること。(n.) オリジナルファイルを視覚的に認識するために、解像度を下げたりサイズを小さくした画像や、ドキュメントページの画像、ビデオフレームなど。

プロパティ

グラフィックのピクセル情報、PDF のページ数、写真家のコピーライトなど、アイテムに適用されたメタデータや情報。Portfolio ウェブクライアントから多くのアイテムプロパティを表示したり、適用したり、編集することができます。

-ペ-

ページ

カタログ内や検索結果のアイテムのサブセット。Portfolio ウェブクライアントでは、メインウィンドウにカタログアイテムの一定数が表示されます。もし検索結果がメインウィンドウに表示できる数を超えるアイテムを持つ場合は、アイテムは複数のページに表示されます。

-ポ-

ポート

入ってくるデータを受け取るアプリケーションを決定するサーバーでのアドレスとして使われる数字。Portfolio Server はコンポーネント間のコミュニケーションに複数のポートを使用します。

ポストスクリプト (PostScript)

Adobe が開発したページ記述言語。デバイスに依存しない、ページ内のレイアウトやテキスト、グラフィックを記述する方法。PostScript は Adobe Illustrator や PDF ドキュメントのベースになっています。

-ボ-

ボリューム

ディスクパーティション。ボリュームはユーザーからはディスクアイコンで見えますが、実際には複数のボリュームに分割されたひとつのディスクの場合もあります（ボリュームとディスクはしばしば混在して利用されています）。Portfolio では、アイテムのオリジナルファイルが保存されているボリューム名を記録しています。

-マ-

マスターキーワードリスト

カタログ管理者が定めたキーワードの一覧。キーワードを付ける際に、入力していく代わりに、ユーザーはあらかじめ用意されたマスターキーワードリストから選択することができます。カタログ全体のキーワードの一貫性を保つことができます。キーワードの項目も参照してください。

マッピング

あるデータセットを、別のセットに関連づけること。Portfolio にファイルを読み込む際に、特定のメタデータ情報をどのフィールドに取り込むのかを設定できます。どのメタデータがどのフィールドに格納されるかは、メタデータマッピングによって決定されます。

マルチスレッド

複数のコードが別々のプロセッサやコア上で同時に実行できるように書かれたコンピュータコード。マルチスレッドは、プログラムがより速く効率的に処理されます。Portfolio Server はマルチスレッド処理を実行するので、複数のプロセッサやシステム (NetMediaMAX 使用時) で、1つの重いタスクを分割することができます。

-メ-

メタデータ

データについてのデータ。メタデータは、著作者名や文字数、場所、写真の撮影者、キーワードなどファイルの内容をあらわす情報。メタデータは分類やデータの識別、アセットの置き場所などを決める際に重要なツールになります。

メディア

(1) オーディオやビデオファイルなどのように、一般的には時間軸のあるファイル。(2) 独立した形をした、データが実際に格納されるコンピュータ記憶装置。例えば DVD ディスクなど。

メディアエンジン

Portfolio Server が多くの種類のファイル処理を依頼するハードウェア、ソフトウェアの組合せ。変換作業を速く行うために Portfolio Server は内部にメディアエンジンを持っています。また、大規模な処理を実行する場合は、1つまたは複数の他のシステム上で動くメディアエンジンで処理を分散させることもできます。

メンバー

カタログへのアクセスを許可された Portfolio アカウントユーザー。

-ユ-

ユーザー

Portfolio Server にアカウントを持ち、アセットやカタログにアクセスできる人。

ユーザーアカウント

Portfolio システム内に保存されている、ログイン証明書 (ユーザー名とパスワード) とユーザーに関連した情報

-ル-

ルート (root)

(1) ディレクトリ構造の一番上。(2) システムの全権限を持つユーザー。

ルート証明書

ルート証明機関を特定するサインがない公開鍵証明書または自己署名された証明書。

-ロ-

ローカルシステムアカウント

単独システムで利用するユーザーのための Windows アカウント。このアカウントはネットワークリソースへのアクセスが自動的に適用されません。ドメインユーザーアカウントの項目も参照してください。

-ワ-

ワークフォルダ

(1) ワールドワイドウェブ上にコンテンツを配信するため、またはローカルイントラネット上にウェブスタイルのコンテンツを配信するためのソフトウェア。Microsoft の Internet Information Services (IIS)や Apache HTTP Server (Apache) など。(2) ウェブコンテンツ配信専用のハードウェアシステム。

ワークフロー

制作工程の初めから終わりまでのステップ、またはプロセス。

-一-

一時ギャラリー

特定の作業やワークフロー用にアイテムを分類するのに利用できる、一時的なギャラリー。一時ギャラリーは通常のギャラリーとしても保存できます。

-上-

上位フォルダ

指定されたフォルダやファイルが含まれているフォルダ。

-仮-

仮レコード

Portfolio カタログ内で、まだ追加されていないファイル用に確保されたアイテム。

-公-

公開されたカタログ

オンラインでユーザーから利用できる状態のカタログ。

-共-

共有

ネットワークユーザーからアクセス可能なファイルが含まれたもの（フォルダやボリューム）。通常はボリュームとして表示されます。

-同-

同期

Portfolio カタログに登録済みのファイルが変更された際に、その変更を反映させる処理。例えば、Adobe Bridge を使って、すでにカタログに追加されている InDesign ファイルにキーワードを追加した場合、カタログを同期して、新しいキーワードがカタログアイテムに追加されるようにします。

-名-

名前空間

一組の名前のためのコンテナ。コンテナ内の名前は重複しませんが、他の名前空間内にある場合もあります。同じ名前の他の名前空間と区別するために、名前空間の名称には、通常名前空間識別子も含まれます。Portfolio Server 内の名前空間には、例えば IPTC のような様々なメタデータによって使われています。

-圧-

圧縮

ファイルサイズを減らしたり、転送時間を短くする目的で、使用されるビット総数を減らすためにファイルなどのデジタル情報をコード化する方法。多くの画像、ビデオ、オーディオフォーマットでは圧縮を利用しています。ZIP の項目も参照してください。

-埋-

埋め込み

他のファイルの中にオブジェクトを含めること。例えばフォントや画像などの構成要素を含む、自己完結型ドキュメントなどで利用します。ファイルにメタデータを追加する場合にも埋め込むと言います。

-変-

変換

ファイルフォーマットを他のフォーマットに変更すること。

-抽-

抽出

個別に認識が可能です。Portfolio では、ファイルからメタデータを抽出して、アイテムが登録されたカタログのフィールドにそれぞれのメタデータを取り込むことができます。

-拡-

拡張子

ファイル名の最後に付く、ピリオドで始まる文字列。ファイル形式を表します。例えば.DOC (Microsoft Word ドキュメント)、.JPG (JPEG 圧縮形式)、.INDD (Adobe InDesign ドキュメント) など。

拡張性

増大する仕事量にあわせて、または成長にあわせて拡張できるシステム。

-画-

画面プレビュー

ファイルがカタログに登録される際に、Portfolio が自動的に作成する低解像度画像。ファイルサイズが小さくなるため、オリジナルファイルを開くより素早く内容を確認することができます。

-発-

発行者

カタログ内のアセットに対して行える作業を決定するアクセスレベル。発行者はギャラリーの作成、カタログのヘアアイテムの追加や削除が行えます。

-監-

監視フォルダ

同期フォルダ。オートシンクフォルダ。Portfolio デスクトップクライアントで監視フォルダを設定できますが、ウェブクライアントからも使うことができます。

-管-

管理者

コンピュータハードウェアやソフトウェアシステムの設定を行うことができる人。アドミニストレータ。サーバー管理者、カタログ管理者の項目も参照してください。

-編-

編集者

カタログ内のアセットに対して行える作業を決定するアクセスレベル。編集者はアイテムのメタデータを編集することができますが、カタログへの追加や削除はできません。

-自-

自動化

システムが途中の操作無く一連の仕事を実行すること。Portfolio ウェブクライアントでは、スマートギャラリーを使ったファイルの自動検索、変換プリセットを使ったファイル変換とダウンロードの自動化、NetMediaMAX を使った自動化スクリプトの実行などが可能です。

-解-

解像度

(1) 画像やデバイスの縦横のピクセル数。例：HDTV の解像度は 1920×1080 ピクセルです。(2) 画像やデバイスの画素密度（一般的には dpi (dot per inch)、または ppi (pixel per inch))。例：レーザープリンタは 600 dpi の解像度を持っています。

-認-

認証機関

証明書に署名した名前が公開鍵を所有していることを保証するデジタル証明書をを交付する団体（例えば VeriSign）。Portfolio Server とウェブクライアントの間で暗号化されたコミュニケーションを許可するために、Portfolio Server でカスタムメイドの証明書を使うことができます。SSL の項目も参照してください。

-読-

読み出しのみ

(1) パブリックギャラリーは、作成した人以外のユーザーは編集することができません。(2) 閲覧のみのアクセス権限のユーザーは、アイテムを見ることはできますが変更や置き換えはできません。ディスク上の場所（読み出しのみになっているかもしれないファイルやフォルダ、ディスク全体）や、データベース内の記録やフィールドを参照することはできます。

-透-

透かし（ウォーターマーク）

(n) オリジナル画像上に適用される目に見える画像やパターン。透かしは、著作権や所有者が誰かということを明示します。また画像の無許可の使用を阻止します。(v) オリジナル画像に透かし画像を適用すること。Portfolio はダウンロードした画像に透かし画像を追加することもできます。

-閲-

閲覧者

カタログ内のアセットに対して行える作業を決定するアクセスレベル。閲覧者は、カタログ内のアイテムを見ることしかできない権限です。

連絡先

Extensis

1800 SW First Avenue, Suite 500
Portland, OR 97201
電話（無料）：(800) 796-9798
電話: (503) 274-2020
Fax: (503) 274-0530
Web: <http://www.extensis.com>

Extensis ヨーロッパ

Suite 18, Newton House
Kings Park Road, Moulton Park
Northampton NN3 6LG, United Kingdom
電話: +44 (0)1604 654 270
Fax: +44 (0)1604 654 268
Email: info@extensis.co.uk

カスタマーサービス

Web: <http://www.extensis.com/customerservice/>
パッケージ内の案内をご覧ください。

もしくは国内販売代理店までお問い合わせください。

技術サポート

技術サポートにご連絡いただく場合は、次の情報をご用意ください。

- お客様のシリアル番号
- お客様のコンピュータの設定（オペレーティングシステム、メモリ、ハードディスクドライブ、コンフィギュレーションなど）
- ご質問、または問題の説明（何がどういつきに起こったのかを具体的に）
- 電話番号（担当者からお客様への電話を希望される場合）

さらに、表示されたエラー番号またはメッセージおよび、関連するかもしれないと思われるその他の情報を書き留めておいてください。

よくある質問とその答え、トラブルシューティングのヒントについては、次のアドレスから Extensis の Web サイトをご利用ください。
<http://www.extensis.com/>

電話によるサポート

北米では、(503) 274-7030 にご連絡ください。

ヨーロッパでは、+44 (0) 1604-654-270 にご連絡ください。

日本国内では、製品パッケージに同梱されている案内をご覧ください。

索引

A

AppleScript, 99
auto-start, 90

D

deleting, 16

E

Edit Keywords command, 63
Explorer で検索, 89
Express, 87, 88, 89, 90
Extensis のお問い合わせ先, 118

F

Finder, 62
Finder で表示, 62

G

grouping items, 92

I

InDesign ドキュメントプレビュー, 22
IPTC, 25
item view, 64

J

Java, 99

M

Macintosh Finder, 62
master keywords, 64

N

NetPublish, 82

O

OLE Automation, 99

P

PixelLive, 42

PixelSafe, 42

Portfolio Express, 87, 88, 89, 90

Portfolio Server, 99

Portfolio ブラウザ, 75

Portfolio の自動化, 99

properties, 63

Q

QuickTime, 84, 86

V

Visual Basic, 99

Visual C++, 99

W

Web ページ, 77, 78, 79, 80, 82

Web ページテンプレート, 81

Web ページの作成, 77, 78, 79, 80, 81, 82

Windows エクスプローラ, 62

あ

アーカイブ, 75

アイテムのプレビュー, 39

アイテムプロパティ, 40

アイテム表示, 33

アクセスレベル, 13, 14

アップデート, 25

い

インデックス化, 21

インポート, 38, 66, 96

う

ウェブページ, 77

え

エクスプローラ, 62

エクスポート, 38, 66, 96, 98

お

オートシンク, 15, 57, 58, 59, 60, 93

オリジナルファイル, 41, 46

オリジナルを表示, 89

か

カスタマーサービス, 118

カスタムカタログタイプ, 99

カスタムサムネールフレームの作成, 35

カスタムの並べ替え順序, 30

カスタムフィールド, 67, 68, 69

カスタム表示, 35, 36, 37

カタログ, 13, 15, 92, 98

カタログオプション, 17

カタログタイプの保存, 99

カタログの種類, 99

カタログプロパティ, 13

カタログを開く, 88

カタログ管理, 95

カタログ作成, 23, 24, 101

カタログ作成オプション, 18, 101

カタログ作成のオプション, 20

カタログ名の変更, 17

カテゴリ, 70, 71, 72

き

キーワード, 20, 51, 63, 64, 65, 66, 67

キーワードの追加, 17, 69

ギャラリー, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 34

ギャラリーのコピー, 31

ギャラリーへのアイテムの追加, 28

ギャラリーを開く, 30

く

クイック検索, 47, 88

こ

コピー, 81

コンタクトシート, 56

さ

サーバーから提供されるカタログ, 13

サーバーに接続, 13

サイトロゴ, 78

サウンドファイル, 100

サムネイル, 22

サムネール, 35, 36, 43, 46, 100

サムネールを再作成, 46

サムネール表示, 33

し

システム要件, 10

す

スクリプト, 99

スプラッシュスクリーン, 95, 96

すべてのアイテムギャラリー, 27

スマートギャラリー, 31

スライドショー, 84, 85, 86, 95

せ

セールス, 118

そ

ソースコード, 82

た

ダブルクリック設定, 100

つ

ツールバー, 100

て

ディスクへの書き込み, 74, 75

テキスト, 68

テキストファイル, 98

テキストブロック, 68

デフォルトの検索, 51

デフォルトの保存済み検索, 51

テンプレート, 81

テンプレートをコピー, 81

と

ドキュメントテキスト, 21

ドキュメントプレビュー, 22

ドラッグ & ドロップ, 45, 63

ドラッグ&ドロップ, 69

ドラッグ&ドロップ, 15

ドラッグ&ドロップ, 46

は

はじめに, 9

パス, 20, 46

パスの変更, 46

パレット, 51

ふ

ファイルのコピー, 17, 41

ファイルの移動, 17, 41, 60, 100

ファイルの収集, 75

ファイルの除外, 23

ファイルの整理, 93

ファイルの電子メールによる送信, 73

ファイル名の変更, 94

フィールド値, 69, 96

フィールド値の割り当て, 69

フィールド値の編集, 69

フォルダの同期, 61

フォルダパレット, 57, 59, 60

フォルダ階層, 93

フッター, 78

プリセット, 18

プリント, 55, 56

プリント, 55

フレーム, 35, 36

プロジェクトプレビュー, 22

プロパティ, 25, 40

プロパティの書き込み, 25

へ

ページレイアウト, 22

ヘッダー, 78

ほ

ホームページ, 78

ホットキー, 89

ま

マスターキーワード, 51, 65, 66, 95

マニュアルへのご意見, 118

む

ムービーファイル, 86

め

メインウィンドウ, 12

メタデータ, 24, 25

メタデータのマッピング, 25

メタデータの抽出, 24, 25

メタデータの埋め込み, 25

メタデータプロパティ設定, 25

メタデータリスト, 25

メタデータ設定のマッピング, 24

ゆ

ユーザーインターフェイス, 11

ユーザー名, 100

よ

ようこそ, 7

り

リスト表示, 33

わ

ワークグループ, 91

ワークフロー, 91

漢字

移動, 71

一時, 28
一時ギャラリー, 27
隠す, 18
閲覧者, 13
横のアイテム, 55
仮レコード, 19, 20, 53
画像サイズ, 55
画像のバッチ変換, 42
画像変換, 42
回転, 43
階層化されたフォルダ, 93
環境設定, 100
監視フォルダ, 58, 59, 60
管理者, 13
企業セールス, 118
起動時, 30, 95
検索, 47, 48, 50, 51, 52, 53, 54, 88
 検索ツール, 49
検索ツール
 検索条件, 49
検索結果, 26, 48, 52
公開されたカタログ, 99
効率的なワークフロー, 91
更新, 23, 45, 46
高速カタログ作成, 15
再表示, 81
最後に追加されたアイテム, 26
削除, 16, 29, 30, 37, 41, 51, 59, 64, 66,
69, 71, 72
時刻, 68
修復, 98
書類のテキスト, 53
除外する単語リスト, 21
小数, 68
消失ファイル, 54
詳細オプション, 20, 21, 22, 23, 24
新しいカテゴリ, 71
新しいギャラリー, 27
新機能, 8
数値, 68
設定, 100
説明の追加, 17
置換, 69
追加, 69
統計, 13
日付, 68
破損したカタログ, 98
発行, 74
発行者, 13
非表示, 81
表示, 33, 34, 37, 38
部分的カタログ化のアイコン, 101
複数のカタログ, 52
並べ替え, 29
並べ替える, 29
別のファイルに再リンク, 44
編集者, 13
保存済みの検索方法, 50, 51
保存済みの表示, 36, 37, 38
名前の変更, 66
名前変更, 30, 37, 44
要件, 10